

第1号議案 令和2年度事業報告および令和2年度決算書類の承認について

令和2年度 社会福祉法人 仙台市手をつなぐ育成会 事 業 報 告 書

I 全体概況

1. 概 况

令和2年度は、新型コロナウイルスにより、特定された一部の地域や一部の人たちだけではなく、世界中のあらゆる人々が様々な制約の中で不安を抱えながらの一年であったと思います。

当法人においても例外なく、非日常の続く中、多くの企画や行事が中止や先送りとなり、コロナに翻弄され続けてまいりました。

これまでも私たちの仕事は「命を守ること」と考えて来ておりましたが、それはまさしく直接的な想いに至り、全ての職員たちは様々な我慢の生活が全ての命を守ることに繋がると実感し、ひたすらに努力してきました。

「我慢」や「諦め」や「出来なかつたこと」は確かに多かったです。でも変化が苦手な利用者方も「新しい生活様式」を何とか受け入れ、困難と思われたマスク着用も課題はあるものの大半の方々には定着するなどの新たな発見もありました。支援においても発想の転換や工夫から取組の幅は広がったようにも感じられます。

またコロナ禍にはありましたが、事業計画に従い「くるみの木」の建て替え工事に着手することが出来、現在は仮設事業所において、製造規模はいくぶんか縮小となっていますが、利用者・職員共に「新生くるみの木」で存分に活躍できるよう、技術の維持と更なる向上を目指して日々奮闘しています。

「みらい図」の提案であった「日中支援型グループホーム」整備につきましては令和3年度早々のスタートを目指してまいりましたが、数名の土地オーナーと協議機会を得ましたが、「障害者理解」が得られず、残念ながら未だに進展できずおります。コロナによる閉鎖社会が障害に対する偏見や差別を温存させ「共生社会」を阻むことに少なからず影響されたようにも思われます。しかしながら、法人事業所利用のご家庭事情や利用者の状態像の変化が顕著化し、既グループホーム入居者の高齢化等からニーズは増幅してきており、継続努力をしてまいります。

全体を通して、事業内容へのコロナの影響は大きかったものの、職員の感染予防対策の徹底努力と利用者家庭の理解協力により、日々の事業運営は継続出来てまいりました。また新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を活用しての安全対策を図れたことも大きな要因であったと思います。このため給付費収入につきましても、大きく落ち込むこともなく推移することが出来ました。

2. 令和2年度事業の経過について

1. 経営組織活動

- (1) 評議員会
- (2) 理事会
- (3) 監事会
- (4) 経営会議
- (5) エリア会議
- (6) 評議員・選任解任委員会
- (7) 施設長会議

2. 内部統制の構築

(1) 内部監査—給与プロセスに関する業務（18事業所）について

- ・おり～ぶ太白（8/25）・くるみの木（8/31）・コスモス（8/31）・おり～ぶ上野山（9/17）
 - ・工房けやき（9/25）・ふきのとう（10/16）・こぶし（10/20）・大野田はぎの苑（10/22）
 - ・おり～ぶ鈎取 11/19・サポートはぎ 11/25・工房かやの実 11/25
- （以下コロナ感染拡大により中止）・工房しらかば ~~12/22~~・ワークスもくれん ~~12/23~~
- ・とちのき ~~1/22~~・ワーキングギルド花梨 ~~1/20~~・コキア ~~1/22~~・本部事務局
 - ・おり～ぶ五橋・太白センター・宮城野センター・販売業務訓練等事業 ~~1/27~~
 - ・ホープすずかけ ~~2/8~~・おり～ぶ上野山 ~~2/16~~

(2) コンプライアンス委員会—2回実施

- ・「虐待防止委員会要綱の見直し」

令和4年度からの事業所毎に虐待防止委員会設置義務化となることに先立ち、努力義務となる令和3年度内を準備年度とし、現行要綱見直しの実施計画を策定。

- ・虐待関連報告

(3) 虐待防止委員会

前期… 6月 30 日, 8月 25 日

後期…11月 24 日, 2月 25 日（リモート開催）

（セルフチェック）5月, 7月, 10月, 1月に全事業所職員を対象に実施。

（関連研修会）

- ・「不適切な支援・虐待を防ぐために必要なこと」 10/23

講師：高橋彰彦氏（EDC 福祉医療学院講師…強度行動障害、介護福祉士実務者研修等）

- ・「利用者の立場に立って自分の支援を考える」 11/18

講師：法人職員

(4) 施設運営委員会—各事業所において年2回実施

(5) 安全活動委員会—2回実施

- ・事故を未然に防ぐ取組として、「ヒヤリハット」の重要性を各現場に周知徹底

3. 具体的な取り組み

(1) 勤怠管理システムの実効性

長時間労働を抑制し、働きやすい環境整備を目的の一つとして導入したシステムでありましたが、定刻打刻を強制するような間違えた対応事案が発生し、あらためて周知させる必要がありました。

(2) 経営企画室：みらい図

経営基盤の安定化に向け、事業の見直し・将来構想・課題の整理及び改善策について中長期計画策定に向けた協議検討を7回実施いたしました。

前年度提案した「日中支援型グループホーム整備」は具体的な動き出しに繋げることが出来ました。「異業種社会福祉法人との連携から学ぶ」ことについてはコロナ禍の影響が大きく具体化には至れってはいませんが、利用者の高齢化による状態像の変化が顕著となっており、新型コロナが収束に至り次第、再度進めたいと考えます。またリモートによる研修形式等、可能な手段も検討したいと思います。

(3) くるみの木建て替え

コロナ禍の影響により、幾分かの遅れはありましたが、無事に「地鎮祭」を執り行い、今秋落成に向けて進んでいます。仮設での営業についても利用者方の大きな混乱もなく、ベーカリー事業につきましても工房しらかば・工房かやの実の協力を得、継続出来ています。

(4) 地域生活のニーズに応える支援体制の構築

「みらい図」からの提案による高齢化した入居者の方の住み替えや、入居希望者の状態像から、オーナー型「日中支援型グループホーム」整備を進めてまいりましたが、障害理解が得られず滞っている状況です。しかし、法人全体として必要性について意思統一できるよう、折につけ周知を図っていきたいと思います。

(5) 人財育成の強化に向けての取組

・特定処遇改善加算と法人の資格取得報奨金制度の効果からか、国家資格取得者が増えており、支援力の向上に繋がるものと期待します。

(6) H A C C P 義務化に基づく衛生管理の徹底については、給食はじめ食品製造に関わる全ての事業所で準備を進めています。

(7) 安全衛生活動を推進し、労災を無くすよう努めることについては、前年27件でしたが、13件と減少させることができました。

また職員全体の61%を女性が占め、出産に関わる休暇を安心して取得できるシステムとして年央より「産休・育休復帰支援面談シート」を作成し活用を始めました。

(8) 「家族会」に対する協力と連携につきましては、企画の大半は実施されていませんでしたが、新型コロナ感染予防対策として、マスクや消毒液を各事業所へ寄付いただきました。

(9) 職員懇親事業の開催

新型コロナウィルス感染予防の観点より全ての企画を中止いたしました。

残念ながら新人職員はじめ 他事業所職員同士の直接的な交流を図ることは出来ませんでした。

(10) 就労継続事業並びにおり～ぶ 4 事業所の経営改善

コロナ対応が中心となり、それぞれの事業所における目前の課題対処に追われ、先々の見通しを持った経営改善に向かうには至りませんでした。

(11) ワークスもくれん・とちのきの将来構想の検討開始

課題の洗い出しを含め、具体的な検討にも入れずにおきました。

4. 組織機能の充実

(1) 法人本部事務局の強化

現状においてはほぼ体制も整い、安定した事務職員の業務遂行能力から、通年業務のスムーズ化が図れてきました。

(2) 部門間の連携強化

これまで以上に他事業にも関心を持ち、相互理解を図ることで連携強化に努めたいと考えてまいりましたが、コロナの影響により出入りを最小限にするなど、交流自体が進まずにいました。

(3) 関係機関、施設その他の社会資源との連携についてはこれまで同様努めました。

5. 研修体制の充実

人財育成部会を中心として、年間計画に基づき「虐待防止」や「てんかんや自閉症等の障害理解と対応等」経験年数等階層別に対応した内容で実施いたしました。

6. 防災・援助対策の徹底

それぞれの事業所において、これまで準備した B C P について都度見直しを図るように努めました。「新型コロナウィルス」をはじめとした感染症対応につきましても、この 1 年で大きく情報が変化し続け、クラスターの発生等あらゆる状況を想定したマニュアルを整備し、社会情勢に対応しながら検討を重ねています。

7. 地域における公益的な取組を実施する責務

大半の事業がコロナ禍の影響により中止いたしました。

(1) スポーツレクリエーション事業

(2) フットベースボールチームの運営

(3) 学生向け福祉講座の開催

(4) 福祉ショップの運営（エスピアル内ゆめの森・生協幸町店はあと）

感染予防に最善の努力をし、事業継続をいたした結果、エスピアルにおいて「年間大賞特別賞」を初受賞することが出来ました。

(5) 小中学校児童・生徒を対象とした事業所作業体験講座の開催

(6) 障害のある方向けのおしゃべりサロンの開催

3. 施設・事業における取り組み

事業所ごとに生活支援・作業支援・余暇活動支援など数項目を設置し、それぞれの計画・実績・課題ごとの検証を行い、その結果の詳細を各事業報告書に集約しました。本報告書には特筆すべき事項のみ掲載します。

◆第二種社会福祉事業◆

◇障害福祉サービス事業（生活介護）

	作業支援	生活支援
大野田はぎの苑	<p>○下請け 昨年度から作業量が低下していたところに、新型コロナウイルス感染症蔓延による影響もあり、作業量は更に激減した。箸入れや健康診断容器の作業等、特定の作業を細々と続けました。感染症対策と作業激減のため、長年お世話になっていた地域ボランティアの方々との交流もなくなりました。来年度も、いただける作業を大切にしながら業者とのやりとりを続け、下請けにこだわらない別の作業提供についても前向きに検討していきます。</p> <p>○染め・機織り コロナ禍でマスク不足の中、前半期は「染めマスク」作りに着手したことが功を奏し、販売訓練事業で例年になく売り上げを伸ばすことができました。他の作業が低迷する中での染め作業は、利用者の製作意欲向上につながりました。 一方、販売イベント開催中止が相次ぎ、その他の製品の売り上げも激減しました。マスク需要は落ち着いたため、今後コロナ禍における製品開発や販売のあり方について、検討を重ねていきます。</p> <p>○個別活動 販売イベント中止に伴い、製品を販売する機会はほとんどなくなりました。作業内容の見直しは進んでおらず、毎日の活動や作業に取り組む日々が続いました。来年度は、計画をたて見通しをもって製品作りに取り組んでいきます。感染症対策として、居室を分散し距離をとることが結果、作業に集中しやすい環境へとつながりました。</p>	<p>○食事提供 新型コロナウイルス感染症対策のため、食事提供方法を大幅に見直しました。前半と後半で食事提供の時間帯を分け、アクリル板設置や席の分散等で密にならない食事提供を徹底しました。 利用者の摂食の様子を確認し、アーチル作業療法士の指導を受けながら安全に食べられる食形態について見直しを行いました。また、食事中の「むせ」や「窒息」等に備えて随時職員間で情報共有をしている。引き続き、安全に楽しく食べられる食提供を目指していきます。</p> <p>○健康活動 健康増進センターのスタッフによる指導を受けながら、通年で健康増進活動を実施しました。また、健康維持のため午前の作業前の時間にウォーキングに出かける等、若い年齢層の利用者の運動量確保に努めました。 高齢期を迎える方々を中心に「さくら班」なる生活班を新設、午前の時間からストレッチや散歩等に取り組み、他利用者と別目メニューでの健康増進に努めました。開始初年度ということもあり手探りで活動してきたため、改善の余地は多く課題もあります。</p> <p>利用者年齢層が幅広いため、引き続きそれぞれの年齢に合わせた活動を模索、健康な身体づくりを目指しています。</p> <p>○健康管理 感染症対策を第一に取り組みました。家庭と連携して毎日の健康状態の把握に努め、加湿や換気、手洗いや消毒等、ウイルスが蔓延しないような環境づくりに努めました。 引き続き看護師と連携し、家庭の協力を仰ぎながら利用者皆さんの健康生活維持に貢献していきます。</p> <p>○送迎サービス 定期送迎を6便運行しました。その他、必要に応じて臨時の送迎便も運行しました。感染症対策として、乗車人数を減らし便数を増やしました。</p> <p>○地域交流 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、例年開催していた「染め教室」「はぎまつり」を中止とし、地域住民との交流はできずに終わりました。</p> <p>○その他 QC手法を用いて職員間で利用者支援について取り組みました。次年度も利用者支援の質の向上を目指して、手法を活用していきます。 消防署による普通救命講習を職員が受講し、救命活動時の行動について学びました。</p> <p>○公益的な取り組み 新型コロナウイルス感染症の流行拡大につき、予定していた「染め教室」「はぎまつり」は中止となりました。</p>
工房しらかば	<p>○ 作業支援</p> <p>○ 食品加工(ベーカリー) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により予定していたバザーの殆どが中止となり、季節商品の販売や地域住民に向けて「パンの定期便」としてチラシを配布し配達を行う等、工房しらかばから情報を発信することに力を入れました。また、本格的なH.A.C.C.P導入に向けて最終的なマニュアル作成も行いました。令和3年度からのベーカリー作業縮小に向けて利用者・保護者への説明と製造できる種類の精査、契約を取り交わす事業所の精査を行い、くるみの木への移行を行いました。一方で、衛生面での徹底不足による異物混入もあり製造ライン・衛生面等の見直しも行いました。</p> <p>○ 環境整備</p>	<p>○ 生活支援</p> <p>○ 衛生・健康支援 コロナ禍での健康診断となるため、複十字健診センターでの健康診断に参加するか各ご家庭に確認を取ったうえでの実施となりました。この健診で利用者の体調不良も発見でき早期治療に繋がったケースがありました。また、新型コロナウイルス感染防止策として各利用者・職員には毎朝検温の記録を依頼し実践しました。併せて蜜を避けるための配置設定、定期的な館内消毒、手洗いの徹底、マスク着用等できる限りの感染症対策を行いました。</p> <p>○ 給食支援 利用者個々の状態に応じた食事形態や、疾病に応じた配慮食（個別食・ダイエット食等）の提供を随時行いま</p>

地域清掃について、契約している現場の清掃やしらかば館内の清掃を中心に行いました。所内は各作業班の清掃箇所やトイレ・食堂等の清掃を行いました。一度所外清掃の日程を間違えてしまい別日に設けたことがありました。リサイクルについて、利用者のご家庭や育成会内の事業所や地域の方々の協力のもと、紙・ダンボール等の定期的な回収・運搬を行い作業の定着化に繋がりました。園芸作業は、それぞれ意欲的に取り組みました。

○ 機織り

利用者の高齢化に伴い、これまで以上に健康状態の把握に努める機会が増えました。新型コロナウイルスの影響で織会議を定期的に開くことができませんでした。工芸展については、新型コロナウイルス感染拡大により予定していた場所で開催できず、工房しらかば内で規模を縮小して開催となりました。初めての試みとなりましたが、日頃からの作業に対する思いをご家族の方々に感じて頂いたことで利用者の励みにも繋がりました。

○ 下請け加工

5月の緊急事態宣言を受け箸注文が激減しました。この為箸入れ作業が提供できない時は、各利用者の得意な面を活かすことができるような作業を見つけて提供することで利用者とのコミュニケーションも広がり利用者の新たな自信に繋がりました。

した。また月1回給食会議を開催して、支援職員と厨房職員間で食に関する課題を検討し利用者の状況を周知しました。新型コロナウイルス感染対策として、密な状態を避けた食事提供と衛生面に配慮した配膳を徹底するよう努め、配膳が遅れた時もありました。また、配慮食を誤って他の利用者に配膳してしまうことがありましたが大事には至りませんでした。

○ レクリエーション活動

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ボランティア団体の来所は控えて頂き外部講師は限定した講師のみとしました。また密な環境を防ぐため、小グループに分かれた活動を提供しました。新たな活動として、リラクゼーション活動・アート活動を提供しました。

○ 地域貢献

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、予定していた活動はすべて中止となりました。

○ 送迎サービス

安全面に配慮し当年度から公用車1台につき添乗職員一人を配置しました。また年度途中から新型コロナウイルス感染拡大や利用者・保護者の高齢化に伴い、送迎サービスの利用ニーズが高まり満席の状態となりました。このため、コースの再検討や一台で2回往復が必要となるコースもでてきました。

○ 安全管理

安全管理についてすべての職員が知識を深めができるよう、救急車の手配や緊急時の対応方法について全職員を対象とした救命救急講習を受講しました。昨年度も実施したことで、より救命救急の処置方法がスマーズに行えるようになりました。また感染症に対応した緊急時対応フローを作成し、緊急時スマーズに対処できるよう努めました。

4月に新規利用者1名が入所しました。昨年度からの新型コロナ感染状況を鑑み、継続して日々の様々な場面や環境にて予防対策を行いながら、利用者の活動提供の充実化と共に、健康面の把握に務め、併せてご家庭との連携を図り、安定した1年を過ごすことができました。

○ 作業・活動支援

縫製班では、アクリルたわしや編みぐるみなどの製作に取り組みました。例年の各バザー出店は困難な状況であったが、材料の色や素材について縫製班で話し合い、流行りのデザインや干支に因んだ製品を参考にしながら収益に繋がるよう模索し、定期的に所内販売を行なながら、収益に繋げました。

七宝班では、新型コロナ感染症予防対策製品（タッチリング）を開発に励み、タッチパネル環境に安全に対応可能な製品として好評であり、高い収益に繋がりました。今後も時代の移り変わりにより、七宝材料について次第に高騰している現状と、また購入する側の使用頻度の少なさを理解し、伝統として作業を継続しながら、新しい材料での方向性を見出せるよう検討していきます。

受注作業においては、様々な影響により作業量が減少したが、それぞれのペースですすめることができ、利用者の安定した取り組みに繋がりました。併せて、一つひとつ丁寧に正確に仕上げられるよう、受注作業を行うメンバーに丁寧に説明し、利用者、職員が協力しながら取り組みました。

エコ平板は、質の高い製品が求められ、利用者が取り組む工程が限られてしまうことが課題としてあげられます。また、昨年同様震災復興開発計画及びオリンピック各会場開発計画の一つとして担っていた作業であったが、復興計画終えた時期と共にオリンピック会場計画一部変更があり、これまでのような収益は得られませんでした。今後は、新たな建築形態として改められる為、その都度対応可能な柔軟な体制を整えられるよう検討していきます。

アート活動においては、アートカレンダーの制作及び販売について予定通り収益となつたが、これまでの障害者アートを支援する団体等の連携について、当年度は新型コロナの影響により中止となりました。また、スターバックス仙台エスパル本館店、台原店、石巻店においての作品常設は継続して展示していきます。

○ 生活支援

生活介護プログラムにおいては、これまでの散歩について難しい状況であったが、室内でのストレッチや軽運動の機会をこれまで以上に増やし、またCDやDVDにあわせて充実感を高めながら、利用者の高齢化における筋力の維持や健康増進を意識して取り組みました。

また、ご家庭と連携を図り、日々利用者の生活状況の把握に努めました。

○ 行事

当年度は様々な状況を鑑み、各行事について年度当初に利用者・家族に対して説明をし、年間で行う予定であったすべての行事の代替えとして、3グループに分けた貸切りジャンボタクシーでの移動とホテルの貸切りスペースにて昼食（ランチセットメニュー）の提供を行いました。帰りのジャンボタクシーにて、仙台市内をドライブし、短い時間ではあったが外出を楽しむことができました。

○ 健康管理

当年度は、これまで以上の感染症予防対策の周知徹底を図り、事業所及び公用車の終始換気の徹底と各場面においてソーシャルディスタンスを継続し、全員で「1行動1マスク」の消毒を習慣化し継続していきます。併せて、看護師と共にバイタルチェック等で日々の健康管理を行い、病気の早期発見・早期治療・怪我の防止に努めました。また、手洗いの呼びかけ、施設内の消毒や定期的なオゾン機を使用することで、さまざまな感染症予防対策にも配慮していきます。その為、当年度は罹患者がない結果であるが、ご家族含め今後も様々な状況について柔軟に対応できるよう備えていきます。

○ 防災安全対策

当年度は、これまでの危機管理意識を改め、何より生命維持と安全面を最優先した取り組みとして、職員全員で普通救命講習を受講し基礎的な救命技能を学びました。併せて、事業所入口にAEDを設置し、事業所内外において瞬

こぶし	<p>時な対応を行えるよう備えました。また、定期的な避難訓練、施設内の自主点検の実施と共に、館内の美化に努め、避難経路の確保を心掛けました。</p> <p>○公益的な取り組み</p> <p>当年度は、こぶしまつりや災害時の地域との共助を意識した、鹿野連合町内会の催事の実施は難しかったが、現況にあわせた地域連携や近隣の身近な存在として認識を高められるよう工夫していきます。</p>	
	<p>生活支援</p> <p>利用者および保護者の高齢化に伴い、主たる介護者の逝去などの理由から利用者本人の生活が一変するケースが増えています。そのため福祉サービスの利用や暮らしの場の整理など事業所単位ではなく、ニーズに沿って他職種間の連携も必須となってきています。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、感染防止を第一とした生活支援の在り方を考えさせられる一年でした。</p> <p>【給食支援】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、給食提供時間帯を大きく3部制に分け、その中でもさらに個別に食事開始時間を分けることで密を避け、利用者同士の相性などの人間関係にも配慮し提供しました。また、嗜好や食事の摂食状況を隨時把握しながら、食事量の調整や食べやすい形態での提供を行いました。</p> <p>【送迎サービス】 家族の高齢化によって送迎が困難になってきているケースや、本人の身体状況の変化に伴う送迎利用者が増えています。臨時に送迎を利用する方は少なかったです。また、近年新規利用者の送迎利用のニーズが非常に高く、対応策の検討については課題です。</p> <p>【安全対策】 日々の支援の中でのヒヤリハット報告から、対策を検討・実施し、毎月の事業所安全活動委員会にて、職員全体での状況確認と振り返りを行いました。</p> <p>【IQCについて】 利用者の給食に関するテーマとして「13時には食べ終わり作業を開始できるようにする」と設定しました。対象を利用者6名に絞り給食時に必要な支援をそれぞれ共有しました。声がけの方法やスプーンの使用、食べる時間帯の変更などを検討し、実行しました。また、対応する職員を明確にするために確認ボードを用いて情報共有を図りました。今後もIQCの手法を活かし活動に取り組んでいきます。</p> <p>○健康管理 業者委託による健康診断を10月に実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎日の体調チェックおよび検温を実施しています。また、毎月看護師による体重・血圧測定を行い、所内消毒・作業室のオゾン除菌を利用者降生後に毎日実施しました。日々の感染症対策を行ったことで感染症予防および拡大防止を図ることができました。</p> <p>○虐待防止に関する取り組み 3か月に1回チェックリストを実施し、支援における悩みや問題点を共有し、支援方法の見直しを提案しながら取り組みました。</p> <p>○公益的な取り組み 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年実施していた地域工芸教室は中止しました。コロナ過での「おうち時間」を楽しんでもらえるよう、干支(丑)の工作キットを東中田子供会へ108セット無償で提供しました。</p>	<p>作業支援</p> <p>利用者の高齢化や身体状況の変化に伴い、作業の提供内容や環境整備については工夫が必要になっています。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各種バザーの中止や取引きの打ち切りなどが相次ぎ、販路の確保や方法の見直しが急務でした。新たな戦略として利用者の労務費の確保のため、新たにインターネット販売を企画し、3月より実施しました。</p> <p>○木工 収入においては特注やインターネットの注文が例年を下回り、新型コロナウイルス感染拡大の影響で各種販売会の中止の理由から売り上げが減少しました。しかし、マスクの製作による収入増により当初の売り上げ目標を達成することができました。次年度は青森ひば製品の現デザインの一新を図り、販売促進を進めます。また、既存の作業に気が進まない様子や実際に取り組む時間が短い方への作業提供や、過ごし方について検討を進める必要があります。</p> <p>○手芸 新型コロナウイルス感染症流行の影響から、4月の販賣の受注が激減しました。そのため、新たにマスクやマスクケースの製作を行いました。また、エコバッグとスクエアバッグ、毛糸のクリスマスツリーも考案し売り上げにつながりました。今後も売れ筋製品については計画的に販売準備を進めることができます。</p> <p>○エコ 前年度より取り組んでいた野菜作りを拡大し、夏、秋と継続して利用者の活動として提供することができました。新製品としてタイル鍋敷きを作成し、収入を得ました。次年度はより利用者が携わることができる作業を検討し、提供していきます。</p> <p>○その他の作業(クロネコDM便) 収入においては当初の目標額を達成することができました。利用者の施設外活動としてのニーズは高いが、年間の受注量が減少傾向にあります。そのため、受注がない時の作業提供を明確にしていくことが必要です。</p>
工房けやき	<p>生活支援</p> <p>利用者21名で新年度スタートしました。コロナ禍により、仙台市中心部にある当事業所としては外出を兼ねた日中活動は控えざるを得ず、内容を大きく変更して日々支援を提供しました。また家庭環境や体調不良等により、数名長期欠席をする方がいたため、家庭訪問等を行うケースも発生しました。</p> <p>○基本的生活習慣の支援 利用者一人ひとりの状況や必要な支援について、日々のミーティングで職員同士共通認識を持ち、課題の解決に向けて検討を重ねました。</p> <p>○スポーツ、余暇活動支援 新型コロナウイルスの影響で、例年木町通市民センターで行っていた活動（3B体操など）の代替えとして、事業所内で軽運動（ダンスなど）の時間をより多く設けました。また個別活動として、ストレッチなど各種体操を行う時間も提供しました。</p> <p>次年度も引き続きスポーツや余暇活動等の支援を継続し、健康増進、生活の質の向上を目指します。</p> <p>旅行会や新緑会など、外出を伴う行事の多くは中止とし</p>	<p>作業支援</p> <p>○アート活動 他事業所からエコバッグやポスターカードの受注を受けたり、新たなデザインを作成するなど、利用者と相談をしながら取り組めることが出来ました。 また手芸製品にも力を入れ、フェルトボールを使った季節の製品（ストラップ、リースなど）、毛糸で織った製品（コースターなど）を販売し、好評を得た。またより多くの利用者が取り組める作業として定着してきました。</p> <p>○リサイクル活動 保護者より空き缶を定期的にいただけたことで、安定した作業として提供することが出来ました。またエコポットも材料となる紙を細かくちぎったり、機械を使用</p>

ましたが、11月の趣味の会は、テーマごと少人数グループで近隣の市民センターをお借りしながら実施しました。また年忘れ会も、他事業所に比べ当施設は少人数であることから、昨年度同様ロイヤルパークホテルの広い会場で実施しました。ホテル側の万全なコロナ対策や、ソーシャルディスタンスを取りながら、例年とは異なった内容で行うことが出来ました。

○安全対策

全職員対象で、救命救急講習を実施しました。心肺蘇生法やAEDの使用法を改めて学ぶことで、落ち着いて救命に取り組む心構えを改めて確認することが出来ました。今後も定期的に行います。また、毎月職員会議内でヒヤリハットの確認を行い、危険箇所や利用者支援で必要なことを随時共有し、実践しました。

○健康管理

新型コロナウイルス感染症対策として、事業所内でのマニュアルを作成しました。利用者職員全員毎朝・日中の検温、常時室内の消毒や換気、感染症対策の物品の準備など徹底したこと、現段階での事業所内では感染者や濃厚接触者は出ていません。また、手洗い等の徹底により、例年より体調不良での欠席者は減少しました。

○食事

家庭との連携、栄養士やアーチルの指導のもと利用者の身体状況や嗜好を考慮した食事の提供を行いました。また一口サイズに刻んだり、柔らかく調理しての提供など、個別対応にも応じています。新型コロナウイルスの影響で、月1回行っていた外食の代わりとして、出前でのお弁当など今までとは異なった形態で食事提供を行うことにより、利用者の食事に対する楽しみとなっています。

○非常災害対策

震度5以上の地震が発生した際は、各家庭に安否の確認を迅速に行なうことが出来ました。また災害用備蓄品の再整備を行い、今後起きた災害に備えています。

して作成するなど、それぞれ役割を持って行なうことが出来ました。

○缶バッジ製品

毎年出しているイベントが軒並み中止となり、年度中稼働することができませんでした。販売先について検討を重ね、また新たなデザインを検討します。

○受託作業

新型コロナウイルスの影響や受注先の都合により、受注量が大幅に減小しました。いただいた作業（ポスター折り、マスクの梱包など）は、多くの利用者が携わりながら進めることができました。

○公益的な取り組み

例年行っている近隣の公園等のゴミ拾いは、新型コロナウイルスの感染の可能性を考慮し行いませんでした。今後は違った形で活動を検討していきます。

◇障害福祉サービス事業（生活介護・就労継続B）

ホ ー プ す ず か け	生活介護	就労継続支援（B型）
	<p>4月より新規利用者2名（就労B2名）が入所し、利用者は合計60名となりました。うち15名がグループホームに入居しており、日々仙台ふきのとう（北部、南部）、ヘルパーステーションコスマススタッフとの連携に努めました。</p> <p>4月、5月はコロナウイルス感染症予防として生活介護利用者の利用日調整を実施しました。</p> <p>利用者50名が定期送迎サービスを利用しました。日々の9コースを運行し、パートドライバーと協力して車内・車外の安全・安心の確保に努めました。</p> <p>利用者、保護者の高齢化によりこれまでの生活形態に変化が必要な方については、スムーズに利用者、保護者の安心を基盤とした生活の移行を各種機関と連携しました。</p>	<p>4月より新規利用者2名（就労B2名）が入所し、利用者は合計60名となりました。うち15名がグループホームに入居しており、日々仙台ふきのとう（北部、南部）、ヘルパーステーションコスマススタッフとの連携に努めました。</p> <p>4月、5月はコロナウイルス感染症予防として生活介護利用者の利用日調整を実施しました。</p> <p>利用者50名が定期送迎サービスを利用しました。日々の9コースを運行し、パートドライバーと協力して車内・車外の安全・安心の確保に努めました。</p> <p>利用者、保護者の高齢化によりこれまでの生活形態に変化が必要な方については、スムーズに利用者、保護者の安心を基盤とした生活の移行を各種機関と連携しました。</p>
○ビーズ作業	<p>年間通し計画的に季節に応じた製品づくりを行うことができた。また、利用者のニーズや情緒の変化、加齢に伴う身体変化、作業目標を職員間で共有し、支援計画書に沿った作業や環境を整えて作業を提供しました。</p>	<p>○全体</p> <p>利用者の達成感を大切にしながら作業提供、個別支援を行いました。（実習への取り組み、意思表示、気持ちの共有、作業の分担）特にお楽しみ会は、年間で11回開催する事ができ、メインの利用者の希望を沿い、相手を思いやる機会となりました。</p>
○コーヒー作業	<p>通常の豆挽き作業に加え、ドリップバッグ詰め作業を取り組みました。ドリップバッグづくりの工程を細かく分担することで、利用者が製品づくりに多く関われるようになりました。生豆の選別を周囲に呼びかけを継続したこと、スムーズに製品準備を行うことができました。</p>	<p>コロナウイルスの感染対策の為、販売会が中止または、感染リスクを考慮して出店を中止しました。菓子製造から下請けをメインの作業に転換させた事で、職員が個別対応を充実する事ができました。「ヨシケイを拭きあげて完成」という目に見える作業に向けて見通しを持つて取り組み、達成感を味わう事ができました。</p>
○アート作業	<p>フェルトボール、紙ちぎり、ちぎり絵、カレンダーの製作を行います。カレンダー製作では多くの利用者が様々な工程に携わることが増え、当年度は56部売り上げることができました。すずかけのロゴをちぎり絵製作し、コーヒーの新たなパッケージデザインになりました。</p>	<p>コロナウイルス感染対策や、作業種の変化に伴い、十分な休憩スペースや作業スペース、作業時間の確保に課題が見えました。</p>
○リサイクル作業	<p>アルミ缶と古紙・段ボールを寄付してもらったことで作業を継続して提供することができました。得意な作業分野ごとに体制を組むことで、利用者一人一人が流れを意識しながら取り組むことができました。</p>	<p>○和風菓子製造</p>
○個別	<p>利用者の状態に合わせて室内の機能訓練だけではなくアロマテラピーや屋外での園芸、配達を行いました。コロナの影響もあり、外出活動が減少したが、室内の訓練に加え、少人数でドライブウォーキングを実施し、気分転換の機会としました。</p>	<p>販売担当で企画し、お元中、お歳暮、年間ギフト、初売りを実施しました。すずかけ内では、お知らせを不定期で配布し、予約販売を実施しました。各施設やみやぎセルフと連携し、福の市や受注販売に関わり、売り上げを得ました。受注による製造に切り替えた事で材料のロスを抑えました。</p>
○下請け作業		<p>ヨシケイシート拭き作業の始点、終点の明確さと前日に作業量の見通しが立つことで、メンバーの多くが安定して取り組めています。</p>
		<p>オーシャンサプライ（テプラ部品解体）は、作業が切れる事なく、メンバーの多くが関わっています。</p>
		<p>ぱどは11月で廃止しました。アドポスのポスティング作業は住宅街の配置や作業量が安定し、メンバーの多く</p>

が関わっています。

アジアプラットフォーム（ホテルアメニティ仕分け）は、コロナウイルスの影響で、作業量に見通しが立たない状況ではあるが、作業の依頼が続いている。

エフアシストの「ソーシャルプロテイン」事業に取り組みます。

○販売

台風等の災害やコロナウイルスの影響で予定していた販売の機会が減り売り上げに影響がありました。その中で鶴ヶ谷地区のバザーではリピーターが多く来店し地域の中での存在を確認できました。ホープすずかけ2階に販売スペースを設けたが環境的な手狭感、品ぞろえの課題があり、充分に機能することができませんでした。

○食事提供

利用者の個々の嗜好・嚥下や咀嚼等の身体状態に応じ、看護師、栄養士、アーチルPT等の意見も参考に、配慮食提供を行った。併せてグループホームスタッフとの情報共有に努めました。

○健康管理

感染症対策として日々の検温と手洗い、消毒の励行、登所時のウィルスブロックスプレー噴霧等を行いました。成人病予防協会の協力のもと健康診断は例年同様に実施しましたが嘱託医による内科健診はコロナ感染の影響で中止となりましたが健康面の相談がある利用者に対しては看護師、嘱託医より助言をする機会を設けました。11月インフルエンザ予防接種を実施しかかりつけ医による接種を行いました。

○防災対策

毎月1日実施の災害伝言ダイヤル模擬テストを継続し、避難訓練においては実際のサイレンを使用して実施しました。

台風等の災害時には緊急連絡や必要があれば各利用者宅への確認の連絡を行いました。

○公益的な取り組み

これまで地域の恒例行事としていたリース教室をはじめ所内活動におけるボランティアの受け入れはコロナ感染の影響で中止となりました。コーヒー製品の注文、販売、配達を通して地域交流を行いました。

4月より新規利用者1名（生活介護）が入所しました。その後、5月末で利用者1名（生活介護）が他法人の就労継続支援B型に異動のため、退所しました。生活介護及び就労継続支援B型事業共に利用者一人ひとりの想いを大切に、活動、作業の充実化を図り、安定した支援を提供することができました。また、利用者自らが意思決定できるよう、選択する楽しみが自覚できる活動の提供に努めました。

○行事

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、生活介護、就労継続支援B型共に旅行会、茶会（年2回）を中止しました。感染予防を徹底しながら、選択行事「じぶんでえらぶ季節の行事」（年3回）を実施しました。その他、自治会主催のお茶会や季節行事は少人数で開催することで楽しむことができました。

○健康

健康診断、看護師によるバイタルチェックを実施し、利用者が健康に過ごせるよう配慮しました。また、感染症予防のため、食前の手洗い支援の徹底と利用者降所後、施設内の消毒、オゾン空気清浄機を使用し感染症予防に取り組みました。その効果もあり、所内でインフルエンザや他感染症も起らず、元気に過ごすことができました。

○給食

利用者個々に合わせた食事の提供、「軟菜食」や「アレルギー対応食」「減塩対応食」「糖尿病対応食（マンナン低カロリー食）」などの代替え食を提供しました。また、季節を感じられるメニューの提供も実施しました。

○防災・安全

火災や地震を想定した避難訓練を実施しました。また、災害伝言ダイヤルの体験を毎月実施しました。次年度も様々な震災を想定した訓練を実施すると共にBCP（事業継続計画）の見直しや更新を図っていきます。

○送迎サービス

4コース実施しました。安全運転に努めましたが、送迎前、職員単独の接触事故もあったため、今一度安全運転を意識し、慎重な運転を心掛けていきます。

○公益的な取り組み

毎日利用者降所時に合わせ、バス停までゴミ拾いに取り組みました。

生活介護	就労継続支援B型
<生活支援>	<生活支援>
○日中活動 外出・ウォーキング・エクササイズ・創作・園芸・DVD鑑賞や個別活動を実施しました。また、月2回、外部講師による「音楽教室」も行いました。	利用者一人ひとりが「働く」ことを意識できるよう、また社会性を身につけることができるよう配慮しました。更に個々のスキルアップと工賃アップを目標に取り組みました。
○体力、運動機能維持 健康増進センター職員の指導のもと「運動教室」を開催しました。当年度は、若林体育館の「シニアエクササイズ」には感染予防の観点から参加せず、所内で利用者の健康増進を図ると取り組みをおこないました。その他、ダンスの時間等、体を動かす機会を積極的に設けました。	支援学校の実習生を積極的に受け入れ、新規利用者の確保に至りました。利用者の高齢化による作業量の低下も見られるようになりました。今後も新規利用者の獲得に向けて取り組んでいきます。
<作業支援>	<作業支援>
○木工～1年を通して、箸置き・干支マスコット（子）の製作を中心に行いました。	○他事業所への配食サービスに伴う作業と施設内給食提供作業に取り組みました。
○手芸～期間限定販売の『あまびえさん』が大ヒットしました。他にも、羊毛フェルトを使用した製品作りに取り組みました。下地となるフェルトボールの作成は、多くの利用者が取り組める作業となりました。	○施設内惣菜販売を実施しました。 ○日々の清掃の他、土曜開所にて定期的大掃除を実施し、清潔な環境作りを行いました。

- 下請け～6社からの受託がありました。途切れることなく仕事が入り、一年中コンスタントに取り組むことができました。贈答用ハム商品の受託販売も行いました。
- リサイクル～新聞紙・段ボール・アルミ缶などを仕分けをし、リサイクル業者に納品しました。

◇障害福祉サービス事業（就労継続支援B型）

	作業支援	生活支援
工房かやの実	<p>○ベーカリー作業 個別支援計画に沿って利用者が一つ一つ技術を習得できるよう支援を行いました。 向陽台保育所の民営化に伴い取引が終了し、旭ヶ丘保育所と新規契約を取り交わす事ができたものの、その他の販路拡大については結びつかず売上げは減収となりました。 原材料の高騰に伴ない取引先業者を選定、仕入れ価格の見直しとコスト削減、併せて令和2年4月1日より食品表示法の栄養成分表示義務化に向けて、商品一つ一つの栄養成分を算出し表示も行いました。 H.A.C.C.Pへの準備は、法人内のベーカリー事業所間で連携を図り準備を実施する予定としています。また、新製品の製造にも力を入れ売上向上を目指しました。近年体力等の低下が見られ従事する利用者が減ってきていることから、改めて新規利用者の育成と作業技術の維持、定着を図ります。</p> <p>○受託作業 個々の障害特性を踏まえ、食堂も作業室の一室として利用しながら作業を提供をしました。 年度末からコロナ禍の影響で作業量が低調となり、特に旅館やホテルからのタオルが激減しています。 主にあるアールコーヒー、フェイス、野崎印刷、倉持、飯塚商店と取引を行い各取引先と連絡を密にすることで切れ目なく作業提供することが可能になりました。 コロナ禍の影響もありましたが売上げ前年比9.5%に抑えられました。 エコポットの売れ行きが伸びないこともありエコポットの製造量を減らしており機材のレンタル契約満了とともに終了予定としています。エコポットに携わっていた利用者は他の作業へ促し日々取り組んでいます。</p> <p>○児童相談所清掃業務 児童相談所での施設外就労では従事者の入れ替わりがあったものの、清掃業務に携わることが出来たことで就労に対する意欲を育むことに繋がっています。清掃技術の習得と意識の向上を目指しながら次年度も作業を提供します。</p>	<p>○相談援助 長期欠席の続く利用者宅への定期的な電話連絡や家庭訪問を行いながら相談支援事業所等と連携し必要なサービスの情報提供をしました。</p> <p>○行事・余暇活動 行事についてはコロナウイルス感染症拡大のため従来通りの予定を実施することができない状況となりました。しかし年忘れ会について外での食事会を中止し、その代替えとして仙台国際ホテルから仕出し弁当を注文し食事を楽しみました。</p> <p>○避難訓練 年3回の避難訓練として火災及び、地震を想定し実施しました。その他、消防局職員を招き、職員・パートスタッフが普通救命講習を受講し緊急時対応が出来るよう学ぶ機会も行いました。</p> <p>○事業継続計画（B C P） 定期的な事業継続計画の見直しや倉庫内にある備蓄品等の確認や適時購入を行い職員間での意識付けをしています。</p> <p>○公益的な取り組み コロナ禍ではあるものの泉中央地域包括支援センターからの依頼を受け、認知症の方々を対象とした認知症カフェの一環で施設の喫茶を提供し、2か月に1回の実施を当年度も継続しました。</p>
くるみの木	<p>○ベーカリー ・改築に伴う仮事業所への引っ越し期間は、保育所等受注先にご理解いただき、約1か月の休業となつたが無事に受注を継続していただくことが出来ました。休業期間、依頼のあった保育所については、工房かやの実と工房しらかばの協力を得て納品することができました。 ・引っ越し後は、大きな混乱はなく利用者の皆さんもスマーズに作業に取り組み、計画どおり順調に滞りなく製造を再開することが出来ました。 ・個別支援計画に沿って、スケジュールを組んで作業提供を行い、お一人お一人に技術の向上が見られました。 ・ハサップの考え方を取り入れた食品衛生管理について、マニュアル作り等、準備を行いました。作業工程・動線の見直し等を行い、安全・安心なパンを提供できました。また、毎月の害虫駆除の業者による点検や衛生管理のアドバイスにより、清潔な作業環境作りが実施できました。 ・令和2年4月から始まった栄養成分表示の義務化に伴う製品ラベルについて滞りなく行うことが出来ました。 ・収益については、新型コロナウイルスによる減収が特に5月と8月にあり、さらに年間とおしてイベント等の中止や仮事業所への引越しによる休業期間があつたことも影響を受けたが、季節商品としてシュトーレンやアップルパイの販売や新規の販売先、受注先が増えたことによる収入があり、前年度を下回ってしまったものの次年度に期待の持てる結果となりました。 ・販売について、各区役所、市役所への定期的な販売を延</p>	<p>○令和3年度秋竣工予定の建物の改築に向けて取り組みました。1月に仮事業所への引っ越し作業があり、荷造りから荷解き事業の再開等滞りなく進めることができました。</p> <p>○防災及び安全管理 防災機器の点検を業者に依頼し、器具の安全、危険箇所や安全対策への確認が出来た。全職員対象に年1回の普通救命講習を受講しました。</p> <p>○災害時対策 定期的に地震・火災を想定した避難訓練を実施しました。また、仮事業所に引っ越ししてからもすぐに行いました。またBCP作成に伴い、各有事内容と共に安否確認と事業継続に向けた対策案を出し合い、事業所周辺地域のさまざまな理解と有事の際の非常備品を見直し、準備しました。（50名×3日分の食料、保存水、衛生備品等）</p> <p>○感染症対策 新型コロナウイルスの市の感染状況に応じて、一定期間、利用者の登所時間を午前午後に分けるなどの対策を行いました。また、マニュアルを作成し、緊急時の備えを行い、日々の感染対策についても朝の検温や、飛沫防止パネル等必要な備品を購入し、食事や更衣室の着替え等交替制にするなど対策を講じました。</p> <p>○一般就労支援 一般就労を目指す利用者に対して、ハローワークと連携し、求職活動支援を行った。前年度、一般就労した方について、定期的に企業訪問や面談を行い、就労定着支援を行った。必要時、宮城職業センターとの連携を図りました。</p>

		作業支援	生活支援等
ワークスもぐれん	<p>○箱折り作業 当年度は、受注が全く途絶えた月が2か月間あり、それ以外の月も昨年度に比較して受注量が落ち込んだため、年度当初見込んでいた予算に対して大幅な減益となりました。元請業者自体がコロナウイルスに伴う需要の落ち込みから受注数が減ったためと思われます。また、元請業者が求められている高い品質を保つ必要性から、現状において携われる利用者が限られています。箱折り作業に携われる利用者の人数を増やしていく事が課題となっています。</p> <p>○ネジ組立作業 昨年度に比べ、受注量はやや落ちています。それでも、先方より急な発注に対応し、関係性を続けています。ネジ組立作業は、携わる利用者にとって必要な工種であり、やりがいに繋がっています。納品時に一緒に同乗し、元請会社の方と話す機会もあり、良い社会経験となっています。</p> <p>○青果加工パッケージシール接着作業 コロナ禍でも毎月コンスタントな受注量を提供していただき、年度当初の見込みよりも受注量が上回っています。プラスチックケースに品名と産地名の入ったシールを接着する作業であり、より多くの利用者が作業に携われる他、毎月見込みを持てる受注量を提供して頂けることで、利用者の作業意欲向上に繋がっています。</p> <p>○保冷袋シール接着作業 お中元やお歳暮用として、保冷袋のマス目を数えて製品名を接着する作業で細かい行程ではありますが、利用者の意欲に繋がっています。また、年末の年越し用のお寿司のガリ・醤油・吸い物をセットする依頼があり、作業を分担し多くの利用者が携わることができ、やりがいに繋がっています。</p> <p>○施設外就労[コープ富谷共同購入物流センター内成田セットセンター] 破材庫での分別作業に3名、シーラー剥離作業に2名、そして支援職員2名での体制を継続していましたが、1名の利用者が体調不良により在宅での支援となった事で、現在は利用者4名体制となっています。1名減の体制ながらも体調を崩す利用者もなく意欲をもって作業に取り組まれています。今後、従事者を増やすよう実習を行います。協同作業としてセットセンター内1階女性トイレの清掃作業は、当年度も継続しています。週に一回20分程の内容ではありますが、委託業務の一環としての意識を持って取り組んでいます。</p> <p>[外部清掃：調理室食器洗浄業務、清掃業務、ガラスクリーニング] 当年度は4月に一件先方よりコロナウイルスの関係で依頼がない時がありましたが、それ以降はコンスタントに依頼を受け取り組むことができました。その他、作業の様子を見ていた生花店の方から年2回のガラスクリーニングの依頼をいただきました。利用者の働きぶりへの評価をいただいた事で意欲向上となっています。</p>	<p>○健康管理 健康診断（年1回）実施しました。施設での内科検診は新型コロナウイルスの関係で中止となつたが、必要時、嘱託医と電話で健康状態の確認等行いました。個別対応として通院同行を行い、健康管理における支援を行いました。</p> <p>○行事 (旅行会) 新型コロナウイルスの関係により、中止となつたが、お盆休み前に所内にて夏祭りを行いました。(忘年会) 仕事納めの日を旧施設最後の日に合わせ、所内にて、国際ホテルの豪華なお弁当をみんなで食べながら、建物のお別れ会を行いました。</p> <p>○日常生活支援 利用者個々の様々な日常生活における課題に対し、生活の安定に努め、必要時居宅サービスで補えない部分について支援を行いました。</p> <p>○公益的な取り組み ・裏山本丁町内会に対し、防災倉庫の設置場として土地の一部を貸し出しました。改築工事中も緊急時に倉庫の使用が可能なよう工事業者と打ち合わせを行いました。 ・宮町地域包括懇談会は、当年度は新型コロナウイルスの関係により未実施となりました。</p>	

◇障害福祉サービス事業（就労継続支援B型・A型）

	就労継続B型（クリーンプラザ）	就労継続A型（クリーンこづる）
コキア	<p>○コロナ禍で予定されていた行事の多くを中止とした1年でした。受託業務を日中活動とする当事業所においては、そもそも余暇活動自体が持ちにくい為、行事参加への利用者の期待は特に大きく、事業所としても、旅行会をメインに日々の労をねぎらう特別な時間を提供出来たことに、利用者ともども落胆の想いでした。2月、感染防止の意識や実践方法が社会・個人共に備わり、対策をしっかりと臨めば安心安全を担保できると判断、国際ホテルにおいて年度末慰労会を実施しました。ホテル側と何度も打合せを重ねた結果、例年のようなアルコールの提供や必要以上の会話は無しとしましたが、それでも窮屈な暮らしを強いられてきた利用者は満足な様子で、今後のモチベーションにつながる貴重な時間を持つことができました。</p> <p>○現場によって時短業務を求められましたが、委託料については変更がなく予算通りに工賃の支給ができました。臨時休館措置がとられても、清掃業務中止の指示はありませんでした。現場によっては数日間の自宅待機を求められましたが、コロナ関連として在宅支援が適用されたことで、コロナを原因とする収入への影響はありませんでした。</p> <p>○ゴミ・埃・汚れ等を介して感染するリスクのある清掃業務とあって、一層衛生面に気を配らなければならない環境にあることから、日々感染防止対策についての意識づけを行ってきました。通常用と作業用のマスクの使い分け、作業場面が変わることとの手洗いと消毒等を徹底しました。ほとんどの現場の控室は、密を避けられない狭い室内環境にあり、飛沫防止のアクリル板の設置のほか、管理部門に交渉して昼食時用に広い部屋を借り受けたなど、安全な環境作りに努めました。結果として、感染蔓延を防ぎ、利用者と家族の命を守ることができた1年でした。</p> <p>○3名の利用者（A2名・B1名）が当年度末での退所となりました。2名（A・B各々1名）については生活環境を考慮した上での目的に沿った判断でした。1名については意欲・体力の減退が2年間にわたって見られ、当年度においてはほぼ出勤ができない状況でした。本人及び支援センターと話し合い、次年度からB型に移行することに決まりました。</p> <p>○給付費収入については、コロナの影響はなかったものの、A・B型利用者ともに長期欠席がみられ、昨年度比で約150万円のマイナスとなりました。</p> <p>○開所時からの懸案事項であった、仙台市体育館清掃のコキア移行を次年度に控え、仙台市及び体育館との打ち合わせ、従事者及び家族への説明と必要手続き等、準備を行いました。</p> <p>○受託業務実績としては、年間作業計画通りに遂行を果たし、仙台市福祉プラザ、仙台市環境整備公社小鶴工場、及び施設外事業所である仙台市博物館、仙台市科学館、仙台市役所錦町庁舎との契約更新に加え、コキアとして新たな受託現場となる仙台市体育館との契約を無事に終えました。</p> <p>○個別支援計画に則して利用者個々の思いを尊重しながら、能力や状態像に適した作業提供を図りました。しかし、新型コロナウイルスの対応に追われた結果、十分に利用者の想いをくみ取れたとは言えませんでした。密を避け、会話を制限し、他者との関りが少なかった分、前年度に比べて利用者間のトラブル回数は減少し、一般利用客からのクレームもない1年でした。</p> <p>○公益的取り組みとしては、全ての外部清掃現場において、契約で定められた作業区域外に清掃範囲を広げて環境整備に努めました。</p>	<p><就労支援>階段清掃やワックス清掃、車の往来がある場所での掃き清掃など、危険を伴う作業環境であることを認識し、安心安全を念頭に取り組みました。今まで以上に衛生管理を徹底しコロナ対応が始まった当初は戸惑いも見られましたが、徐々に意識も定着し感染防止を図りながら業務遂行を果たせました。博物館清掃の1名が居住地に近い事業所に移行する為退所となりましたが、コロナ禍で十分な送別会も出来ない中の見送りとなりました。</p> <p><生活支援>コロナ禍において、利用者の日々の健康状態を確認しながら、安心した生活を送れるよう衛生についての声掛けや助言に心掛けました。各々の生活状況に応じ、家庭やグループホームの担当者と連携を取りながら、通所への意欲、通院同行や身だしなみ等を支援してきました。家庭環境への配慮、加齢に伴う状態像の変化の把握に努め、職員から積極的に情報の共有化や提案を図ることで課題の早期解決に努めました。</p> <p><健康管理>年1回の健康診断を実施しました。内科検診についてはコロナ禍を鑑み実施しませんでした。結核予防協会での健康診断では病院の意向により、年度末になって日々3～4名の小グループでの受診に限定されての実施でした。体調不良の2名については年度内に出来ず、次年度早期の受診予定としました。新型コロナウイルス対策により、体温測定や健康状態の把握、手洗いとうがいの徹底に努め、更に飛沫防止のためアクリルボードの設置や、食事の際は密を避けるため広い部屋を借り受けました。</p> <p><防災管理>福祉プラザ主催の防災訓練では、各団体から1名の参加に限定されての実施でした。施設外事業所における防災訓練には利用者・職員の全員が参加しました。</p> <p><就労支援>雇用者としての自覚を持って從事するよう働き掛けてきました。コロナ対応について意識づけを図る中、感染の不安を理由に休むことなく通勤、責任感をもって從事しました。昨年から休みがちな利用者1名が当年度はほとんど出勤できない状況でしたが、協力して業務を遂行できました。漬け置き用水槽が原因と思われる悪臭については、日々の作業の中で水槽の洗浄を行うとともに水槽を動かして床面の洗浄も行ったことで改善されました。建物及び設備の老朽化の問題についても、仙台市にボイラーや水槽などの修繕を依頼し、年度内に修繕を終えることができました。</p> <p><生活支援>利用者間のトラブルについては、作業時間・休憩時間の双方で動線に配慮をしました。結果、大きなトラブルの発生を抑えることが出来ました。喫煙者や糖尿病の利用者に対しては個別面談によって状態を把握し、長く元気に働き続けられるためにも、健康に対する意識を高められるよう努めました。体力の低下に加え仕事に対する意欲の低下を止められず退所となった利用者1名は、次年度から就労継続B型に移行することになりました。他法人のホームから通う利用者1名は所属法人の支援体制上の方針により年度末で退所となりました。</p> <p><健康管理>健康診断は、コロナ禍の影響を受けることなく予定された日程の通り全員が受診出来ましたが、嘱託医による内科検診については当年度は見送りとなりました。新型コロナウイルス感染防止対策として、毎日の体温測定と健康状態の把握、密を避ける動線設定と作業場面が変わることとの手洗いとうがいに努めました。</p> <p><防災管理>環境整備公社での訓練がない為、独自で有事（地震）を想定した訓練と、防災指導を実施しました。</p>

◇障害福祉サービス事業（共同生活援助事業）

仙台ふきのとう	<p>令和2年度は、コロナウイルス感染症の蔓延により様々な活動が制限されましたが、新しい生活様式のもと、入居者・職員とも誰一人感染することなく1年を終えられたことは非常に喜ばしいことです。</p> <p>ホームの状況としましては、4月にグループホーム裡の木で虐待事件が発生しました。前年度も虐待事件の報告をしていますが、虐待として認定されたのは今回が初めてです。全体的にスタッフの経験年数は高いのですが、少人数でアットホームな雰囲気は入居者との距離感が近くなり、業務に対する狎れが出てきているように感じます。二度と虐待事件を起こさないために研修会や事例検討など複数回開催し、重点目標として取り組んできました。</p> <p>ホーム運営の安定化のために、スタッフ不足解消は大きな課題です。そのための体制の強化を図りました。南北に管理者を置き、正職員を5名増員することで、繰入額が前年度の倍額5,000万円となり、通所施設には予算的に負担</p>
---------	---

をかけることになりました。その甲斐あり、年間を通してほとんど通所施設への代替依頼を出さずにスタッフ配置を充足させることができました。特にコロナ禍で人の往来が制限される状況下では幸いしたと言えます。また正職員が増えたことで、ホーム担当者が巡回し顔を出す機会が多くなったため、情報共有や支援上の課題をタイムリーに相談、解決することができ、コロナ禍で連絡会等集まる機会を自粛したにも関わらず、例年よりパート職員からの不満の声は減っています。虐待防止の観点からもOJTが促進されるというメリットが得られました。

昨年度松の木入居者1名が退居されましたが、コロナ禍でしばらくの間は体験利用の受け入れも難しい状況にありました。感染症が落ち着いた6月より1名の体験利用を行い、11月に入居が決まりました。ホーム空室がしばらく続いたことから全体的に利用の落ち込みが心配されました。家族状況の変化により、週末帰省されていた方が、常時ホーム利用となり、結果的に前年度より総利用数は上がっています。これまで週末を家族で過ごしていた方が帰省できない状況は、入居者にとってはつらい出来事ではあります。生活基盤がホームにあることで、情緒的に大きく乱すこともなく安定した生活を送ることが出来ています。

このように高齢化に伴う家庭状況の変化は、法人内で今後ますます増えていくものと思われますが、現状ではホームの空きはなく、居住支援への要望が増えています。そのため日中支援型グループホームの開設を提案し、理事会で可決されました。現在、ミサワホーム（株）と業務提携し、オーナー型グループホームの開設に向けて準備を進めています。

＜次年度に向けて＞

1. 季節感を感じられる食事提供や感染症対策を徹底しながらの余暇支援の充実などに取り組み、サービスの質の向上と入居者の豊かな生活の実現を目指します。
2. 人権尊重の意識を醸成するとともに、研修会やOJTの機会を多くし、虐待防止を徹底します。
3. 事業継続計画（BCP）の見直しを行い、事故防止と防犯、防災への取り組みを行います。

◇生活介護・生活訓練事業（仙台市受託事業）

	生活支援	日中活動支援
太白障害者福祉センター	<p>○生活支援全体 仙台市太白区を中心とした「障害者の地域福祉の拠点」として、障害の重度化、多様化にも応じられるよう、関係機関と連携を図りながら、特性やニーズに合わせた支援を提供しました。「サービス等利用計画」における当事業所の役割を意識した個別支援計画を作成し、個々の特性や必要な支援を把握した上で、サービス提供を行うことに努めました。また、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、ひとりひとりが安心して生活できるよう支援しました。</p> <p>○日常生活動作・身体機能に関する支援 新型コロナウイルス感染予防のため、長期欠席する利用者が数名いました。身体機能の低下を危惧する状態が続いたため、機能・体力維持を意識した活動を提供しました。必要に応じて、専門職からの助言をいただいて個別に機能訓練を実施しました。居宅支援事業所や併用事業所・相談支援員等の関係機関と連携し、身体状況の変化を確認しながら支援しました。また、利用者が関わっている外部のリハビリテーション職員とも連携し、情報共有を行い、統一した支援が提供できるよう配慮しました。</p> <p>○新規利用・移行に関する支援 機能訓練（生活訓練）事業…新規利用者0名。移行者0名。 生活介護事業…新規利用者0名。移行支援として、他事業所の見学を2名実施しました。そのうち1名が体験実習を経て、令和3年4月より併用利用（センター2回・他事業所1回／週）となります。</p> <p>○サービスの情報提供や相談に関する支援 年4回支援計画書策定にかかる個別面談を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策として書面での確認や電話などの方法でモニタリングを行いました。また、生活全般において課題のある利用の方には、重点的に個別支援での対応も適宜実施しました。</p> <p>○送迎・入浴・給食サービスについて 業務委託法人である（社福）仙台市障害者福祉協会と連携を図りながら送迎（添乗）・入浴・給食サービスを提供しました。</p> <p>○家族研修会・家族交流会について 6月に研修会、12月に家族交流会を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止としました。</p>	<p>○日中活動支援全体 新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、活動を提供しました。個別支援計画に基づき、個々の目的や障害特性、身体機能に合わせて、日中活動を計画しました。日々の健康状態や身体状況は、看護師、PT、ST、OT等専門職の助言を仰ぎ、連携を図りながら活動に取り組んでいます。また、重度の障害がある方や感染予防のための長期欠席者には、重点的にリハビリ目的の活動を提供しました。</p> <p>○創作・手芸活動について 手芸、描画、貼り絵アート、ちぎり絵、ビーズ細工、スキルビーズ、季節の壁面創作（利用者全員で作成）等を実施しました。壁面創作で完成した作品は、当センター1階ロビーへ展示し、作りあげる喜びや達成感、皆で一つの作品をつくる楽しさを感じられるよう支援を行いました。</p> <p>○レクリエーションについて 利用者の希望を確認しながら、スポーツ・レクリエーション活動を提供しました。ウォーキング、ボウリング、魚釣りゲーム、玉入れ、的当て、風船パレー、棒体操などを実施しました。棒体操については、PTの助言を仰ぎ、身体機能維持の効果が期待できるメニューを取り入れました。集団活動を通して、それぞれの利用者が他者への関心や関わりを持てるよう配慮し、利用者同士の交流を深めることができました。</p> <p>○外出について 利用者から希望を聞き取り、体調に合わせて、ショッピングモール、神社、公園の散策等を実施しました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、買物活動は制限せざるを得なかったです。散策は、体力維持・向上を目的とし、室内活動のみにならないよう配慮しました。</p> <p>○季節行事について 夏祭り（8月）、年忘れ茶話会（12月）、書初め（1月）、年初め茶話会（1月）、豆まきレク（2月）、バレンタイン茶話会（2月）、春を迎える茶話会（3月）を実施しました。</p> <p>○音楽活動について キーボード演奏やハンドベル等で音を楽しむ、好きなCDを聴きながらリラックスして過ごすなど、気分転換を図る目的で実施しました。 ハンドベル演奏は、皆で1曲を練習して3月の茶話会で発表する機会を作り、集団で活動する楽しさを感じられるように配慮しました。</p>

太白障害者 福祉センター	<p>○社会体験活動について 意思決定支援の一環として、内容を計画して小グループで実施する取り組みを行いました。園芸活動とドライバー、好きなお弁当を注文する、デザートを購入するという活動の中から選んでもらいました。 また、事業所見学は利用者やご家族の要望を確認しながら実施し、移行することができました。</p> <p>○災害時対策・防災計画について センター全体で地震・火災想定と水害想定の避難訓練を2回実施しました。車椅子での避難等を想定し、実際の動きを職員でシミュレーションすることができました。 今後は福祉避難所設置業務やセンター全体のB C Pについて(社福)仙台市障害者福祉協会と確認していきます。</p>	
宮城野 福祉セン ターセン ター	生活支援	日中活動支援
○生活支援全体 仙台市の運営方針である『地域におけるリハビリテーション推進の拠点として、より高度化・専門化した支援を目指す』こと、また『あらゆる障害に対応できる重層的な相談支援を行いながら、質の高いケアマネジメントを提供していく』ことを基に事業を行いました。 当年度は、生活介護事業利用者1名が他事業所へ移行し、生活訓練事業は新規利用者1名を受入れました。定められた期間の中で適切なアセスメントを行い将来につなげられるよう、引き続き関係機関と協働で支援を行いました。また、医療的ケアの必要な利用者の受け入れが決まったことを受け、準備と検討を進めています。	<p>○日中活動支援全体 個別支援計画に基づき、利用者の意思決定支援を丁寧に行いながら、個々のニーズや障害特性にあった日中活動を提供しました。個室対応やパーテーション設置等、安心して活動出来る環境と、日々の健康チェックを十分に行った上で活動提供しました。</p> <p>○外出 感染防止対策のため、公用車での外出の機会は計画より減ったが、近隣への散歩等は、手洗い・消毒・マスク着用・3密を避ける等の対策をとり実施しました。季節の外出活動を行う際は、アンケート調査を実施し、無理なくできるよう努めました。</p> <p>○スポーツ・レクリエーション ライブの応援上映等、これまで行ってきた活動の他に幅を広げ、新たな要素を取り入れ活動しました。</p> <p>○創作・手芸 描画や貼り絵、切り絵など、手芸では刺し子や刺繡、ヨーヨープレート、スキルビーズ等を行いました。障害者週間に合わせた作品展示に出品するなどをしました。</p> <p>○調理 安全面、衛生面に十分配慮した上で、楽しく満足感が得られるよう実施しました。他者と同じ空間での活動に抵抗を示していた利用者が、調理活動を通して居間にいられるようになるなどの変化も見られています。</p> <p>○リラクゼーション 心地よい音楽とアロマ、マッサージや手浴等を行い、心身ともにリラックスできる時間を提供しました。</p> <p>○園芸 センター屋外敷地の一角を使用し、野菜の栽培や観賞用植物を育て、草取りや水やりなどを行いました。</p> <p>○QOL向上活動 QOL向上を目的として数年実施してきたが、当年度は、施設見学や活動の体験、行事の企画など、より個別支援計画に沿った形を意識して実施しました。今後はより個別のニーズに即した活動提供ができるよう見直し、支援を展開していきます。</p> <p>○季節行事 七夕（7月）年忘れ会（12月）年初め会（1月）慰労会（3月）を企画実施しました。そのほか、季節を意識した共同創作や外出等を通し、季節感を感じられるよう工夫しました。</p>	<p>○生活支援全体 仙台市の運営方針である『地域におけるリハビリテーション推進の拠点として、より高度化・専門化した支援を目指す』こと、また『あらゆる障害に対応できる重層的な相談支援を行いながら、質の高いケアマネジメントを提供していく』ことを基に事業を行いました。 当年度は、生活介護事業利用者1名が他事業所へ移行し、生活訓練事業は新規利用者1名を受入れました。定められた期間の中で適切なアセスメントを行い将来につなげられるよう、引き続き関係機関と協働で支援を行いました。また、医療的ケアの必要な利用者の受け入れが決まったことを受け、準備と検討を進めています。</p> <p>○健康や摂食に関する支援 平常時のバイタルや、発熱・嘔吐など普段と違った様子に留意し、速やかな対応に努めました。また、手洗い消毒の徹底とマスク着用を促し、マスクが苦手な一部の利用者には、フェイスシールドで対応するなど、特性に応じた形で予防に努めました。 食事に関しては、利用者の状態に合わせた食形態で提供するため、保護者及び栄養士等と連携を図りました。</p> <p>○日常生活動作（ADL）・身体機能訓練 利用者の状態を定期的に確認し、変化に合わせた訓練等となるよう意識しました。次年度も、利用者の活動プログラムが状態にあっていいるか見直しを行うなど、専門職や関係機関と密に連携を図り実施します。</p> <p>○家族との連携・相談支援 「家族交流会」は、新型コロナ感染防止のため、中止しました。日々の連絡帳のやり取りと必要に応じて電話連絡するなど、迅速な対応を意識しました。なかなか利用者の様子が伝えきれないことがあったため、月1回発行している広報誌の中身を、写真で伝わるように見直しました。また、個別面談は年2回実施し、変化するニーズなども確認できました。サービス等利用計画における事業所の役割を認識し、相談支援事業所や他サービス機関との情報共有・連携を図り、引き続き支援していきます。</p> <p>○移行に関する支援 当年度は、グループホーム入居が決まり、当センターと継続して利用することになった方が1名いました。他事業所併用2年目の利用者については、保護者の不安感から完全移行には至らず、利用継続となっています。引き続き、安心できるかかわりができるよう支援します。当年度、事業利用開始1名、他事業所移行1名でした。</p> <p>○送迎・入浴・給食 業務委託法人である（社福）仙台市障害者福祉協会（以下仙障協）と連携を図り送迎（添乗）・入浴・給食サービスを提供し、利用者が安心・安全に利用できるようサポートしました。</p>

◇サポートはぎ

障 害 児 等 療 育 支 援 事 業	【訪問療育相談事業】 年度当初新型コロナウイルスの状況下でもあり訪問等を自粛した期間もありますが、嘱託の心理士により概ね月1回の事業を行いました。発達障害者の訪問療育を行い、定期的な面談による社会性の向上、不安の軽減を図っています。
	【外来療育相談事業】 各家庭で主治医への相談を行なっているため実績には至りませんでした。 《次年度に向けて》 継続的な事業の実施を行い、委託ケース（本人・家族）の安定を図っていきます。
	【療育技術指導事業】 他の機関と事業内容が重複しているため、事業実績には至りませんでした。 内部での技術指導は適時行い、その内容を相談員が事業所やご家庭に伝えています。 《次年度に向けて》 事業内容や実施方法を検討し、専門職からの助言を発信していきます。
	【仙台市委託相談事業】 ・本人に障害があり、親も高齢で将来の生活に不安を抱えている相談は多くあります。住まいの場を探す場合、対象になる方が重度の知的・精神疾患・行動障害のある方だと軽度の方よりも対応できるグループホーム・入所施設等が少なく、繋ぐことが困難であることや、新型コロナウイルスの状況下ということもあります、入所施設においては見学や新規登録不可の事業所も多く、より困難な状況でした。 ・軽度知的や発達障害のある方の金銭面や人間関係、就労等に関する困りごとの相談は継続的にあり、原因として幼少期の家族関係・虐待経験等が起因していることも多くありました。 ・障害児に関しては公所、病院ワーカー等より、重度知的や医ケア児童について、将来の生活に向け関りを持って欲しいという依頼が多いです。ただ、要医ケアだと放デイをはじめ、使えるサービスが少なく、加えて家族からのネグレクト等があったり、母親も療育手帳を所持している等、療育の部分で問題があるケースが多く、対応に苦慮しました。
	【指定特定・障害児相談支援】 ・上記、仙台市委託相談事業の報告と同様に、生活の場を調整することが困難な状況です。 《次年度に向けて》 委託相談で関わるケースは困難な内容が多く、新規ケースを含め継続的な関りが求められるケースも少なくありません。相談員のアセスメント力とマネジメント力が必要であるため質の向上を図るとともに、相談員が一人で困難ケースを抱え込んでしまわないよう支援体制を整えていきます。また、各機関とも連携を図りながらチームアプローチを確立していく、事業所内でのケースレビューや事例検討を定期的に実施し、アセスメントや見立てを全体で検討していきます。
	【公益的な取り組み】 太白区自立協での連絡会や実務者ネットワーク会議のエリア会等における地域連携について、会 자체がコロナ禍で休止の期間が長く、実施時も書面開催とするなど、関係者が集まつての会議は最小限にとどめていました。計画されていたサロン活動や地域のイベント等についても軒並み中止となり実施が困難な状況でした。 《次年度に向けて》 事業所として、地域への働きかけや資源の開拓、課題抽出という点では依然課題となっています。今後の新型コロナウイルスの状況に合せた新たな取り組みを検討していきます。
	【総括・次年度に向けて】 家族支援等推進事業の令和2年9月末日を以ての廃止を受け、利用者及び事業所運営に支障の出ないよう、所属する仙台市障害者家族支援等推進事業所連絡協議会として市担当課への要望書提出や話し合いを重ね、通称“1：1支援加算”的新設、日中一時支援事業との併用にあたっての市独自の運用ルールの制定に至りました。事業移行の準備として、学生介護人は全員パート職員契約、運営規程の一部改訂、利用定員増（3→6）、火災通報装置と自動火災報知設備の連動工事等を実施しました。 一方、新型コロナ対策として、その対策を追加したBCPの再策定、感染防止に関する内部研修の実施、非接触型体温計等の確保に努めました。そして、県の助成事業を活用し次亜塩素酸水精製器や酸性電解水対応可能超音波加湿器を設置し、環境整備、衛生管理の徹底を図り、新型コロナ感染者を出すことはありませんでした。 今後もコロナ禍の状況は続くことが予想されますが、緊急時・非常時の『止められないサービス』の一つとして、対策を十分に検討し実施してまいります。高齢化による利用ニーズの増加も予想され、パート支援職員の更なる拡充も図ります。また、築15年以上を経過したこともあり、R2年度は大規模な空調設備交換工事を実施しましたが、他設備の不具合も出ており、今後、修繕に向けての備えを計画的に行ってまいります。
	【利用状況】 前期については、これまで同様家族支援等推進事業との使い分けのため、ご家族の入院・手術・葬儀に関する理由に限定してご利用いただきました。コロナ禍での利用控えも予想されましたが、それ以上に緊急性の高いニーズや長期利用の必要なニーズが多く、また、他事業所がコロナの影響で新規利用契約を控えている状況もあり、前年度の利用実績を上回りました。後期は理由問わず受け入れましたが、同様の傾向でした。収入面では、後期の定員増、上記の新加算の算定もあり、前年度比約1,000万増でした。

◇ヘルパーステーションコスマス

ヘル バ ス モ デ ー シ ヨ ン	【移動支援】 当年度は新型コロナウイルスの影響を受け、一年を通して、移動支援のキャンセルが相次ぎ、前年と比べて大きな減収に繋ぎました。サービス提供については、時間短縮、三密を避けながらの支援の徹底を行うことで、事業所、利用者とともに感染者を出すことはありませんでした。 次年度も利用者及びヘルパーの安全を最優先に、今後のサービス提供のあり方について検討していきます。
	【居宅支援】 登録利用者の高齢化に伴い、一般在宅利用者への入浴介助及び通院等介助の新規契約を計画的に進め、登録者数の増員とサービス増加により、居宅支援事業の増収に繋ぎました。次年度も各利用者、ご家族のニーズに柔軟に応えられるよう、支援スタッフの資質向上と、登録ヘルパーの確保に努め、安心して過ごせる支援体制を構築していきます。

【登録・パートヘルパー】

当年度、全ヘルパー対象に内部研修を1回(救命講習)実施し、スキルアップを目指しました。新型コロナウイルス感染防止のため、当年度は1回のみの実施になりました。

今後も引き続き利用者とご家族が、安心して過ごせる支援体制を構築していく必要があります。併せて、登録ヘルパーからの支援活動相談についても、随時の打ち合わせや支援同行を行なながら対応をしていきます。

《次年度に向けて》

- ・利用者ニーズに対応できるよう、継続してヘルパーの確保に努めています。
- ・年2回以上のヘルパー向け研修を実施し、支援者の資質向上に努めています。
- ・定期的なモニタリングを行い現状把握し、より適切なサービス提供に努めています。
- ・居宅介護事業中心に利用者及びご家族の高齢化対策に取り組んでいます。

◇児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業

おりづる上野山 昨年度、児童発達支援の契約者はいませんでしたが、年度後期に5歳児3名の方と契約を取り交わし、サービスを提供することができました。結果的にその3名は令和3年度の放課後等デイサービスの利用契約に繋げることができ、多機能型事業所ならではの強みだと感じました。放課後等デイサービスは前年度からの継続利用者が24名、新規契約者の6名が加わり、30名の利用登録でした。

児童発達支援の実績としては、どの方も平日は保育所や保育園を利用しており、結果、土曜日のみの利用登録となりました。どのご家庭でもお子さんの今後を見据え、進学したのちに同じ場所で放課後等デイサービスを利用できることは、サービス事業所を選択するにあたって大きな要因であったと話されており、事業を運営していく上でも、児童発達支援の利用契約は重要だと感じました。

放課後等デイサービスの実績としては、昨年度よりも契約登録者は減少したものの、利用児個々の曜日契約数が増えたことにより、結果的には昨年度と比べ給付費収入増となりました。昨年度末から年度初めにかけて、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために、臨時休校になる中、登校や放課後等デイサービスの利用を自粛されるご家庭もあり、事業収益に影響が出るかに思いましたが、学校の夏期休暇期間まで利用単価が長期休暇単価での算出が可能となり大きな影響は出ずには済みました。コロナ禍における事業運営においては、常時衛生管理に努め「安心・安全」な環境を整えることで、利用児はもとよりご家庭からの信頼も得ることができ、大幅な利用減とならなかつたことは努力の結果と思われます。昨年度の一日の平均利用数8.7名に対し、令和2年度の平均利用数は9.7名でした。

活動内容についてはコロナ禍の影響もあり、外食などの企画や他のおりづるとの合同行事などはすべて中止としましたが、併設の上野山児童館との合同行事や自然に囲まれた環境を有効に活用し、満足を得ることができる活動を提供してきました。その他、上野山児童館にAEDを設置したことにより、毎年実施している児童館職員と合同での救命講習についても、より現実を帯びた研修になり職員の意識も高められました。利用児への接遇については虐待防止チェックリストを定期的に全職員が実施する等、知識や技術の習得と日々の支援方法の振り返りを行い、研鑽に励みました。

例年行っていた保護者研修会としての「おりづる合同茶話会」も今回は見送る形となりました。参加者一人ひとりが聞きたいことを気軽に聞き、話し合える場であつただけにとても残念でした。放課後等デイサービスガイドラインに沿って、事業所の自己評価と保護者による評価を実施し、3月にホームページで公表いたしました。

<次年度への展望>

(1) 利用者本人とその家族が安心して豊かな毎日を過ごせるよう、それぞれのニーズや生活環境、本人の特性や発達段階に合わせた良質なサービスを提供し、家庭や学校、その他の関係機関との連携を図りながら適切な支援を行ないます。

(2) 安定した事業所経営を意識し、特に児童発達支援事業の登録者確保に努めます。また、サービス内容や提供時間等、利用者及び家族のニーズに対応できるよう、臨機応変に見直します。

(3) OJTやOFF-JTで支援技術と知識を習得するほか、より障害特性への理解と適切な対応ができるよう、資格取得に向けた研修への受講も積極的に行い、職員一人ひとりが児童や障害分野の専門性を高めます。

(4) 利用者のライフステージを意識しながら日々の支援を提供します。また、上野山児童館と合同で救命講習に参加し、職員一人ひとりが命を守る知識とスキルを習得します。

(5) 子どもの成長を見守り育んでいける地域を目指し、上野山児童館と連携を図りながら地域の人達との交流行事へ参加します。

(6) 保護者と更なる連携を図り、茶話会等で事業理解を進めます。事業所評価を実施し、保護者の意向を把握、公表しながら開かれた事業展開を行います。

おりづる五橋 前年度からの継続利用者27名(児童発達支援事業1名・放課後等デイサービス事業26名)、新規利用契約者4名(放課後等デイサービス事業)の合計31名で当年度事業を開始しました。年度途中で3名(放課後等デイサービス事業3名)が、家庭の都合、他事業所への移行等の事由により利用契約終了となりました。また、登録曜日増減の希望や年度途中からの新規利用(児童発達支援事業3名・放課後等デイサービス事業2名)の受け入れにも柔軟に対応し、年度終了時の利用契約者数は33名がありました。

4月からの学校休校により、受け入れを午前中から実施。学校再開後も特別支援学校の分散登校に対応し二部制での受け入れを行いました。4月後半から5月にかけて新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言が出された際には、1日の利用者数の3割程度が利用を控えることとなりました。しかし、二部制や保護者の就労状況により受け入れ時間を柔軟に対応することで利用人数の確保に努めました。

仙台リゾート＆スポーツ専門学校の協力を得て開催していた土曜日行事の「運動教室」は、新型コロナウイルス感染症の収束まで実施を見合わせることとしました。次年度以降は状況を見て再開を検討します。

外出行事やおりづる上野山と合同行事「水遊び」、ボランティアの受け入れも中止せざるを得ない状況でしたが、保育実習は感染症対策をしたうえで例年通り受け入れを実施しました。また、新型コロナウイルス感染症の広がりで他県での実習ができなくなってしまった学生の受け入れ依頼が多数あり、社会福祉法人の責務と考え、当初予定の学生数よりも多くの実習生の受け入れを行いました。その姿勢を認められ、仙台リゾート＆スポーツ専門学校より、学校内の就職説明会でおりづる五橋の活動と法人の事業内容について紹介の機会をいただきました。次年度は、これまで実習校が1校となっていたが2校となりました。

新型コロナウイルス感染症の対策としては、会食中のアクリル板の設置・除菌電解水給水器の設置により手指消毒の実施・二酸化炭素濃度測定器の設置等を行いました。また、可能な限り子供たちへのマスク着用の声掛けをしています。今後も感染症対策に取り組みながら事業を実施していきます。

おり り ぶ 五 橋	<p>おり～ぶ五橋としては、4事業所が加盟している「放課後ケアネットワーク仙台」の活動も休止状態でありました が、次年度以降も執行部の一員として活動していきます。</p> <p>その他、事業所の自己評価・保護者による評価も実施し3月にホームページにて公表しました。</p> <p><次年度への展望></p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもたちが地域の中で心身共に健やかに育成され、「自分らしい」豊かで充実した生活が送れるようサポートします。 ②利用者の状況やおかれている環境、個性を見極めながらその有する能力や可能性を広げるよう支援します。 ③家庭・学校以外の場所での集団活動や地域との交流を通して社会性を高めるよう支援します。 ④ヒヤリ・ハット体験報告事例をもとにサービス提供過程に内在する危険因子を析出し、危険要因の分析と評価を行い、事故発現の未然防止のための適切な措置を講じます。救命救急講習を受講し、不測の事態に陥っても利用者の命を守るスキルアップを目指します。 ⑤利用者の獲得に向け就学前の児童を中心に営業活動に力を入れるため、ホームページ等による発信を積極的に行います。また、卒業後の事業所として他おり～ぶとの連携を深め、「当所から他おり～ぶへ」という流れをつくりていきます。 ⑥コロナウィルス対策については、手洗い、換気、マスク着用の三点に重点を置き、対策を実施します。家庭との連携を強化していきます。出来る限りサービスを提供し続けられる体制づくりを行います。コロナ禍にあってもサービスを提供し続けられる体制づくりを行います。
	<p>昨年度からの継続利用者28名、新規利用者5名、合計年間契約数は33名でした。新規利用者については、関係機関との引継ぎを綿密に行い、安心して利用を開始できるよう努めました。</p> <p>新型コロナウィルス感染症による緊急事態宣言を受け、各校で随時臨時休校となり、8月末までの期間は、夏季休暇期間を含めて休校日扱いでの対応となりました。二部制での開所時間が従来に比べ長期に渡りましたが、学校や家庭との連携を更に深め、送迎ルートについても柔軟な対応と綿密な計画を立てることにより、大きな混乱もなく業務を遂行することができました。</p> <p>緊急事態宣言が解除されるまでの期間や、感染症の流行が予想される時期は、利用を自粛される方も多く、事業所として安心して利用していただけるよう衛生面や環境への更なる配慮、感染症防止対策の他、利用者・職員の意識を高められるよう取り組みを施しました。</p> <p>日々の利用者支援については、受け入れ前のミーティングを定着化し、職員間の連携強化や情報共有に繋げることができました。互いに意見を出し合い、当日の利用状況や明確な支援方法、留意点等を確認し合うことで職員が一丸となり、見通しのある支援が展開できるようになりました。</p> <p>職員のスキルアップを図るための内部研修や保護者研修を目的とした茶話会も計画ましたが、感染症予防のために中止としました。救命救急講習については、受講者が事前にインターネット講習を受けることで、対面での研修時間を削減し、感染症予防に努めながらの開催をすることができました。</p> <p>地域貢献活動として、町内会行事への参加や会議当での施設貸出、おり～ぶ職員によるレクリエーション教室を計画しましたが、地域民生委員と協議の結果、年度内の活動は中止としました。</p> <p>その他、職員による事業所の自己評価、保護者等評価を3月に実施し、法人ホームページへの掲載を行いました。</p>
	<p><次年度への展望></p> <p>(1) 利用者本人とその家族が安心して豊かな毎日を過ごせるよう、それぞれのニーズや生活環境、本人の特性や発達の状況に合わせた良質なサービスを提供し、家庭や学校、その他の関係機関との連携を図りながら適切な支援を行います。また、他のおり～ぶとの連携を深め、小学校卒業後の受け入れ先として、柔軟な対応ができるよう計画的な送迎ルートの検討を行います。</p> <p>(2) 利用者一人ひとりの障害特性や発達段階を把握し、本人及び保護者のニーズを基に個別支援計画を作成し、生活能力向上に向けた取組みを行います。また、個々の得意とする活動や能力に配慮し、満足感や達成感を得られるプログラムを提供することで利用者本人の自己肯定感を高められるよう支援を行うとともに、将来に向けて本人の能力を最大限に活かせるよう、段階を踏みながら自立・自律に向けた取組みを行います。</p> <p>(3) 対人関係のマナー・ルールを学ぶ機会として集団を意識した活動内容を設定し、実践的に他者と協同する術や、挨拶やお金、時計の読み方等の疑似体験機会を設け、社会性を身につけられるよう支援を行います。</p> <p>(4) コロナウィルス感染症の発生状況等を考慮しつつ、地域民生員と密に連携を図り、その上で町内会行事への積極的な参加と事業所を貸出しての会議、講習会等の開催、レクリエーション教室の実施を検討し、地域貢献活動として継続的に取組ます。</p> <p>(5) 事業所内に虐待防止マネージャーを配置し、虐待の防止に努める活動を計画的に実施します。</p> <p>(6) 職員の救命救急講習を実施し、救命処置知識と技術の向上を図ります。また、マスクの着用、手洗い消毒、換気等の感染症対策を徹底して行い、事業所内の環境衛生に努め、感染症の拡大防止対策を図ります。</p>
	<p>【新型コロナウィルス対応】</p> <p>令和2年3月より6月まで、県立の支援学校及び市立小中学校が休校措置となりました。その中で、厚生労働省と仙台市からの事務連絡など、放課後等デイサービス事業所に期待された役割を鑑み、各家庭の事情に最大限配慮して、希望者は全員朝からの受け入れを行いました。</p> <p>4月と5月は教育委員会と学校の対応が毎週のように変化し、再開後も分散登校となるなど、児童と保護者に大きく混乱を招きましたが、その度に家庭と連絡を取り合い、翌週の予定変更を繰り返しながら、朝からの受け入れと学校への迎えを併せて行いました。</p> <p>4月後半に、職員一名が体調不良となり、かかりつけ医で「感染性胃腸炎」の診断を受けました。37℃台の微熱でしたが、各ご家庭に連絡を入れたところ、新型コロナウィルスの可能性について心配の声が多く上がったため、世情を鑑み、4/23(木)～25(土)の3日間、受け入れを自粛しました。閉所とはせず、希望者は受け入れを行いました。その後特に体調不良者はなく、通常再開しました。</p> <p>12月後半には、利用児2名が保健所より濃厚接触者に該当するとの連絡を受けました。一名はPCR検査を受け、陰性が確認されましたが、もう一名はPCR検査を受けない選択をされたため、陽性か陰性かを確定できませんでした。</p> <p>仙台市と保健所の見解では、濃厚接触者の存在をもって体所にすることはないとのことでしたが、各ご家庭の心境や他利用児の併用事業所など、関係機関の心配の声を鑑み、12/25(金)・26(土)・28(月)3日間の休所措置を行いました。その間、スタッフ8名全員が民間のPCR検査を受け、全員の陰性が確認されました。</p> <p>その後体調不良者はおらず、年明けの1/4より通常再開しました。感染の再拡大を鑑み、おやつの提供と調理を休止しました。調理は利用児にとって大きな楽しみの活動だけに、落胆の声も大きなものがありました。</p>

【登録数・利用実績・給付費収入増への取り組み】

昨年度から継続の利用児が29名。上野山からの移行利用児が4名。年度途中を含めた新規契約児が4名。計37名の登録となりました。

昨年度に引き続き、①祝日を含めた300日開所。②平均11名/日利用実績確保。③延べ3、300名受入と給付費収入3、600万円。を目標とした受入れに取り組みました。

①については、前述の休所により、開所日は297日と減少しました。

②については、前述の自粛や休所の影響で利用控えが増し、4月の利用率は約70%。5月は約80%でした。その後6月からは90%後半から110%の間で推移ましたが、年間の利用率は昨年度から0.4%下がり、98.2%と、目標には351名分届きませんでした。

③については、昨年度を上回ったものの、延べ利用数は2916名。給付費は3、249万円と、目標には遠く至りませんでした。

【保護者茶話会】

当年度もおり~ぶ四事業所合同の保護者研修「茶話会」を上半期と下半期の2回予定していましたが、感染状況を鑑み、各事業所保護者へ開催についてのアンケートを実施しました。その結果、集合開催に対する不安が大きい回答が多数を占めたため、残念ながら中止の判断をいたしました。

併せて次年度開催への期待を寄せる回答も多くいただいたため、来年度は感染状況の見極めと、リモート開催の方法を探りながら開催を検討して考えます。

◆公益事業◆

◇サポートはぎ

診療所	<p>主に障害支援区分認定に係わる医師意見書の作成や年金に係わる医師の診断書などの依頼を状況に応じて受け付け、その都度作成を行いました。また、診療外来も月平均4～5件での依頼を受け付け実施しました。</p> <p>《次年度に向けて》</p> <p>障害支援区分認定の医師意見書作成を中心に行い、必要に応じて診断書依頼も受け付けました。</p> <p>医師との連絡を密にし、診断書の作成依頼や診療相談に応えられる体制を整えてまいります。</p>
日中一時支援事業	<p>【総括・次年度に向けて】</p> <p>家族支援等推進事業のR2年9月末日を以ての廃止に伴い、10月から新事業として開始しました。事業移行にあたり、短期入所同様に仙台市担当課への要望書提出や担当者との話し合いを実施した結果、報酬単価の引き上げ、既存にはなかった送迎加算、1：1支援加算、単独型加算の創設や短期入所との併用にあたっての市独自運用ルールの制定に至りました。</p> <p>新事業開始にあたり、法人ホームページへの掲載、新事業制度の理解・把握のための内部研修等を実施し、利用者・保護者への説明、問い合わせに対応できるよう準備しました。</p> <p>今後、短期入所と同様に高齢化による利用ニーズの増加が予想されますが、本年度の傾向として短期入所を利用する前段階として当事業所に慣れるための利用や、夏休み等、長期の休み時期における学齢期の利用ニーズ（放課後等デイサービスと同じように利用したいというニーズ）また、在宅の方や不登校の児童の平日利用の希望が増えることが予想されます。</p> <p>基本的な方針として、160名という多くの契約者に一日の利用定員6名という“狭き門”を平等に利用していくなど機会を担保するために、定期利用は受けないこととしていますが、状況に応じた柔軟な対応は必要になってくると思われます。</p> <p>【利用状況】</p> <p>基本的には理由問わず受け入れました。利用定員6名において、半年間の実績として一日平均4、8名でした。※日中一時支援の定員は短期入所の定員に準ずるため6名ですが、市独自の運用ルールとして、日中一時支援単独で利用する方と、短期入所利用（17時～翌10時）と併用して利用する方は別カウントとなるため、実際は6名を超える日も少なくありませんでした。また、日帰りの利用ですが夕食提供を希望され、食事提供体制加算対象となった利用も月平均約10回でした。そして1：1支援加算は短期入所のそれと比較して算出できる割合が高かったです。これは日勤職員と夜勤職員の勤務時間が重なる時間帯（午後～夕方）での利用が多かったため1：1の配置が取れたためと思われます。</p> <p>利用回数について。4時間未満の利用が569回（月平均約9.5回）、4時間以上8時間未満の利用が264回（月平均約4.4回）、そして8時間以上の利用が36回（月平均6回）という実績でした。総利用回数は869回でその内訳は、法人事業所利用者549回、法人外244回、学齢期68回、未就学8回と短期入所では利用がなかった未就学児の利用もありました。</p> <p>令和2年度の利用契約者数は160名。収入は約806万円（月平均約134万円）でした。半年間での実績として次年度の実績予測の参考としてまいります。</p>
家族支援等推進事業	<p>【事業廃止について】</p> <p>仙台市の方針として、令和2年9月末日を以て事業廃止に至りました。（市独自の補助事業として大きな見直しの時期となり、同等のニーズは国の制度である短期入所、日中一時支援に切り替えるという方針）利用者・保護者が混乱しないよう事業廃止・移行のお知らせを配付し、質問や問い合わせにも丁寧に対応するよう心掛けました。</p> <p>令和2年度の利用実績（4～9月）は、日中介護が1,451時間、送迎が251時間、宿泊介護が167泊（1,670時間カウント）の合計3,372時間でした。コロナ禍による利用控えの影響も大きく、家族の所用のため、宿泊の練習という理由での利用が著しく減少し、市の補助基準額申請時間の最低ランク（3,490時間）にも満たない実績となりました。（他事業所も同様の状況だったとのことです。）</p>
環境業務受託事業	<p>(1) 環境整備業務</p> <p>福祉的就労の場として一般就労に向けて実体験を積み上げました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市体育館（従事者3名、支援職員1名） * 次年度より福祉サービス事業所コキアに移行しました。 <p>(2) 環境整備員指導業務</p> <p>障害者雇用の就労先において清掃業務の指導を行い職場定着に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市戦災復興記念館（支援職員1名） ・仙台市4市民センター（支援職員1名） <p style="text-align: right;">*北山、貝ヶ森、柏木、中山</p>

II 個別概況

1. 経営組織活動

(1) 評議員会 3回（そのうち2回は、省略評議員会）

◇令和2年6月19日（第70回）

第1号議案 平成31年度計算書類及び財産目録の承認

◇令和2年8月11日（第71回）<書面での同意による評議員会の決議>

第1号議案 くるみの木改築に係る独立行政法人福祉医療機構からの借入

第2号議案 定款の一部変更

◇令和2年10月29日（第72回）<書面での同意による評議員会の決議>

第1号議案 基本財産の処分

(2) 理事会 5回

◇令和2年6月4日（第141回）

第1号議案 平成31年度事業報告及び平成31年度決算書類の承認

第2号議案 産前産後休業等代替職員の就業規則の廃止

第3号議案 諸規程の一部改正

①リフレッシュ休暇規程の一部改正

第4号議案 定時評議員会の招集

第5号議案 評議員選任・解任委員の選任

第6号議案 苦情解決第三者委員の選任

◇令和2年7月31日（第142回）

第1号議案 くるみの木改築工事制限付き一般競争入札に係る募集要項

第2号議案 契約事務に関する審査委員会の委員の指名

第3号議案 今後のスケジュール

第4号議案 くるみの木改築に係る独立行政法人福祉医療機構からの借入

第5号議案 定款の一部変更

第6号議案 諸規程の一部改正

①経理規程

②組織運営規程

③職員就業規則

④指定短期入所事業所サポートはぎ運営規程

第7号議案 評議員会の決議の省略に基づく評議員会の目的である事項の決定

◇令和2年8月21日（第143回）

第1号議案 令和2年度事業計画（下半期）

第2号議案 補正予算（令和2年8月）

第3号議案 指定短期入所事業所サポートはぎ 地域生活支援事業（日中一時支援）運営規程の制定

第4号議案 諸規程の一部改正

①職員就業規則

②障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）ワクスもくれん運営規程

③障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）くるみの木運営規程

④障害福祉サービス事業就労継続支援（B・A型）コキア運営規程

⑤障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）工房かやの実運営規程

⑥障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）ホープすずかけ運営規程

⑦障害福祉サービス事業生活介護ホープすずかけ運営規程

⑧障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）ワーキングギルド花梨運営規程

⑨障害福祉サービス事業生活介護ワーキングギルド花梨運営規程

◇令和2年10月29日（第144回）

第1号議案 基本財産の処分

第2号議案 評議員会の決議の省略に基づく評議員会の目的である事項の決定

第3号議案 補正予算（令和2年10月）

第4号議案 日中支援型グループホーム開設及び賃貸式グループホーム 建物賃貸借契約

第5号議案 指定居宅介護・指定重度訪問介護事業・指定行動援護事業・指定同行援護事業
・地域生活支援事業（移動支援事業）ヘルパーステーションコスモス運営規程の制定

第6号議案 諸規程の一部改正

- ① 経理規程
- ②職員就業規則
- ③パート職員就業規則
- ④雇用職員就業規則
- ⑤嘱託職員の就業に関する規程
- ⑥障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）ワクスもくれん運営規程
- ⑦障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）くるみの木運営規程
- ⑧障害福祉サービス事業就労継続支援（B・A型）コキア運営規程
- ⑨障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）工房かやの実
- ⑩障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）ホープすずかけ
- ⑪障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）ワーキングギルド花梨運営規程
- ⑫障害福祉サービス事業生活介護大野田はぎの苑運営規程
- ⑬障害福祉サービス事業生活介護工房しらかば運営規程
- ⑭障害福祉サービス事業生活介護とちのき運営規程
- ⑮障害福祉サービス事業生活介護工房けやき運営規程
- ⑯障害福祉サービス事業生活介護こぶし運営規程
- ⑰障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）くるみの木運営規程

◇令和3年3月17日（第145回）

第1号議案 <1>補正予算（令和3年3月）

<2>純資産「その他の積立金」の積立て

第2号議案 令和3年度事業計画及び令和3年度収支予算

第3号議案 諸規程の一部改正

- ①理事職務権限規程
- ②組織運営規程
- ③職員就業規則
- ④職員給与規程
- ⑤育児休業及び介護休業規程
- ⑥嘱託職員の就業に関する規程
- ⑦パート職員就業規則
- ⑧雇用職員就業規則
- ⑨障害福祉サービス事業生活介護工房しらかば運営規程

第4号議案 施設長の任免

第5号議案 苦情解決第三者委員の選任

第6号議案 保険契約の更新

(3) 監事監査 1回 (5/25)

(4) 評議員選任・解任委員会 0回

(5) エリア会議 10回※4月5月はコロナ感染予防のため中止

南部 (7/2 7/30 8/28 9/28 11/13 11/27 12/25 1/29 2/26 3/23)

中部 (6/26 7/27 8/25 9/29 11/10 11/27 12/25 1/29 2/26 3/23)

北部 (6/26 7/27 8/28 9/28 11/2 11/30 12/25 1/28 2/26 3/22)

(6) 施設長会議 1回

7/9

(7) 経営会議 8回

4/21 7/21 8/20 10/29 11/19 1/19 2/16 3/17

(8) 苦情解決申し出（別表1）

(9) 施設運営委員会

それぞれ各2回程度開催し、運営や利用者理解の広がり、施設の自主製品の販路拡大など貴重な助言を得た。

2. 行事の開催

- ①第56回「成人を祝う会」の中止（予定：仙台サンプラザホテル 令和3年1月9日（土））
COVID19（新型コロナウイルス感染症）の感染拡大防止のため中止とし、次年度と合同で延期開催となります。
令和2年度新成人参加予定者 12名（法人事業所利用者10名、一般会員2名）
- ②次回 「成人を祝う会」 予定：令和4年1月8日（土） 於：仙台サンプラザホテル
※令和3年度新成人該当者 法人事業所 利用者8名（法人事業所利用者7名、一般会員1名）

3. 部会

(1) 販売業務訓練等事業

新型コロナウイルス感染拡大によりエスパルの約1ヶ月間の休業など、ゆめの森・はあと両店舗共に集客数が激減しました。計画していたエスパル内催事場でのワークショップなどは中止を余儀なくされましたが、新たな取り組みとして、年度途中より仙台市×総社市がコラボレーションし仙台市内福祉事業所が製作したデニムマスクの販売を行いました。また、店舗での販売以外でも売り上げ向上の目的でエスパル店内のショップへのチラシ配布、「ふれデリ」にも参加し配達等も行いました。デニムマスクの販売により例年の売上実績に比べ倍以上の実績を上げることができました。併せてその時期に必要なものを商品化した事業所の売上が伸び、デニムマスク以外でもコロナ禍ではありながら例年同様の売上に繋がりました。

- ・店舗…エスパル仙台店「ゆめの森」、みやぎ生協セラビ幸町店「はあと」
- ・訓練修了者…1名（就労先決定）
- ・支援スタッフ…コーディネーター1名、パート7名、ボランティア数650名（延べ人数）
- ・販売額…ゆめの森 7,354、438円、はあと5,237、436円 合計12,591、874円

(2) 給食部会

法人内給食に関する管理・運営、栄養士による献立作成、給食の提供、利用者それぞれの身体状況に合わせた調理方法により、やわらか食やソフト食など食べやすい形態にして提供を行いました。給食担当者対象の調理研修会及び全体会議は、新型コロナウイルス感染予防から実施できませんでした。

- ・栄養士による献立作成、栄養指導、衛生指導
- ・給食部会議（毎月1回）
- ・食事に関するアンケート『新型コロナウイルス感染症による食事について』実施
- ・給食だより38号の発行
- ・給食担当者対象の調理研修会及び全体会議（中止）

(3) スポーツ・レクリエーション部会

①第18回スポーツ・レクリエーションフェスティバルの中止（予定日：令和2年9月18日）

法人設立40周年記念行事としてシェルコムせんだいで開催を予定していたが、法人関係者が一堂に会することに感染リスクが高まることや、例年協力いただいている大学等の協力が不確実なこと、感染状況により会場が使用になる可能性があることから中止しました。

②スポ・レク企画行事（月1回土曜日開催予定）

新型コロナウイルス感染防止のため、11月と12月のみ開催。他の月は中止しました。

会場：福祉プラザ プラザホール2回

③フットベースボール競技全体会（月1回日曜日開催予定）

新型コロナウイルス感染防止のため、11月と12月のみ開催。他の月は中止としました。

会場：大野田小学校 2回

④フットベースボール競技強化練習会

新型コロナウイルス感染防止のため、11月と12月のみ開催。他の月は中止としました。

全国障害者スポーツ大会北海道・東北ブロック予選大会出場を予定していたが大会が中止となりました。

東北地区親善交流フットベースボール大会を開催予定を中止とした。（予定日：令和2年9月13日 シェルコムせんだい）

⑤宮城県・仙台市障害者スポーツ大会予選会FD競技強化練習会を中止としました。

(4) 生活支援部会

テーマ「福祉のまちづくりの推進」

①暮らしの場検討委員会；利用者支援のあり方を追求し、質の向上に努めてきました。

当年度は新型コロナ感染予防のため、対面での活動が出来ず、スタッフ間にて話し合いを重ねました。

今後、委員会の方向性とあり方について模索していきます。

②健康管理検討委員会；利用者の健康管理に対する職員の意識の向上に貢献する方向で進めしていましたが、特に委員会から発信する場面はありませんでした。委員会で作成した健康カードをグループホームにて試行的に導入したので、他の事業所にて活用出来るように検討します。

③命を支える食検討委員会；食に関する知識や情報の提供機関という認識の定着をテーマに、「もぐもぐ通信」3回、おり～ぶ通信との共同で1回発行しました。グループホーム世話人へのアンケート調査（グループホームでの食事提供について）を行いました。

④豊かな余暇検討委員会；一般就労されている方を対象とした「おしゃべりサロン」について、感染予防のため開催が出来ませんでした。新たな取組みで電話や郵送にてメンバーとの意見交換を行いました。想いを受け止め

ながら孤立を防いでいきたいと思います。

(5) 人財育成部会

法人内集合研修として、階層別研修とB S担当者研修を実施しました。
新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、4月、5月の集合研修は行わず、6月より再開しました。
1月からはzoomを使用したリモート開催としました。

◎階層別研修（全24回）

新規採用者研修（8月2回）「接遇について」

一級職員（全9回/各3回）※①は感染予防のため、各管理者より実施。

「①一級職員に求められること・メンタルヘルス」「②てんかん基礎講座」

「③合理的配慮（自閉スペクトラム症・発達障害の方への支援）◆リモート」

二級職員（全9回/各3回）

「①二級職員に求められること・メンタルヘルス」

「②合理的配慮（自閉スペクトラム症・発達障害の方への支援）」「③権利擁護◆リモート」

副主任（全2回）※①は感染予防のため中止。

「①コンプライアンス◆中止」「②③O J Tリーダー研修」

パート職員研修（全2回/②のみ二部制）

「①②理事長講話・虐待防止について・グループワーク」

◎B S担当者研修（全8回/各2回）※①は感染予防のため各管理者より実施。

「①B S制度の目的と担当者の役割」

「②③フォローアップ研修」「④振り返り・まとめ◆リモート」

4. その他

(1) 社会の啓発

①宮城県特別支援教育研究会への助成

②報道機関への情報提供活動

③法人ホームページの運用

(2) 関係団体との連絡活動

①仙台市手をつなぐ育成会・家族会との緊密な連携による活動展開

②仙台市知的障害者関係団体連絡協議会、宮城県知的障害者福祉協会、宮城県社会福祉法人

経営者協議会、認定特定非営利活動法人 災害福祉広域支援ネットワークサンダーバード

など関係団体の行う社会福祉諸活動との緊密な連携による活動展開

(3) 大会等参加活動

・ 第 55 回 仙台市社会福祉大会共催

（仙台市民会館）

令和2年9月1日

）

(4) 寄付金寄贈者（順不同・敬称略）〈物品寄付を含む〉

株式会社友恵、工房しらかば保護者会、宮川としえ、こぶし保護者会、とちのき保護者会、関口鉄男
大野田はぎの苑保護者会、大野田町内会、西大野田町内会、一般社団法人仙台建設業協会、相澤伸一

菊池正子、大竜陽子、ワーキングギルド花梨保護者会、斎藤博子、岡島宏文、佐藤智子、大和務、

工房けやき保護者会、大友久子、市川成勝、町田祐左、山崎教史、後藤伸男、榊原絢子、渡部務、

佐藤俊夫、伊藤健穂郎

別表1

苦情解決申し出

※問い合わせ相談など、窓口や電話の初期応対により解決した案件を除く。

施設名	受付日	苦情の概要	苦情改善の概要	第三者委員	解決確認日	適正化委員会付議
どちらのき	令和2年1月17日	朝の送迎車内にて、他利用者に髪の毛を強く引っ張られ、多量の毛が抜けてしまった。夕方にご自宅へ謝罪に伺うが、こちらの対応(その際の説明と実状の差や、その際の態度など)に父が憤慨し、次の日からどちのきを欠席となる。年度が変わってからも職員が定期的に自宅を訪問したり、父と外でお会いし繰り返し謝罪を行ったが、お許しをいただくことが出来ず、ご本人の欠席が続き、年度内1度も登所日がない状態で令和3年3月末をもって他事業所へ異動が決まり、退所となってしまった。	事故当日夕方から職員が自宅へ伺い、謝罪とご本人の様子の確認を行ったが、ご本人やご家族からお許しを得ることが出来ないまま年度を跨いでしまった。2年度以降体制の変更後も、継続的に家庭訪問を続け謝罪を行うが、状況は平行線のままだった。サポートはぎ相談事業相談員、仙台市障害高齢課もこの案件に携わり、ご家庭と話を行うが、結論を見出すことが出来なかった。また理事長からもご家族へ直接謝罪をしたいとお伝えしたが、受け入れていただくことが出来ず、謝罪のお手紙を郵送した。令和3年度より他法人の事業所へ異動したが、今後も継続してご家庭に対して謝罪を続けていく。	不参加	継続中	なし
宮城野障害者福祉センター	令和2年4月1日	ご家族より電話にて、雨の中送迎で帰宅した際、ズボンのすそが3分の1濡れた状態だった件について、男性職員の配慮不足への指摘を受ける。	いただいた電話にて、当該状況について、職員の配慮不足をサービス管理責任者より謝罪する。送迎から戻った職員と、状況について確認したところ、その場で濡れている状況を双方で確認しており、謝罪していたとのこと。翌日、再度電話連絡し、対応する際の配慮点や本人の状態を再度共有し、再発防止に努めることを伝え、理解を得た。	不参加	令和2年4月2日	なし
おりづぶ釣取	令和2年4月22日	(別件での電話連絡時に保護者より)先日、利用児がマスクを着けず、ポケットに入れたまま帰宅した。マスクを着けるよう声掛けしてほしかった。	管理者より謝罪する。その日学校への迎え時はマスクをしていたが、活動中に外してしまい、そのまま帰宅してしまっていた。今後は確実にマスクを着けるよう、必ず声掛けを行うことをお伝えし、納得していただいた。	不参加	令和2年4月22日	なし
宮城野障害者福祉センター	令和2年7月8日	帰りの送迎に乗れなかった利用者とともに、職員が帰宅すると、「なぜ、タクシーに乗せなかつたのか、歩かせることで、事業所へいかなくなつたら困る」といったお叱りを受ける。	送迎乗車できなかつた時点で保護者への電話がなかなかつながらず、前年度の支援状況と本人との確認により、徒歩で帰宅した。 苦情を受け、職員が徒歩帰宅の判断をしたことを謝罪したが、対面での応対はかなわず、翌日も迎えに来ることを伝えて自宅を後にする。翌日、渋ることなく本人は登所され活動に参加していた中、保護者よりこちらの着信への折り返しで連絡をいただき、再度の謝罪と今後の対応を再確認し、理解を得た。	不参加	令和2年7月9日	なし

工房しらかば	令和2年8月7日	母親より、「昨日日本人より、目中しらかばで暑いので保冷剤を貸してください、と職員に伝えたら、それはお家でお願いします、と返答された。熱中症でも亡くなっている方もいるのにどういうことなのか。また、本人が持参している保冷剤も持ち帰っていない。」という内容の電話が入る。	当日電話を受けた職員が謝罪をする。その後、改めて対応した職員に状況を確認し後日、主任・ケース担当者より謝罪をする。改めて保冷剤の件については本人からの訴えがあつた際以外にも本人の状況を職員が隨時確認し必要な支援を行うことを確認した。	不参加	令和2年8月11日	なし
サポートはぎ（短期）	令和2年8月19日	短期入所を長期で利用されている方について、保護者からんかん発作記録の記入を依頼されていたが、職員間の引継ぎが不十分だったため、記入が滞ってしまっていた。保護者から「頼んでいたのに！」と叱責を受ける。	問い合わせがあった電話にて謝罪。その後、電話対応した職員から主任（当日、公休）へ報告し、翌日、主任から改めてお詫びをいれた。発作表の記入についてマニュアル化を図る等、分かりやすい引継ぎを行うことで漏れなく記入する改善案等を提示し、ご了承していただいた。	不参加	令和2年8月20日	なし
ホームすずかけ	令和2年9月11日	利用者のご家庭より本人の障害特性を施設長、主任に理解してもらえない満足のいく取り組みをしてもらえないと理事長へ連絡あり。以前から変化が苦手、人へのこだわりが強い特性の対応を求めていたが徹底されず本人の不安定の要因となり家庭でのパニックにつながり負担となっている。	理事長より報告を受け家庭に連絡し謝罪と確認をする。本人の安心できる環境の設定がなによりも大事であることを伝えそれに向けて対応を全職員共有して行うことを伝えた。本人の苦手な変化については事前に家庭とも共有し対策をとり安心していただけるよう支援していくことを約束し、書面に記録し了承をいただいた。	不参加	令和2年9月15日	なし
サポートはぎ（短期）	令和2年10月9日	朝、前日宿泊したパート職員から就寝前の服薬を忘れてしまったと報告ある。報告を受け即謝罪の電話を入れたが「直接ミスしたパート職員が何故謝罪しないのか」「以前にも服薬ミスがあったのに何故繰り返すのか」「何故、うちの息子に学生パートを対応させているのか」等、厳しい叱責を受けた。	改めて謝罪し、翌日には主任からも謝罪。服薬利用者一覧の掲示方法を変える等の改善案を提示、また、当面、ご本人の対応はパート職員ではなく正規職員が担当することを伝え、ご了承していただいた。	不参加	令和2年10月10日	なし
仙台ふきのとう	令和2年10月30日	夜勤の職員が、入居者帰省の際に、ホームで管理している薬袋を間違えてご家庭に渡してしまい、問い合わせがあった。その際に袋の管理状況が悪いと叱りを受ける。ご家庭に渡さないものだからと、整理されずに乱雑に薬や説明書などが入っていた。	連絡を受けた副主任と現場の担当者が、袋の回収とお詫びのため家庭訪問した。袋の中身を見せてもらい、管理がなっていないことを改めてお詫びした。その後、管理方法について協議し、現場で共有した。	不参加	令和2年10月30日	なし

ホープすずかけ	令和2年11月25日	日ごろから家庭と事業所の情報の共有のツールとして連絡帳のやり取りをしているが家庭からの記述に返答や確認の印もない日があった。体調等重要な連絡なのに伝わっているのかが不安である。	施設長より連絡し不信感を抱かせてしまったことを謝罪する。連絡帳の意味と確認する時間を全職員で周知した。	不参加	令和2年11月25日	なし
ホープすずかけ	令和2年12月14日	朝の送迎の際、利用者の支度に時間がかかるため送迎車内にて添乗員、ドライバーが待機していたが利用者が玄関から出てきても気が付かずスマートフォンを閲覧していた。車内には他の利用者もおり、安全とサービスの意識が欠けているのではないか。	施設長より添乗員、ドライバーに聞き取りを行い事実確認を行った上で謝罪の連絡を行う。勤務中は常にサービス提供者の意識を持ち、集中して仕事にあたることを対象者に確認、注意した旨を伝え承していただいた。	不参加	令和2年12月14日	なし
ホープすずかけ	令和2年12月16日	降雪の為、送迎車がいつもの時間よりも遅れて到着する。遅れると連絡はあったものの他の車と連携をとって遅れをすくなくしてほしい。待つ身として遅れるにしても今どこの地点に車がいるのか把握するため添乗員と直接やりとりをしたい。	連絡し送迎サービスの状況について説明する。効率よく、できる範囲で臨機応変に対応はしているが、安全第一を考慮してサービス展開をしていること。到着の予定時間はお知らせしているが10分程度は道路事情によつては前後することは理解してほしい旨を伝えた。重ねて悪天候の場合はなおさら到着の時間は読めず遅れが決定的になった場合、車内の添乗業務に支障がないように添乗員から直接連絡するのではなくすずかけから各家庭に連絡することにしている点の理解を求め承いただいた。	不参加	令和2年12月16日	なし
宮城野障害者福祉センター	令和3年1月13日	相談事業所より、健康診断の再検査について悩んでいたとの情報をいただいたため、朝の送迎の際に、お話を伺おうと確認したところ、事業所で同行した健康診断で再検査になつたが、受けた病院で経過を見てもられないのであれば、受けた意味がない。今後は健診は受けないし、生活介護ももう通わせない。といった苦情に至る。	健康診断はこれまで受診していたが、再検査となつたのは初めてのことだった。相談があつた際、かかりつけ受診をすすめたことから、保護者との間に認識の相違があつたことが分かる。説明が不十分だったことを謝罪したが、相談支援事業所へ、退所の意向がある。 後日、管理者・サビ管が相談員とともに家庭訪問し、説明が不十分だったことを改めて謝罪し、再検査や次年度以降の健診についてお互いに確認する。また、本人が笑顔で利用している様子なども保護者に伝えていくことを約束し、利用継続への理解を得る。	不参加	令和3年1月21日	なし
工房けやき	令和3年2月19日	保護者より、担当職員が公休不在の日における連絡帳への記載がなく、先に返却していた支給金袋の受け取りの記載もなかった。担当職員以外は何をしているのか、と後日電話にてご意見をいただく。	担当職員および施設長より電話にて、職員間での確認不足であったことをお詫びし、今後も担当職員不在時の担当者を明確にして対応することを伝え、ご了承いただく。	不参加	令和3年2月19日	なし

サポートはぎ (短期)	令和 3年 2月 23日	予約の返事が滞っていたことと、大切な用事があるため是非とも利用したいというニーズだったにも関わらず、職員間の引継ぎが不十分だったためお断りしてしまったことで、「ルール通り、2ヶ月前には予約を入れたにも関わらず、何故、そういうことになるのか?」と厳しい叱責を受けた。	電話対応した職員が謝罪。報告を受けた主任(当日、公休)が翌日に改めて謝罪の電話を入れた。 いったん断ってしまった予約日について、シフト変更等調整し、必ずお受けする確約をすることと、今後、迅速な予約返答をしていくことを説明し、ご了承いただいた。	不参加	令和 3年 2月 23日	なし
----------------	-----------------------	--	--	-----	-----------------------	----

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置			
											国基準	指定配置	実配置	
平成31年度	40	51	2	1	同居家族逝去	42.1	4.5	239	10,815	45.3	5 : 1	5 : 1	3.9 : 1	
令和2年度	40	51	2	2	高齢に伴う体調不良、介護保険施設へ移行	41.5	4.6	240	10,549	43.9	5 : 1	5 : 1	3.1 : 1	

2. 状況内訳

	障害支援区分								年齢区分(歳)								介護保険 利用者					
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上		
平成31年度	男	0	0	0	1	13	9	3	26	21	4	1	1	3	8	5	8	1	0	1	0	27 0
	女	0	0	0	2	13	4	6	25	24	0	1	1	4	4	6	6	1	1	0	24	2
	計	0	0	0	3	26	13	9	51	45	4	2	2	7	12	11	14	2	1	2	0	51 2
令和2年度	男	0	0	0	1	12	10	4	27	23	3	1	1	4	7	6	7	2	0	0	0	27 0
	女	0	0	0	3	11	5	5	24	23	0	1	1	5	4	6	4	3	0	0	1	24 1
	計	0	0	0	4	23	15	9	51	46	3	2	2	9	11	12	11	5	0	0	1	51 1

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算							
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人數	補助額(円)	人數	給付額(円)		
								26	1	2	2	2	1	3	4	0	1	0	0	0	0	10	0	0	
平成31年度	男	26	1	2	2	2	2	1	3	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	
	女	24		3	1	1	1	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	12	10,296,000	0	0
	計	50	1	5	3	3	3	3	6	7	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	22	0	0	
令和2年度	男	26	1	2	2	2	2	2	3	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	1,071,428	
	女	24		3	2	1	1	2	3	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	11	7,890,000	1	1,071,428
	計	50	1	5	4	3	3	4	6	7	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	20	2	2	

4. 食事提供状況

	延べ食数							特定費用収益 (円)	食事提供加算(円)	車両数 (台)	ルート数	ドライバー数	延利用率	送迎加算	送迎加算(円)	
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計									人數	給付額(円)
	平成31年度	9,207	466	528	228		10,429	2,920,120	3,241,973	6	6	4	11,792	1	2,567,943	
令和2年度	9,084	470	526	215		10,276	2,878,680	3,196,863	6	6	4	11,768	1	2,562,717		

6. 職員状況

	正規						非正規						正規職員退職理由						人員配置体制 加算	福祉専門職員 配置加算	常勤看護職員 配置加算	重度障害者支 援加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	原因	原因	原因	原因	原因	原因	原因	原因	原因				
	平成31年度	男	4	1	0	5	2	0														
令和2年度	男	4	1	1	6	1	0															
	女	8	2	1	8	0	0															
	計	12	3	2	14	1	0															

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員														その他						サービス管理責任者	
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援指導者	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理者	
	平成31年度	男	4	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	24
令和2年度	正	3	4	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	26
	非	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	26
	計	実人数 (14 人)						総時間数 (460.0 h)						4 1 1 3 1								

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	40	52	2	1	死亡	41.0	4.8	239	11,827	49.0	5 : 1	5 : 1	3.6 : 1
令和2年度	40	52	0	0		40.0	4.8	239	11,802	49.5	5 : 1	5 : 1	3.4 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)										利用者 保険	
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計		
平成31年度	男	0	0	0	2	9	12	6	29	22	6	0	1	7	6	11	3	0	0	0	1	29	0
	女	0	0	0	1	8	11	3	23	13	9	0	1	5	3	7	4	3	0	0	0	23	1
	計	0	0	0	3	17	23	9	52	35	15	0	2	12	9	18	7	3	0	0	1	52	1
令和2年度	男	0	0	0	2	8	13	6	29	23	6	0	0	8	6	9	6	0	0	0	1	30	0
	女	0	0	0	1	6	10	6	23	13	10	0	0	5	4	6	3	2	2	0	0	22	1
	計	0	0	0	3	14	23	12	52	36	16	0	0	13	10	15	9	2	2	0	1	52	1

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算						
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人数	補助額(円)	入数	給付額(円)	
平成31年度	男	27	7	2	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	11		10		
	女	16	2	5	1	1	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	7	8,268,000	5	4,727,984
	計	43	9	7	1	1	1	1	1	2	2	1	2	0	0	0	1	0	0	0	18		15	
令和2年度	男	27	7	2	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		14	
	女	16	2	5	1	1	0	3	1	1	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	6	3,240,000	7	13,350,690
	計	43	9	7	1	1	1	3	1	2	2	1	2	0	0	0	1	0	0	0	13		21	

4. 食事提供状況

	延べ食数					特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用者数	送迎加算	送迎加算(円)	
	普通	一口大	柔らか	ソフト	その他	合計								
平成31年度	10,209	214	1,038	0	0	11,461	3,250,120	3,565,517	5	5	5	11,332	I・II	5,758,129
令和2年度	6,971	910	218	336	2,799	11,234	3,180,870	3,494,837	5	5	5	13,425	I・II	6,821,645

6. 職員状況

	正規			非正規			正規職員退職理由	員員配置体制加算	福祉専門職員配置加算	常勤看護職員等配	重度障害者支援加算				
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者									
平成31年度	男	6	1	0	12	0	0	体調不良により							
	女	7	1	2	7	0	0								
	計	13	2	2	19	0	0								
令和2年度	男	5	0	1	8	1	1	自己都合により							
	女	7	0	0	13	1	0								
	計	12	0	1	21	2	1								

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員													その他					合計実人數		
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎・実践研修指導者	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理理士	サービス管理責任者
平成31年度	正	3	1	0	1	2	0	3	3	0	1	0	0	0	0	0	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	32
	非	0	1	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0	2	1	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼		
	計	実人數(19人)					総時間数(600.8 h)					5	1	1	4	1	1				
令和2年度	正	3	2	0	4	2	0	6	3	0	3	0	0	0	0	1	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	33
	非	0	0	0	3	5	0	1	0	0	0	0	0	2	1	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼		
	計	実人數(20人)					総時間数(664.0 h)					5	1	1	5	1	1				

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	
平成31年度	38	49	1	0		38.4	5.5	241	10,980	45.6	3 : 1	2 : 1	1.8 : 1
令和2年度	38	49	0	0		39.4	5.7	242	11,205	46.4	3 : 1	1.7 : 1	1.6 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金		年齢区分(歳)									介護保険 利用者	
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	
平成31年度	男	0	0	0	0	5	6	25	36	31	0	5	1	7	14	7	5	2	0	0	36 0
	女	0	0	0	0	1	2	10	13	13	0	0	0	0	7	2	2	0	1	1	0
	計	0	0	0	0	6	8	35	49	44	0	5	1	7	21	9	7	2	1	1	0
令和2年度	男	0	0	0	0	3	8	25	36	35	0	1	0	8	14	6	6	2	0	0	36 0
	女	0	0	0	0	1	2	10	13	13	0	0	0	0	7	1	3	0	1	1	0
	計	0	0	0	0	4	10	35	49	48	0	1	0	8	21	7	9	2	1	1	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算				
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人数	補助額(円)	人数
平成31年度	男	34	2	11	0	1	0	3	3	2	0	0	6	0	0	0	0	1	1	0	19	8
	女	13	0	5	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	9	13,104,000	2
	計	47	2	16	0	1	0	4	4	4	0	0	7	0	1	0	1	0	1	0	28	10
令和2年度	男	34	2	11	0	1	0	3	3	2	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	13	16
	女	13	0	5	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	8,610,000	4
	計	47	2	16	0	1	0	4	4	4	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	20	20

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益 (円)	食事提供加算(円)	車両数 (台)	ルート数	ドライバー数	延利用率 者数	送迎加算 (円)	送迎加算 (円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計								
平成31年度	6,389	1,701	2,405	0	0	10,495	2,946,440	3,001,488	9	9	6	16,710	I・II	8,513,579
令和2年度	6,787	1,311	2,209	0	0	10,307	2,885,960	3,185,664	9	9	6	17,175	I・II	8,727,132

6. 職員状況

	正規						非正規						正規職員退職理由						人員配置体制 加算	福祉専門職員 配置加算	常勤看護職員等配 置加算	重度障 害者支 援加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	親の介護															
平成31年度	男	15	3	0	6	1	0	親の介護														
	女	7	1	1	19	1	1															
	計	22	4	1	25	2	1															
令和2年度	男	14	2	0	6	1	1															
	女	9	3	1	21	5	5															
	計	23	5	1	27	6	6															

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員													その他					合計実人 数			
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎・実践研修	行動障害支援指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理士	管理者	サービス管理責任者	
平成31年度	正	6	3	0	0	2	2	6	0	2	0	0	0	5	0							43
	非	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	5	4	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	
	計	実人數 (29 人)						総時間数 (1015.8 h)						6	1	1	4	1	1	1	1	
令和2年度	正	9	3	0	1	2	2	6	0	0	0	0	0	3	1							52
	非	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	5	4	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	
	計	実人數 (37 人)						総時間数 (1179.3 h)						6	1	1	5	1	1	1		

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	10	9	0	0		36.7	3.8	241	2,100	8.7	10 : 1	7.5 : 1	3.4 : 1
令和2年度	10	11	2	0		33.4	3.1	242	2,526	10.4	10 : 1	7.5 : 1	3.3 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金		年齢区分(歳)										利用者		
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計		
平成31年度	男	1	0	0	3	4	1	0	9	3	4	2	0	3	3	2	0	1	0	0	0	9	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	3	4	1	0	9	3	4	2	0	3	3	2	0	1	0	0	0	9	0
令和2年度	男	2	0	0	3	5	1	0	11	3	4	4	2	3	3	2	0	1	0	0	0	11	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	0	0	3	5	1	0	11	3	4	4	2	3	3	2	0	1	0	0	0	11	0

3. 障害の状況

	療育手帳	身体障害者手帳(級)								精神手帳	医療ケア					重度加算		月額平均工賃	1日平均労働時間			
		A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人数	補助額(円)
平成31年度	男	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	391,000	10,758
	計	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
令和2年度	男	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	360,000	13,203
	計	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用率	送迎加算	送迎加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計								
平成31年度	1,755	0	221	0	0	1,976	553,840	613,260	2	3	2	2,021	1	437,996
令和2年度	2,217	232	0	0	0	2,449	685,720	760,017	2	3	2	2,216	1	481,182

6. 職員状況

	正規		非正規		正規職員退職理由	目標工賃達成指導員配置加算	重度者支援体制加算	福祉専門職員配置加算	移行支援体制加算
	総数	新規	退職者	総数	新規				
平成31年度	男	3	0	0	6	0			
	女	2	0	0	7	0			
	計	5	0	0	13	0			
令和2年度	男	3	0	0	6	1			
	女	2	0	1	7	4			
	計	5	0	1	13	5			

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人數			
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援指導者	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバ	事務員	栄養士	調理士	管理者	サービス管理責任者
平成31年度	正	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	18
	非	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	
	計	実人數(5人)					総時間数(116.0 h)					0	6	1	1	4	1	1				
令和2年度	正	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	19
	非	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	
	計	実人數(5人)					総時間数(120.0 h)					0	6	1	1	4	1	1				

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	40	48	1	1	他施設への異動（就労移行支援）	38.6	2.8	294	10,536	35.9	10 : 1	6 : 1	3.5 : 1
令和2年度	40	45	0	2	他施設への異動/体調不良による退所	36.8	2.8	277	10,039	36.2	10 : 1	6 : 1	3.2 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分									年金			年齢区分（歳）									介 利 用 者 保 険	
	非 該 当	区 分 1	区 分 2	区 分 3	区 分 4	区 分 5	区 分 6	計	1 級	2 級	無	20 未満	20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~64	65 ~69	70 ~74	75 以上			
平成31年度	男	5	1	2	10	9	0	0	27	6	9	12	1	9	5	10	0	0	2	0	0	27	0
	女	1	0	3	8	8	1	0	21	10	9	2	0	3	8	10	0	0	0	0	0	21	0
	計	6	1	5	18	17	1	0	48	16	18	14	1	12	13	20	0	0	2	0	0	48	0
令和2年度	男	5	0	2	10	9	0	0	26	7	9	10	0	9	5	10	0	0	2	0	0	26	0
	女	1	0	3	7	7	1	0	19	9	8	2	0	3	5	11	0	0	0	0	0	19	0
	計	6	0	5	17	16	1	0	45	16	17	12	0	12	10	21	0	0	2	0	0	45	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)									精神手帳	医療ケア					重度加算		月額平均工賃	1日平均労働時間		
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人數	補助額(円)		
平成31年度	男	11	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1,599,000	15,497
	女	11	10	4	3	0	0	0	0	3	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0		
	計	22	26	4	3	0	0	0	0	3	1	2	1	0	0	0	2	0	0	0	4		
令和2年度	男	11	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1,140,000	15,805
	女	10	9	4	3	0	0	0	0	3	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0		
	計	21	24	4	3	0	0	0	0	3	1	2	1	0	0	0	2	0	0	0	4		

4. 食事提供状況

	延べ食数					特定費用収益(円)	食事提供加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他		
平成31年度	9,159	0	0	0	0	9,159	2,568,440
令和2年度	8,861	0	0	0	0	8,861	2,519,440

5. 送迎サービス状況

車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用率	送迎加算	送迎加算(円)
0	0	0	0		0
0	0	0	0		0

6. 職員状況

	正規			非正規			正規職員退職理由	目標工賃達成指導員配置加算	重度者支援体制加算	福祉専門職員配置加算	移行支援体制加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者					
平成31年度	男	7	0	0	1	0	自己都合による退職（病休からの退職）	有	Ⅱ	Ⅰ	無
	女	4	0	0	11	0					
	計	11	0	0	12	0					
令和2年度	男	7	1	1	1	0	自己都合による退職（転職/県外転居）	有	Ⅱ	Ⅰ	無
	女	6	0	2	11	0					
	計	13	1	3	12	0					

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人数		
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎・実践研修	行動障害支援者	福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理者
平成31年度	正	2	2	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	2		専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	23
	非	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼		
	計	実人数（18人）					総時間数（548.0 h）					0	0	1	1	3	1				
令和2年度	正	2	2	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	6		専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	25
	非	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼		
	計	実人数（17人）					総時間数（640.0 h）					0	0	1	1	3	1				

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	35	42	1	1	入所施設に移行	38.7	4.1	242	9,251	38.2	5 : 1	5 : 1	4.1 : 1
令和2年度	35	43	1	0		38.4	4.2	241	9,313	38.6	5 : 1	5 : 1	4.1 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金		年齢区分(歳)									介護保険		
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上		
平成31年度	男	0	0	0	4	10	5	2	21	11	9	0	0	8	4	8	1	0	0	0	21 0	
	女	0	0	0	5	11	2	3	21	12	9	0	0	5	5	4	0	0	2	0	21 1	
	計	0	0	0	9	21	7	5	42	23	18	0	0	13	9	13	5	0	0	2	0	42 1
令和2年度	男	0	0	0	4	8	5	4	21	12	9	1	1	7	4	8	2	0	0	0	0	22 0
	女	0	0	0	5	11	4	2	22	12	9	0	0	5	3	7	4	0	0	1	1	21 1
	計	0	0	0	9	19	9	6	43	24	18	1	1	12	7	15	6	0	0	1	1	43 1

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算					
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	入数	補助額(円)	人数	給付額(円)
平成31年度	男	15	6	6	0	0	0	0	1	2	1	0	1	1	0	0	1	1	0	1	8	3	
	女	13	8	5	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	6,201,000	2	1,011,800
	計	28	14	11	0	0	0	0	2	5	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	14	5	
令和2年度	男	16	6	4	0	0	0	0	1	2	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	4	5	
	女	13	8	5	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	3,240,000	2	3,892,760
	計	29	14	9	0	0	0	0	2	5	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	9	7	

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用者数	送迎加算	送迎加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計								
平成31年度	7,268	1,488	0	22	0	8,778	2,457,840	2,723,992	4	4	3	8,621	1	1,877,395
令和2年度	7,327	1,284	0	0	0	8,611	2,647,400	2,678,882	4	4	3	9,171	1	1,997,168

6. 職員状況

	正規			非正規			正規職員退職理由	員配置体制加算	福祉専門職員配置加算	常勤看護職員等配置加算	重度障害者支給加算					
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者										
平成31年度	男	3	1	0	5	0	0	家庭の事情				無				
	女	5	1	1	7	1	1									
	計	8	2	1	12	1	1									
令和2年度	男	3	1	1	5	1	1	家庭の事情				無				
	女	5	0	2	8	3	1									
	計	8	1	3	13	4	2									

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人數		
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎・実践研修	行動障害支援指導者	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理理士
平成31年度	正	2	2	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	20
	非	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	21
	計	実人數(11人)						総時間数(408.5h)						3 1 1 2 1 1							
令和2年度	正	2	3	0	1	0	0	4	4	2	0	0	0	0	2	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	
	非	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	
	計	実人數(12人)						総時間数(417.5h)						3 1 1 2 1 1							

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由					平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用率	1日平均利用者数	人員配置		
															国基準	指定配置	実配置
平成31年度	36	42	2	1	一身上の都合により					38.2	4.3	242	8,996	37.1	5 : 1	5 : 1	3.2 : 1
令和2年度	36	43	1	0						38.8	4.5	245	9,253	37.8	5 : 1	5 : 1	3.5 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)									利用者 保護保 障		
	非 該 当	区 分 1	区 分 2	区 分 3	区 分 4	区 分 5	区 分 6	計	1 級	2 級	無	20 未満	20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~64	65 ~69	70 ~74	75 以上	計		
平成31年度	男	0	0	0	1	10	10	2	23	15	7	1	1	6	5	7	2	2	0	0	0	23	0
	女	0	0	0	2	8	5	4	19	8	10	1	1	4	5	7	2	0	0	0	0	19	0
	計	0	0	0	3	18	15	6	42	23	17	2	2	10	10	14	4	2	0	0	0	42	0
令和2年度	男	0	0	0	1	11	10	2	24	16	7	1	1	7	4	8	2	2	0	0	0	24	0
	女	0	0	0	1	8	6	4	19	9	10	0	0	4	4	7	4	0	0	0	0	19	0
	計	0	0	0	2	19	16	6	43	25	17	1	1	11	8	15	6	2	0	0	0	43	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)									精神手帳	医療ケア				重度加算		重度障害者支援加算			
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人數	補助額(円)	人數
平成31年度	男	17	6	3	2	0	0	2	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0
	女	13	6	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	7	6,786,000	0
	計	30	12	4	2	1	1	3	2	5	1	0	0	0	1	1	0	0	0	15	0	0
令和2年度	男	17	7	3	2	0	0	2	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	1
	女	13	6	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	7	5,760,000	0
	計	30	13	4	2	1	1	3	2	5	1	0	0	0	1	1	0	0	0	16	1	304,256

4. 食事提供状況

	延べ食数					特定費用収益 (円)	食事提供加算(円)	車両数 (台)	ルート 数	ドライ バー数 <small>(往復含)</small>	延利用 者数	送迎加算 (円)	送迎加算 (円)	
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他									
平成31年度	6,045	1,857	452	0		8,354	2,339,120	2,598,929	3	3	² <small>(往復含)</small>	9,135	1	1,989,329
令和2年度	5,833	1,946	464	0		8,243	2,308,880	2,564,397	3	3	² <small>(往復含)</small>	8,828	1	1,922,474

6. 職員状況

	正規						非正規						正規職員退職理由						人員配置体制 加算	福祉専門職員 配置加算	常勤看護職員等 配置加算	重度障 害者支 援加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
平成31年度	男	5	0	0	1	0	0															
	女	4	0	0	7	0	0															
	計	9	0	0	8	0	0															
令和2年度	男	5	1	0	1	0	0															
	女	4	0	0	7	1	1															
	計	9	1	0	8	1	1															

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人 数				
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援者	福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理者		
平成31年度	正	2	1	1	1	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0		■	●	●	●	●	17	
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	●	●	●	●	●	●		
	計	実人数 (13 人)												総時間数 (461.0 h)						2	1	1	2
令和2年度	正	3	2	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0		●	●	●	●	●	17
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	●	●	●	●	●	●		
	計	実人数 (12 人)												総時間数 (426.0 h)						2	1	1	3

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	30	36	1	0		37.0	4.8	242	8,002	33.1	5 : 1	5 : 1	3.7 : 1
令和2年度	30	36	1	1	他法人(就労継続支援B型)へ移行	37.6	4.8	240	8,076	33.6	5 : 1	5 : 1	3.7 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)										介護保険	
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計		
平成31年度	男	0	0	0	0	10	8	5	23	13	9	1	1	6	9	7	0	0	0	0	0	23	0
	女	0	0	0	0	4	6	3	13	9	4	0	0	3	3	5	1	1	0	0	0	13	0
	計	0	0	0	0	14	14	8	36	22	13	1	1	9	12	12	1	1	0	0	0	36	0
令和2年度	男	0	0	0	0	10	8	5	23	13	8	2	1	5	10	7	0	0	0	0	0	23	0
	女	0	0	0	0	4	6	3	13	9	4	0	0	3	3	5	1	1	0	0	0	13	0
	計	0	0	0	0	14	14	8	36	22	12	2	1	8	13	12	1	1	0	0	0	36	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)								精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算				
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人數	補助額(円)	人數	給付額(円)
平成31年度	男	16	7	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0
	女	11	2	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	8	8,034,000	0	0
	計	27	9	3	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	18	0	0	0
令和2年度	男	16	7	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	3	3,937,065	0
	女	11	2	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	7	4,620,000	2	3,937,065
	計	27	9	3	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	17	5	0	0

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用率	送迎加算	送迎加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計								
平成31年度	6,215	462	1,079	0	0	7,756	2,196,100	2,411,958	4	4	4	6,261	1	1,363,458
令和2年度	5,721	928	1,138	0	0	7,787	2,316,650	2,422,535	4	4	4	6,796	1	1,479,964

6. 職員状況

	正規						非正規						正規職員退職理由						人員配置休制加算	福祉専門職員配置加算	常勤看護職員等配置加算	重度障害者支拂加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
平成31年度	男	5	0	0	3	0	0												無	II	無	無
	女	5	0	0	6	1	1															
	計	10	0	0	9	1	1															
令和2年度	男	5	1	0	3	0	0												無	I	無	I
	女	5	1	0	5	0	0															
	計	10	2	0	8	0	0															

7. 配置職員取得資格状況(資格は重複記入・総数は実員数)

	支援職員												その他						合計実人数				
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理者	サービス管理責任者		
平成31年度	正	2	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	19	
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	專(兼)	專(兼)	專(兼)	專(兼)	專(兼)	專(兼)	19	
	計	実人数 (11 人)												総時間数 (308.0 h)						2	1	1	3
令和2年度	正	5	1	0	0	2	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	18	
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	專(兼)	專(兼)	專(兼)	專(兼)	專(兼)	專(兼)	18
	計	実人数 (11 人)												総時間数 (388.0 h)						2	1	1	2

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	
平成31年度	10	7	0	0		47.0	3.4	242	1,633	6.8	7.5 : 1	6 : 1	2.8 : 1
令和2年度	10	7	0	0		47.4	3.4	241	1,651	6.8	7.5 : 1	6 : 1	2.8 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)										介 利 用 者 保 険
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計	
平成31年度	男	0	0	1	1	3	0	0	5	0	5	0	0	0	3	2	0	0	0	0	5	0
	女	0	0	0	1	1	0	0	2	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0
	計	0	0	1	2	4	0	0	7	1	6	0	0	0	1	3	3	0	0	0	7	0
令和2年度	男	0	0	1	1	3	0	0	5	0	5	0	0	0	3	2	0	0	0	0	5	0
	女	0	0	0	1	1	0	0	2	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0
	計	0	0	1	2	4	0	0	7	1	6	0	0	0	1	3	3	0	0	0	7	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)										精神手帳	医療ケア					重度加算		月額平均工賃	1日平均労働時間
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人数	補助額(円)	
平成31年度	男	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	38,654	5.0
	女	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
令和2年度	男	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	38,348	5.0
	女	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用者数	送迎加算(円)	送迎加算(円)	
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計									
平成31年度	1,601	0	0	0	0	1,601	448,280	496,630	4	4	2	210	1	45,599	
令和2年度	1,644	0	0	0	0	1,644	460,320	509,968	4	4	2	220	1	47,770	

6. 職員状況

	正規			非正規			正規職員退職理由	目標工賃達成指導員配置加算	重度者支援体制加算	福祉専門職員配置加算	移行支援体制加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者					
平成31年度	男	2	0	0	2	0					
	女	3	0	0	5	1					
	計	5	0	0	7	1					
令和2年度	男	2	0	0	2	0					
	女	3	0	0	5	0					
	計	5	0	0	7	0					

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人數		
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援指導者	社会福祉士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理理員	サービス管理責任者	
平成31年度	正	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	12
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	
	計	実人數(3人)						総時間数(100.0 h)						1	2	1	1	3	1		
令和2年度	正	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	12
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	
	計	実人數(3人)						総時間数(100.0 h)						1	2	1	1	2	1	1	

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	20	24	3	2		40.6	1.8	315	5,305	16.8	7.5 : 1	6 : 1	6 : 1
令和2年度	20	24	0	0		41.6	1.8	312	5,374	17.3	7.5 : 1	6 : 1	4.2 : 1

2. 状況内訳

		障害支援区分								年金		年齢区分(歳)										介 利 用 者 保 険	
		非 該 当	区 分 1	区 分 2	区 分 3	区 分 4	区 分 5	区 分 6	計	1 級	2 級	無	20 未満	20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~64	65 ~69	70 ~74	75 以上		
平成31年度	男	4	0	8	7	0	0	0	19	1	14	4	1	3	4	7	2	1	2	0	0	20	0
	女	2	0	0	2	0	1	0	5	1	4	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	4	0
	計	6	0	8	9	0	1	0	24	2	18	4	1	4	4	9	2	2	2	0	0	24	0
令和2年度	男	5	1	9	2	2	0	0	19	1	14	4	0	4	3	6	2	2	2	0	0	19	1
	女	2	0	1	1	0	1	0	5	1	4	0	0	1	0	1	2	1	0	0	0	5	0
	計	7	1	10	3	2	1	0	24	2	18	4	0	5	3	7	4	3	2	0	0	24	1

3. 障害の状況

療育手帳		身体障害者手帳(級)								精神手帳	医療ケア					重度加算		月額平均工賃	1日平均労働時間					
		A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	入数	補助額(円)		
平成31年度	男	1	18	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	468,000	25,610	6.5
	女	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	3	21	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
令和2年度	男	1	18	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	360,000	24,481	5.7
	女	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	3	21	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1			

4. 食事提供状況

		延べ食数					特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)		ルート数	ドライバー数	延利用率	送迎加算	送迎加算(円)
		普通	一口大	柔らか	ペースト	その他			入数	0					
平成31年度		2,406	0	0	0	0	2,406	679,280	746,341	0	0	0	0	0	0
令和2年度		2,467	0	0	0	0	2,467	694,700	765,263	0	0	0	0	0	0

6. 職員状況

		正規			非正規			正規職員退職理由								目標工賃達成指導員配置加算	重度者支援体制加算	福祉専門職員配置加算	移行支援体制加算		
		総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理理員	サービス管理責任者							
平成31年度	男	3	0	0	1	1	0	正規職員退職理由									有	無	II	無	
	女	3	1	0	2	0	0														
	計	6	1	0	3	1	0														
令和2年度	男	3	0	0	1	0	0	正規職員退職理由									有	無	I	無	
	女	2	0	0	2	0	0														
	計	5	0	0	3	0	0														

7. 配置職員取得資格状況 (資格は重複記入・総数は実員数)

		支援職員										その他						合計実人數				
		介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実習	勤務実習	福祉士実習	社会福祉士実習	作業療法士	言語聴覚士	理学療法士	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理理員	サービス管理責任者	
平成31年度	正	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	9
	非	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	実人数 (7 人)							総時間数 (230.0 h)							0	0	1	0	0	1	
令和2年度	正	1	2	0	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	非	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	実人数 (6 人)							総時間数 (225.0 h)							0	0	1	0	0	1	

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	20	29	1	1	一般就労	37.3	2.7	286	5,797	20.3	10 : 1	6 : 1	3.5 : 1
令和2年度	20	27	0	1	他事業所移行	38.2	2.0	277	5,625	20.4	10 : 1	6 : 1	3.7 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)									介 利 用 者 保 険		
	非 該 当	区 分 1	区 分 2	区 分 3	区 分 4	区 分 5	区 分 6	計	1 級	2 級	無	20 未満	20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~64	65 ~69	70 ~74	75 以上	計		
平成31年度	男	6	0	7	3	4	0	0	20	4	14	2	0	8	2	8	1	1	0	0	0	20	0
	女	6	0	1	2	0	0	0	9	1	7	1	0	1	4	4	0	0	0	0	0	9	0
	計	12	0	8	5	4	0	0	29	5	21	3	0	9	6	12	1	1	0	0	0	29	0
令和2年度	男	4	0	7	3	4	0	0	18	4	13	1	0	8	1	7	1	1	0	0	0	18	0
	女	4	0	0	5	0	0	0	9	1	8	0	0	1	3	5	0	0	0	0	0	9	0
	計	8	0	7	8	4	0	0	27	5	21	1	0	9	4	12	1	1	0	0	0	27	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)								精神手帳	医療ケア					重度加算		月額平均工賃	1日平均労働時間		
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人数	補助額(円)	
平成31年度	男	5	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,439	6.0
	女	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	7	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
令和2年度	男	8	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24,349	5.0
	女	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	11	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用率	送迎加算	送迎加算(円)	
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計									
平成31年度	5,093	0	0	0		5,093	1,426,040	1,565,889	0	0	0	0			
令和2年度	4,869	0	0	0		4,869	1,363,320	1,494,233	0	0	0	0			

6. 職員状況

	正規			非正規			正規職員退職理由	目標工賃達成指導員配置加算	重度者支援体制加算	福祉専門職員配置加算	移行支援体制加算		
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者							
平成31年度	男	2	0	0	1	0						有	無
	女	5	0	0	6	0							
	計	7	0	0	7	0							
令和2年度	男	2	0	0	1	0						有	無
	女	5	0	1	6	0							
	計	7	0	1	7	0							

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人數			
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援指導者	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理者	
平成31年度	正	0	3	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1			専・兼	専・兼		専・兼	専・兼	14
	非	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼		
	計	実人数 (10 人)						総時間数 (313.2 h)						0	0	1	1	1	1	1		
令和2年度	正	0	3	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1			専・兼	専・兼		専・兼	専・兼	14
	非	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼		
	計	実人数 (9 人)						総時間数 (289.2 h)						0	0	1	1	1	1	1		

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	
平成31年度	20	22	0	1	県外へ転出	35.0	4.9	243	4,694	19.3	5 : 1	3 : 1	2 : 1
令和2年度	20	21	0	1	他事業所への異動	36.9	5.0	246	4,139	16.8	3 : 1	2 : 1	1.8 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)									介護保険 利用者	
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上		
平成31年度	男	0	0	0	0	4	1	8	13	12	1	0	0	3	8	1	1	0	0	0	13	0
	女	0	0	0	1	5	0	3	9	9	0	0	0	2	3	2	2	0	0	0	9	0
	計	0	0	0	1	9	1	11	22	21	1	0	0	5	11	3	3	0	0	0	22	0
令和2年度	男	0	0	0	0	3	2	8	13	12	1	0	0	3	8	1	1	0	0	0	13	0
	女	0	0	0	0	5	0	3	8	8	0	0	0	1	3	2	2	0	0	0	8	0
	計	0	0	0	0	8	2	11	21	20	1	0	0	4	11	3	3	0	0	0	21	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算				
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人數	補助額(円)	人數
平成31年度	男	12	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	10	0	0
	女	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	6,630,000	0
	計	21	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	14	0	0
令和2年度	男	12	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6	4	4,114,805
	女	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	3,150,000	1
	計	20	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	9	5	

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益 (円)	食事提供加算(円)	車両数 (台)	ルート 数	ドライ バー数	延利用 者数	送迎加算 (円)	送迎加算 (円)
	普通	一口大	柔らか	ベースト	その他	合計								
平成31年度	1,374	1,690	502	0	0	3,566	1,006,620	1,109,382	4	4	4	7,373	1	3,767,784
令和2年度	1,645	959	541	0	0	3,145	892,360	979,031	4	4	3	6,571	1	3,350,349

6. 職員状況

	正規			非正規			正規職員退職理由	人員配置体制 加算	福祉専門職員 配置加算	常勤看護職員等配 置加算	重度障 害者支 援加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者					
平成31年度	男	2	0	0	4	1					
	女	7	0	0	6	1					
	計	9	0	0	10	2					
令和2年度	男	3	0	0	4	1					
	女	6	2	0	7	1					
	計	9	2	0	11	2					

7. 配置職員取得資格状況 (資格は重複記入・総数は実員数)

	支援職員												その他					合計 実人 数			
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎・実践研修	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理職	
平成31年度	正	1	2	0	0	1	3	3	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	19
	非	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	
	計	実入数 (12 人)												0	4	1	0	0	1	1	19
令和2年度	正	1	2	0	1	2	0	4	0	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	20
	非	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	
	計	実入数 (15 人)												0	3	0	0	0	1	1	20

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	10	8	0	0		48.0	2.0	237	1,856	7.7	10 : 1	7.5 : 1	5.7 : 1
令和2年度	10	8	0	2	自己都合,1名はB型移行	49.0	2.0	239	1,651	6.9	10 : 1	7.5 : 1	5.7 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分									年金			年齢区分(歳)									介 利 用 者 保 険
	非 該 当	区 分 1	区 分 2	区 分 3	区 分 4	区 分 5	区 分 6	計	1 級	2 級	無	20 未満	20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~64	65 ~69	70 ~74	75 以上		
平成31年度	男	3	0	3	1	1	0	0	8	0	8	0	0	0	2	1	5	0	0	0	8	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	0	3	1	1	0	0	8	0	8	0	0	0	2	1	5	0	0	0	8	0
令和2年度	男	3	0	3	1	1	0	0	8	0	8	0	0	0	2	1	5	0	0	0	8	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	0	3	1	1	0	0	8	0	8	0	0	0	2	1	5	0	0	0	8	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)									精神手帳	医療ケア					重度加算		月額平均工賃	1日平均労働時間	
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人數	補助額(円)	
平成31年度	男	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114,563	6.0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
令和2年度	男	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	113,976	6.0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

4. 食事提供状況

	延べ食数					特定費用収益 (円)	食事提供加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計	
平成31年度	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0

5. 送迎サービス状況

	車両数 (台)	ルート 数	ドライ バー数	延利用率 数	送迎加算 (円)	送迎加算 (円)
					月額 平均工賃	1日平均 労働時間
	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0

6. 職員状況

	正規			非正規			正規職員退職理由	目標工賃達成指導員配置加算	重度者支援体制加算	福祉専門職員配置加算	移行支援体制加算			
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者								
平成31年度	男	5	1	0	0	0	健康状態による	III	III	III	III			
	女	0	0	0	0	0								
	計	5	1	0	0	0								
令和2年度	男	5	0	0	0	0		III						
	女	0	0	0	0	0								
	計	5	0	0	0	0								

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人数	
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践支援者研修	行動実習指導者	福祉福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理士	管理者
平成31年度	正	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	5
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	
	計	実人数 (2 人)												1					1	1
令和2年度	正	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	5
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	
	計	実人数 (2 人)												1					1	1

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由					平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
															国基準	指定配置	実配置
平成31年度	20	24	1	1						47.0	2.0	359	5,287	20.0	10 : 1	7.5 : 1	2.8 : 1
令和2年度	20	24	0	1	他事業所に移行					48.0	2.0	360	5,639	21.0	10 : 1	7.5 : 1	2.8 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分										年金		年齢区分(歳)										介 利 用 者 保 険
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上			
平成31年度	男	6	2	8	3	1	0	0	20	1	19	0	0	2	0	12	4	2	0	0	0	20	0
	女	1	1	1	1	0	0	0	4	2	2	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4	0
	計	7	3	9	4	1	0	0	24	3	21	0	0	2	0	14	5	2	1	0	0	24	0
令和2年度	男	5	2	8	4	1	0	0	20	1	19	0	0	2	1	11	4	2	0	0	0	20	0
	女	1	1	1	1	0	0	0	4	2	2	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4	0
	計	6	3	9	5	1	0	0	24	3	21	0	0	2	1	13	5	2	1	0	0	24	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)										精神手帳	医療ケア					重度加算		月額平均工賃	1日平均労働時間	
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人数	補助額(円)		
平成31年度	男	3	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37,632	8.0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37,632	
	計	5	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37,632	
令和2年度	男	3	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41,221	8.0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41,221	
	計	5	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41,221	

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用者数	送迎加算(円)	送迎加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計								
平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

6. 職員状況

	正規						非正規						正規職員退職理由						目標工賃達成指導員配置加算	重度者支援体制加算	福祉専門職員配置加算	移行支援体制加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
平成31年度	男	11	3	0	0	0													無	無	III	無
	女	1	0	0	0	0																
	計	12	3	0	0	0																
令和2年度	男	11	1	0	0	0	1												無	無	III	無
	女	1	0	0	0	0																
	計	12	1	0	0	0	1															

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人數			
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務研修	基礎実践指導者	認知症実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理理士	サービス管理責任者	
平成31年度	正	1	1	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	4			専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	12
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	
	計	実人数 (9 人)						総時間数 (344.0 h)						0	0	1	0	0	1	1	12	
令和2年度	正	1	1	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	4			専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	12
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	
	計	実人数 (9 人)						総時間数 (344.0 h)						0	0	1	0	0	1	1	12	

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	9	16	1	0		33.0	5.3	252	956	3.8	3 : 1	1.7 : 1	1.2 : 1
令和2年度	9	15	0	1	利用者死去のため	33.0	5.3	249	919	3.7	3 : 1	1.7 : 1	1.2 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)									介護保険	
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計	
平成31年度	男	0	0	0	0	2	2	5	9	8	1	0	1	4	3	1	0	0	0	0	9	0
	女	0	0	0	0	2	2	3	7	7	0	0	1	0	3	3	0	0	0	0	7	0
	計	0	0	0	0	4	4	8	16	15	1	0	2	4	6	4	0	0	0	0	16	0
令和2年度	男	0	0	0	0	2	2	5	9	8	1	0	0	5	3	1	0	0	0	0	9	0
	女	0	0	0	0	1	3	2	6	6	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	6	0
	計	0	0	0	0	3	5	7	15	14	1	0	0	6	6	3	0	0	0	0	15	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア				重度加算		重度障害者支援加算					
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	入数	補助額(円)	入数
平成31年度	男	8	1	8	1	0	0	6	4	2	1	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	0
	女	7	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0
	計	15	1	11	1	0	0	9	7	2	1	0	0	0	1	0	0	1	5	4	0	0
令和2年度	男	8	1	8	1	0	0	6	4	2	1	0	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0
	女	6	0	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0
	計	14	1	10	1	0	0	8	6	2	1	0	0	0	1	0	0	1	5	4	0	0

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用者数	送迎加算(円)	送迎加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計								
平成31年度	382	239	142	25		788	236,400	245,147	3	3		1,735	II	683,694
令和2年度	451	190	107	33		781	234,300	242,969	3	3		1,435	II	565,476

6. 職員状況

	正規						非正規						正規職員退職理由						人員配置体制加算	福祉専門職員配置加算	常勤看護職員等配置加算	重度障害者支援加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
平成31年度	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	I	III	無	無
	女	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	計	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
令和2年度	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	I	III	無	無
	女	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	計	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人数		
	介護福祉士	社会保健福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援者実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理士	管理者	サービス管理責任者
平成31年度	正	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5
	非	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	実員数 (4 人)						総時間数 (127.5 h)						1					1	1	
令和2年度	正	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5
	非	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	実員数 (4 人)						総時間数 (127.5 h)						1					1	1	

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	人員配置			
										1日平均利用者数	国基準	指定配置	実配置
平成31年度	6	0	0	0		0.0	0.0	252	0	0.0	6 : 1	6 : 1	0 : 1
令和2年度	6	0	0	0		0.0	0.0	249	0	0.0	6 : 1	6 : 1	0 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)									介護保険
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計
平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算				
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	入数	補助額(円)	人數
平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
令和2年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

4. 食事提供状況

	延べ食数					特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用率	送迎加算	送迎加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計							
平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	II	0
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	II	0

6. 職員状況

	正規			非正規			正規職員退職理由												
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者													
平成31年度	男	1	0	0	0	0	無	III	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	女	0	0	0	0	0													
	計	1	0	0	0	0													
令和2年度	男	1	0	0	0	0	無	III	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	女	0	0	0	0	0													
	計	1	0	0	0	0													

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人数		
	介護福祉士	社会保健福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理者	サービス管理責任者
平成31年度	正	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	実人数 (1 人)												総時間数 (40.0 h)						0	1
令和2年度	正	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	実人数 (1 人)												総時間数 (40.0 h)						0	1

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用者数	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	9	9	2	2	他事業所移行・市外転出	39.2	4.9	252	922	3.8	5 : 1	1.7 : 1	1.2 : 1
令和2年度	9	8	0	1	他事業所移行	35.2	4.9	247	713	2.9	5 : 1	1.7 : 1	1 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金		年齢区分(歳)										利用者 保険	
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計	
平成31年度	男	0	0	0	0	1	2	1	4	4	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4	0
	女	0	0	0	0	2	1	2	5	3	2	0	0	2	1	2	0	0	0	0	5	0
	計	0	0	0	0	3	3	3	9	7	2	0	0	2	4	3	0	0	0	0	9	0
令和2年度	男	0	0	0	0	1	2	1	4	4	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4	0
	女	0	0	0	0	2	1	1	4	2	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	4	0
	計	0	0	0	0	3	3	2	8	6	2	0	0	2	4	2	0	0	0	0	8	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算				
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人数	補助額(円)	入数
平成31年度	男	3	0	2	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	4	1	2	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	7	1	4	0	0	0	3	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	男	3	0	2	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	3	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	6	1	3	0	0	0	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. 食事提供状況

5. 送迎サービス状況

	延べ食数							特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利使用者数	送迎加算(円)	送迎加算(円)
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計	(円)								
平成31年度	372	146	372	0	0	890	267,000	276,879	3	3	—	1,727	II	179,089	
令和2年度	393	87	182	0	0	662	198,600	205,948	3	3	—	1,232	II	127,758	

6. 職員状況

	正規						非正規						正規職員退職理由						人員配置体制加算	福祉専門職員配置加算	常勤看護職員等配	重度障害者支援加算
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
平成31年度	男	1	0	0	0	0	0												I	III	無	無
	女	2	0	0	2	0	0															
	計	3	0	0	2	0	0															
令和2年度	男	1	0	0	0	0	0												I	III	無	無
	女	2	0	0	2	0	1															
	計	3	0	0	2	0	1															

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入、総数は実員数）

	支援職員												その他						サービス管理責任者			
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	行動障害支援指導者	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理者	
平成31年度	正	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	非	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	專・兼	專・兼	0	0	0	
	計	実人數(4人)						総時間数(127.5 h)						0	1	0	0	1	1			
令和2年度	正	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	非	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	專・兼	專・兼	0	0	0	
	計	実人數(4人)						総時間数(118.0 h)						0	1	0	0	1	1			

1. 利用者状況

	定員	現員	新入所者	退所者	退所理由	平均年齢	平均支援区分	事業日数	延利用率	1日平均利用者数	人員配置		
											国基準	指定配置	実配置
平成31年度	6	0	0	0		一	一	247	0	0.0	6 : 1	6 : 1	0 : 1
令和2年度	6	1	1	0		20.0	4.0	247	74	0.3	6 : 1	6 : 1	1 : 1

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)										介護保険者	
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計		
平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
令和2年度	男	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)							精神手帳	医療ケア					重度加算		重度障害者支援加算					
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	人数	補助額(円)	人数	給付額(円)
平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
令和2年度	男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. 食事提供状況

	延べ食数						特定費用収益(円)	食事提供加算(円)	車両数(台)	ルート数	ドライバー数	延利用率	送迎加算	送迎加算(円)	
	普通	一口大	柔らか	ペースト	その他	合計									
平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	—	0	II	0	0
令和2年度	74	0	0	0	0	74	22,200	23,021	3	3	—	132	II	13,688	0

6. 職員状況

	正規						非正規						正規職員退職理由						人員配置体制加算	福祉専門職員配置加算	常勤看護職員等配	重度障害者支援加算	
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
平成31年度	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	無	III	無	無
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	無	III	無	無
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	無	III	無	無
令和2年度	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	無	III	無	無
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	無	III	無	無
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	無	III	無	無

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

	支援職員												その他						合計実人數				
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	基礎実践研修	強度行動障害支援者実習指導者	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理理士	サービス管理責任者	
平成31年度	正	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
令和2年度	正	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	非	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

1. 利用者状況

		利用定員	事業日数	延利用率	1日平均利用数	土曜登録数	送迎利用数	障害児状態区分	児童指導員等配置	児童指導員等加配体制	強度行動障害体制加算	福祉専門職員配置等
児童発達支援	平成31年度	10	291	0	0.0	0	0	非該当	有	理学療法士等	無	III
	令和2年度	10	291	11	0.03	3	9	非該当	有	理学療法士等	無	II
放課後等 デイサービス	平成31年度	10	291	2,542	8.7	6	4,485	区分2の1	有	理学療法士等	無	III
	令和2年度	10	291	2,830	9.7	10	4,551	区分2の1	有	理学療法士等	無	II

2. 状況内訳

			5歳未満	5歳	6歳	小学1~2年	小学3~4年	小学5~6年	中学生	高校生	計	合計
児童発達支援	平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	令和2年度	男	0	0	2	0	0	0	0	0	2	3
		女	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
放課後等 デイサービス	平成31年度	男	0	0	0	4	6	8	0	0	18	31
		女	0	0	0	2	5	6	0	0	13	31
	令和2年度	男	0	0	0	7	7	6	0	0	20	30
		女	0	0	0	0	4	6	0	0	10	30

3. 障害の状況

		知的障害		発達障害			身体障害	精神障害	重症心身障害	医療ケア	合計
		重度	その他	自閉	広汎性	その他	障害	障害	心身障害	医療ケア	
児童発達支援	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	令和2年度	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
放課後等 デイサービス	平成31年度	11	14	1	0	0	5	0	0	0	31
	令和2年度	16	5	3	3	0	3	0	0	0	30

4. 学校内訳

		宮教大附	小松島特支	鶴谷特支	光明特支	名取特支	利府特支	いずみ特支	特別支援学級	その他	合計
児童発達支援	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
放課後等 デイサービス	平成31年度	2	1	1	1	3	0	0	21	2	31
	令和2年度	0	2	2	2	4	0	0	18	2	30

5. 職員状況

		正規			非正規			正規職員退職理由					
		総数	新規	退職者	総数	新規	退職者						
平成31年度	男	2	1	0	0	0	0						
	女	4	0	0	3	0	0						
	計	6	1	0	3	0	0						
令和2年度	男	2	0	0	0	0	0						
	女	3	0	0	3	0	0						
	計	5	0	0	3	0	0						

6. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・計は実員数となっている）

		支援職員												その他				合計実人員	
		介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	児童指導員	初任者研修	基礎・実践研修	社会福祉士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	管理者	児童発達管理責任者	
平成31年度	正	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	11
	非	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	実人数 (8 人)				総時間数 (268 h)								0	1	1	1		
令和2年度	正	0	1	0	3	1	1	1	0	0	0	1	0	0	專・兼	專・兼	專・兼	專・兼	10
	非	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	実人数 (7 人)				総時間数 (228 h)								0	1	1	1		

1. 利用者状況

		利用定員	事業日数	延利用率	1日平均利用数	土曜登録数	送迎利用数	障害児状態区分	児童指導員等配置	児童指導員等加配体制	強度行動障害体制加算	福祉専門職員配置等
児童発達支援	平成31年度	3	286	166	0.6	4	256		有	1理学療法士等	無	Ⅲ
	令和2年度	3	290	88	0.3	4	133		有	1理学療法士等	無	Ⅲ
放課後等 デイサービス	平成31年度	7	286	2,128	7.5	9	3,057	区分1の1	有	1理学療法士等	無	Ⅲ
	令和2年度	7	290	2,533	8.7	8	3,614	区分2の1	有	1理学療法士等	無	Ⅲ

2. 状況内訳

			5歳未満	5歳	6歳	小学1~2年	小学3~4年	小学5~6年	中学生	高校生	計	合計
児童発達支援	平成31年度	男	0	1	3	0	0	0	0	0	4	4
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	令和2年度	男	0	1	2	0	0	0	0	0	3	4
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
放課後等 デイサービス	平成31年度	男	0	0	0	9	7	3	3	0	22	27
		女	0	0	0	1	1	3	0	0	5	
	令和2年度	男	0	0	0	7	7	7	3	0	24	29
		女	0	0	0	1	1	3	0	0	5	

3. 障害の状況

		知的障害		発達障害			身体障害	精神障害	重症心身障害	医療ケア	合計
		重度	その他	自閉	広汎性	その他					
児童発達支援	平成31年度	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4
	令和2年度	0	0	3	0	1	0	0	0	0	4
放課後等 デイサービス	平成31年度	0	7	15	0	0	4	0	1	0	27
	令和2年度	1	9	13	0	0	5	0	1	0	29

4. 学校内訳

		宮教大附	小松島特支	鶴谷特支	光明特支	名取特支	利府特支	いづみ特支	特別支援学級	その他	合計
児童発達支援	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
	令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
放課後等 デイサービス	平成31年度	5	4	1	1	0	0	0	14	2	27
	令和2年度	4	6	1	1	1	0	0	12	4	

5. 職員状況

		正規			非正規			正規職員退職理由					
		総数	新規	退職者	総数	新規	退職者						
平成31年度	男	3	0	0	0	0	0						
	女	2	0	0	4	1	0						
	計	5	0	0	4	1	0						
令和2年度	男	3	1	0	0	0	0						
	女	3	1	0	4	0	0						
	計	6	2	0	4	0	0						

6. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・計は実員数となっている）

		支 援 職 員										その他の職員				合計実人員				
		介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	児童指導員	初任者	基礎・実践研修修了者	強度行動障害支援者	社会福祉士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	管理者	児童発達管理責任者	合計実人員
平成31年度	正	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	非	1	0	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	実人数 (7 人)				総時間数 (230 h)												0 1 1 1		
令和2年度	正	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9	
	非	1	0	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	実人数 (6 人)				総時間数 (190 h)												0 1 1 1		

1. 利用者状況

		利用定員	事業日数	延利用率	1日平均利用数	土曜登録数	送迎利用数	障害児状態区分	児童指導員等配置	児童指導員等加配体制	強度行動障害体制加算	福祉専門職員配置等
児童発達支援	平成31年度	10	0	0	0.0	0	0	非該当	無		無	
	令和2年度	10	0	0	0.0	0	0	非該当	無		無	
放課後等 デイサービス	平成31年度	10	291	2,490	8.5	14	4,654	区分1の1	有	追学療法士等	無	III
	令和2年度	10	292	2,558	8.7	12	4,793	区分1の1	有	追学療法士等	無	I

2. 状況内訳

			5歳未満	5歳	6歳	小学1~2年	小学3~4年	小学5~6年	中学生	高校生	計	合計
児童発達支援	平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	令和2年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放課後等 デイサービス	平成31年度	男	0	0	0	0	1	3	9	14	27	37
		女	0	0	0	0	0	2	2	6	10	
	令和2年度	男	0	0	0	0	0	1	8	13	22	33
		女	0	0	0	0	0	0	5	6	11	

3. 障害の状況

		知的障害		発達障害			身体障害	精神障害	重症心身障害	医療ケア	合計
		重度	その他	自閉	広汎性	その他					
児童発達支援	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等 デイサービス	平成31年度	0	14	11	2	2	5	0	3	0	37
	令和2年度	0	17	10	0	0	4	0	2	0	33

4. 学校内訳

		宮教大附	小松島特支	鶴谷特支	光明特支	名取特支	利府特支	いづみ特支	特別支援学級	その他	合計
児童発達支援	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等 デイサービス	平成31年度	4	12	7	0	5	0	0	6	3	37
	令和2年度	5	12	6	0	3	0	0	3	4	33

5. 職員状況

		正規			非正規			正規職員退職理由					
		総数	新規	退職者	総数	新規	退職者						
平成31年度	男	1	0	0	1	0	0						
	女	5	1	1	2	0	0	・転職					
	計	6	1	1	3	0	0						
令和2年度	男	2	1	0	0	0	0						
	女	3	0	1	2	0	0	・県外引越し					
	計	5	1	1	2	0	0						

6. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・計は実員数となっている）

		支 援 職 員										その他の職員				合計実人員				
		介護福祉士	社会保健福祉士	精神保健福祉士	保育士	児童指導員	初任者研修	基礎・実践研修	重度行動障害支援者	社会福祉士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	管理者	児童発達管理責任者	
平成31年度	正	0	0	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼	10
	非	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
	計	実人数 (8 人)				総時間数 (270 h)												0	1	1
令和2年度	正	0	1	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	8
	非	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	実人数 (6 人)				総時間数 (200 h)												0	1	1

1. 利用者状況

		利用定員	事業日数	延利用数	1日平均利用数	土曜登録数	送迎利用数	障害児状態区分	児童指導員等配置	児童指導員等加配体制	強度行動障害体制加算	福祉専門職員配置等
児童発達支援	平成31年度											
	令和2年度											
放課後等	平成31年度	10	292	2,879	9.9	15	5,010	区分2の1	有	理学療法士等	有	1
デイサービス	令和2年度	10	297	2,915	9.8	18	4,762	区分2の1	有	理学療法士等	有	1

2. 状況内訳

			5歳未満	5歳	6歳	小学1~2年	小学3~4年	小学5~6年	中学生	高校生	計	合計
児童発達支援	平成31年度	男										
		女										
放課後等	令和2年度	男							6	14	20	34
		女							3	11	14	
デイサービス	平成31年度	男							6	16	22	37
		女							5	10	15	

3. 障害の状況

		知的障害			発達障害			身体障害	精神障害	重症心身障害	医療ケア	合計
		重度	その他	自閉	広汎性	その他						
児童発達支援	平成31年度											
放課後等	令和2年度											
デイサービス	平成31年度	14	20	11	1	0	4	0	0	0	0	50
		15	20	9	2	0	6	0	1	0	0	53

4. 学校内訳

		宮教大附	小松島特支	鶴谷特支	光明特支	名取特支	利府特支	いづみ特支	待別支援学級	その他	合計
児童発達支援	平成31年度										
放課後等	令和2年度										
デイサービス	平成31年度	2	8	1	7	9	0	1	3	3	34
		3	8	0	9	8	0	1	2	6	37

5. 職員状況

		正規			非正規			正規職員退職理由					
		総数	新規	退職者	総数	新規	退職者						
平成31年度	男	2	0	1	0	0	0	転職(帰郷)					
	女	3	1	0	3	2	2						
	計	5	1	1	3	2	2						
令和2年度	男	2	0	0	1	1	0						
	女	3	1	0	3	3	1						
	計	5	1	0	4	4	1						

6. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・計は実員数となっている）

		支援職員										その他				合計実人員				
		介護	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	保健士と重複しないこと	児童指導員	初任者研修	基礎・実践研修	行動障害支障者	社会福祉士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	管理者	児童発達管理責任者
平成31年度	正	0	2	0	3	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	專・兼	專・兼	專・兼	
	非	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	9
	計	実人数 (7 人)						総時間数 (238 h)						0	1	1	1			
令和2年度	正	1	1	0	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	專・兼	專・兼	專・兼	
	非	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	10
	計	実人数 (8 人)						総時間数 (245 h)						0	1	1	1			

【事業所名 : サポートはぎ】

1. 短期入所事業利用状況／泊数・利用日数・加算 定員：平成31年度及び令和2年度9月まで3名 令和2年度10月から6名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成31年度 泊数	47	47	41	36	48	70	62	57	71	67	59	73	678	56.5
平成31年度 利用日数	66	63	58	50	67	90	80	72	95	84	78	90	893	74.4
令和2年度 泊数	76	54	40	66	79	76	93	84	76	77	119	139	979	81.6
令和2年度 利用日数	87	67	48	73	102	96	137	135	137	135	178	210	1,405	117.1
令和2年度 1:1加算日数							113	117	108	106	94	115	653	108.8

2. 短期入所事業利用状況／内訳

	定員	法人利用者延数	法人外利用者延数	学齢利用者延数	就学前利用者延数	合計	日平均
平成31年度	3	539	350	76	0	965	2.6
令和2年度	3(4~9月) 6(10~3月)	674	563	168	0	1,405	3.8

3. 障害者家族支援等推進事業利用状況／時間数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成31年度	日中	166	261	232	267	228	230	222	342	186	190	133	243	2,700	225.0
	送迎	37	48	53	64	33	53	77	68	41	25	35	45	579	48.3
	宿泊	220	340	360	310	310	440	480	480	350	390	330	460	4,470	372.5
	合計	423	649	645	641	571	723	779	890	577	605	498	748	7,749	645.8
令和2年度	日中	209	301	181	272	243	245							1,451	120.9
	送迎	31	32	52	61	26	49							251	20.9
	宿泊	200	290	320	340	280	240							1,670	139.2
	合計	440	623	553	673	549	534	0	0	0	0	0	0	3,372	562.0

*送迎は片道1回を1時間としてカウント。宿泊は1泊を10時間としてカウント（仙台市への事業実績報告のカウント方式で算定）

4. 障害者家族支援等推進事業／内訳 ※令和2年度は4~9月の6ヶ月間

		定員	法人利用者延数	法人外利用者延数	学齢利用者延数	就学前利用者延数	合計	日平均
平成31年度	宿泊	3	353	78	16	0	447	1.2
	日中	6	653	200	46	4	903	2.5
令和2年度	宿泊	3	104	49	14	0	167	0.9
	日中	6	312	69	22	9	412	2.3

5. 地域生活支援事業（日中一時支援事業）利用状況／利用回数及び加算

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和2年度	4時間未満							91	78	83	85	110	122	569	94.8
	4時間以上8時間未満							38	43	29	43	62	49	264	44.0
	8時間以上							6	11	6	2	2	9	36	6.0
	利用回数合計							135	132	118	130	174	180	869	144.8
	食事提供							9	11	7	10	12	9	58	9.7
	送迎							73	57	59	74	74	78	415	69.2
	1:1加算							114	109	111	113	117	144	708	118.0

6. 地域生活支援事業（日中一時支援事業）利用状況／内訳

※10～3月の6ヶ月間

	定員	法人利用者延数	法人外利用者延数	学齢利用者延数	就学前利用者延数	合計	日平均
令和2年度	6	549	244	68	8	869	4.8

7. 障害児療育支援事業利用状況

	延べ利用人数	備考
平成31年度	12	
令和2年度	9	

8. 職員状況

	正規職員（嘱託含）			非正規職員			正規職員退職理由
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	
平成31年度	16	1	1	3	2	2	・結婚（転居）の為。
令和2年度	18	1	0	26	25	12	

9. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・計は実員数となっている）

	支 援 職 員												看護師	送迎ドライバー	事務職員	管理者	児童発達支援責任者	計
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	重度しないこと	保育士と	児童指導員	初任研修のみ	ホームヘルパー	実務者研修のみ	ホームヘルパー研修のみ	強度行進研究修のみ	基礎研修のみ	強度行動障害支援者	実習指導者講習	社会福祉士講習		
平成31年度	正	4	5		3			4		5	5	3	1				専・兼専・兼専・兼専	19
	非												3	専・兼専・兼専・兼専				
	計	(実員数 19人)				(常勤換算数 128.9h)												
令和2年度	正	5	5	1	2	3	4	1	5	5	3	1				専・兼専・兼専・兼専	44	
	非												3	専・兼専・兼専・兼専				
	計	(実員数 44人)				(常勤換算数 151.8h)												

10.診療所

	法人利用者延べ数	法人外利用者延べ数	学齢児延べ利用数	就学前児利用延べ数	合計
平成31年度	1	18	2	46	67
令和2年度	0	23	2	30	55

11.相談支援事業（指定一般・指定特定・障害児相談）＊指定一般とは地域移行・地域定着を指す

	登録者数	新規・更新	モニタリング	合計
平成31年度	一般	0	0	0
	特定	384	373	1081
	障害児	20	20	47
令和2年度	一般	0	0	0
	特定	393	381	1141
	障害児	21	21	50

○委託相談事業（延べ件数）

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
平成31年度	障害者	91	16	0	239	102	45	1	0
	障害児	37	10	16	62	1	39	0	3
	計	128	26	16	301	103	84	1	3
令和2年度	障害者	92	21	0	207	109	60	6	10
	障害児	31	11	22	70	1	34	0	0
	計	123	32	22	277	110	94	6	10

○委託相談対応手段（延べ件数）

	訪問	来所	同行	電話	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
平成31年度	206	91	190	428	16	91	815	11	1848
令和2年度	202	84	169	655	39	117	673	2	1941

○委託相談支援内容（延べ件数）

	福祉サービスの利用	障害や症状の理解	健康・医療	不安の解消情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係	家計・経済
平成31年度	1579	1921	1545	1840	383	1523	1214
令和2年度	2025	2113	1945	2165	291	1762	1448
	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他	計	
平成31年度	1597	809	876	482	6	11369	
令和2年度	1739	1074	978	277	0	13004	

○体制加算等の取得状況（指定特定・障害児相談支援共通）

	特定事業所加算	行動障害支援体制加算	要医療児者支援体制加算	精神障害者支援体制加算
平成31年度	II	有	有	有
令和2年度	II	有	有	有

1. 利用実績

		居宅介護			通院介助等			行動援護			同行援護			重度訪問介護			移動支援		
		身体介護	身体介護なし	身体介護あり	身体介護なし														
延べ利用者数	平成31年度	8,172.0	394.0	389.0	41.0	100.0	35.0	0.0	1,394.0										
	令和2年度	8,956.0	496.0	416.0	2.0	139.0	30.0	0.0	1,437.0										
延べ利用時間	平成31年度	12,734.0	484.5	855.5	51.5	128.5	128.0	0.0	4,654.5										
	令和2年度	12,372.0	571.0	936.5	5.5	253.0	129.0	0.0	3,428.5										

2. 状況内訳

		障害支援区分									年金		年齢区分(歳)									
		非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計
平成31年度	男	0	0	1	11	17	14	18	61	0	0	0	4	14	20	15	7	1	0	0	0	61
	女	1	0	2	5	11	7	10	36	0	0	0	3	4	6	15	3	2	2	1	0	36
	計	1	0	3	16	28	21	28	97	0	0	0	7	18	26	30	10	3	2	1	0	97
令和2年度	男	0	0	1	11	19	16	18	65	0	0	0	4	15	21	15	8	2	0	0	0	65
	女	1	0	3	6	11	7	10	38	0	0	0	3	5	7	15	3	2	2	1	0	38
	計	1	0	4	17	30	23	28	103	0	0	0	7	20	28	30	11	4	2	1	0	103

3. 障害の状況

		療育手帳		身体障害者手帳(級)									精神手帳	医療ケア							
		A	B	身体	聴覚	視覚	内部	車椅子	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	人工呼吸器	胃ろう	その他	
平成31年度	男	39	24	0	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	29	4	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	1	0	0	0	0
	計	68	28	1	1	3	0	2	1	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0
令和2年度	男	42	25	0	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	29	7	2	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0
	計	71	32	2	1	3	0	2	1	0	3	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0

4. 職員状況

		正規			非正規			正規職員退職理由													
		総数	新規	退職者	総数	新規	退職者														
平成31年度	男	5	1	1	2	0	0	・自己都合(他業種への転職)													
	女	4	0	0	2	0	0														
	計	9	1	1	4	0	0														
令和2年度	男	6	0	1	2	0	0	・自己都合(他業種への転職)													
	女	5	0	1	2	0	0	・自己都合(休職後依頼退職)													
	計	11	0	2	4	0	0														

5. 配置職員取得資格状況(資格は重複記入・計は実員数となっている)

		支援職員											その他							合計実人數
		介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	ホームヘルパー	実務者研修	基礎実践研修	強度障害支援	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理員	サービス提供責任者	
平成31年度	正	4	1	0	1	5	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	非	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	実人数 (13 人)											0	0	1	0	0	1	2	13
令和2年度	正	2	1	0	0	4	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	非	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	実人数 (11 人)											0	0	1	0	0	1	2	11

1. 利用者状況

	定員	現員	新入居者	退居者	退所理由	人員配置	世話人配置状況		生活支援員配置状況	
							必要数	実配置	必要数	実配置
平成31年度	64	63		1	長期入院の為	4 : 1	9.4	16.6	11.4	17.1
令和2年度	64	64	1			4 : 1	9.5	15.1	11.4	16.3

2. 状況内訳

	障害支援区分								年金			年齢区分(歳)										
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	1級	2級	無	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75以上	計	
平成31年度	男	1	2	5	8	9	6	8	39	22	16	1	0	4	12	11	5	5	1	1	0	39
	女	0	0	0	3	8	7	6	24	13	10	1	0	2	4	7	6	1	2	1	1	24
	計	1	2	5	11	17	13	14	63	35	26	2	0	6	16	18	11	6	3	2	1	63
令和2年度	男	1	2	7	7	7	6	9	39	22	16	1	0	3	13	11	5	5	1	1	0	39
	女	0	0	0	3	10	6	6	25	13	11	1	0	2	4	6	8	1	1	2	1	25
	計	1	2	7	10	17	12	15	64	35	27	2	0	5	17	17	13	6	2	3	1	64

3. 障害の状況

	療育手帳		身体障害者手帳(級)									精神手帳	医療ケア					車椅子利用者	延利用者数	介護保険利用者		
	A	B	身体	聴覚	視覚	内部	1	2	3	4	5	6	7	インスリン	人工透析	在宅酸素	胃ろう	その他				
平成31年度	男	21	19	4	1	0	0	0	2	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	12,547	0	
	女	15	8	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3	0	1	0	0	8,029	2
	計	36	27	6	1	0	0	0	3	0	1	2	1	0	2	3	0	1	0	0	20,576	2
令和2年度	男	21	19	4	1	0	0	0	2	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	12,763	0
	女	16	8	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3	0	1	0	0	8,073	2
	計	37	27	6	1	0	0	0	3	0	1	2	1	0	2	3	0	1	0	0	20,836	2

4. 食事提供状況

	延べ食数						
	普通	一口大	柔らか	ペースト	合計		
平成31年度	34557	4420	1518	0	40495		
令和2年度	35440	4550	1759	0	41749		

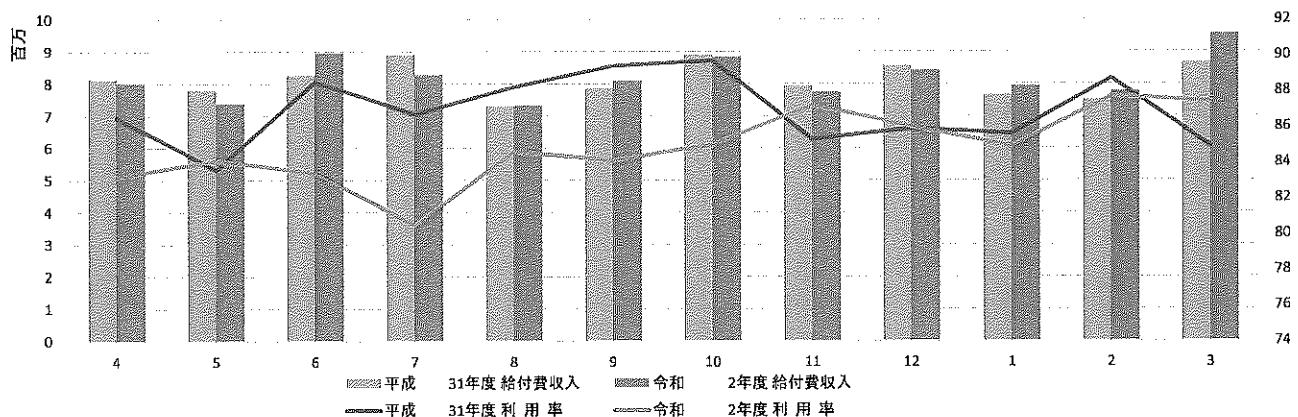
6. 職員状況

	正規						非正規			正規職員退職理由
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者				
平成31年度	男	9	2	0	18	7	1			
	女	5	0	0	50	15	14			
	計	14	2	0	68	22	15			
令和2年度	男	11	0	1	16	0	1	自己都合		
	女	8	0	0	54	8	5			
	計	19	0	1	70	8	6			

7. 配置職員取得資格状況（資格は重複記入・総数は実員数）

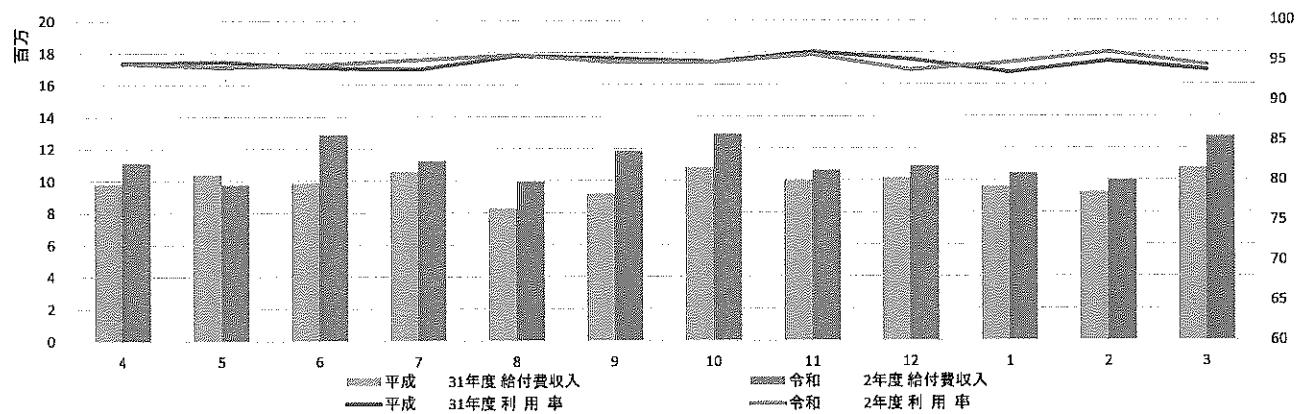
	支援職員												その他						合計実人数		
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	初任者研修	実務者研修	看護士	介護福祉士実習指導者	社会福祉士実習指導者	保育士実習指導者	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務員	栄養士	調理員	管理者	サービス管理責任者
平成31年度	正	2	3	0	1	2	3	0	0	2	0	0	0	3			専・兼	専・兼		専	
	非	8	1	0	0	28	4	0	0	0	0	0	0	30			専・兼	専・兼		専・兼	
	計	実人数 (78 人)						総時間数 (2008.8 h)								1・1			1	2	
令和2年度	正	5	2	0	2	9	3	3	0	2	0	0	0	2			専・兼	専・兼		兼	専・兼
	非	7	1	0	1	35	4	0	0	0	0	0	0	28			専・兼	専・兼		専・兼	
	計	実人数 (84 人)						総時間数 (2108.5 h)								2・1			2	1・1	

大野田はぎの苑(生活介護)



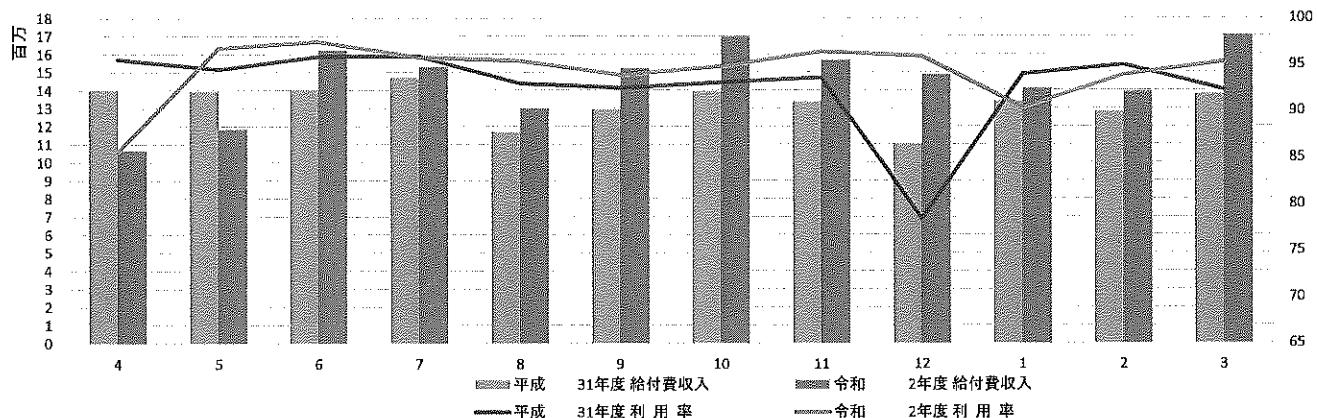
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	20	20	20	22	18	19	21	20	21	19	18	21	239
	利用率	86.5	83.6	88.5	86.7	88.2	89.4	89.7	85.3	85.9	85.6	88.7	84.9	86.8
	給付費収入	8,124,008	7,800,258	8,250,605	8,898,184	7,284,723	7,843,561	8,885,258	7,928,296	8,555,428	7,652,368	7,507,818	8,856,294	97,386,792
令和2年度	事業日数	20	18	22	21	18	20	22	19	20	19	18	23	240
	利用率	83.2	84.1	83.4	80.5	84.6	84.1	85.0	87.2	86.0	84.9	87.7	87.4	84.8
	給付費収入	8,017,580	7,382,116	8,957,640	8,272,589	7,313,239	8,088,806	8,835,751	7,742,349	8,424,469	7,925,921	7,764,801	9,550,572	98,273,803

工房しらかば(生活介護)



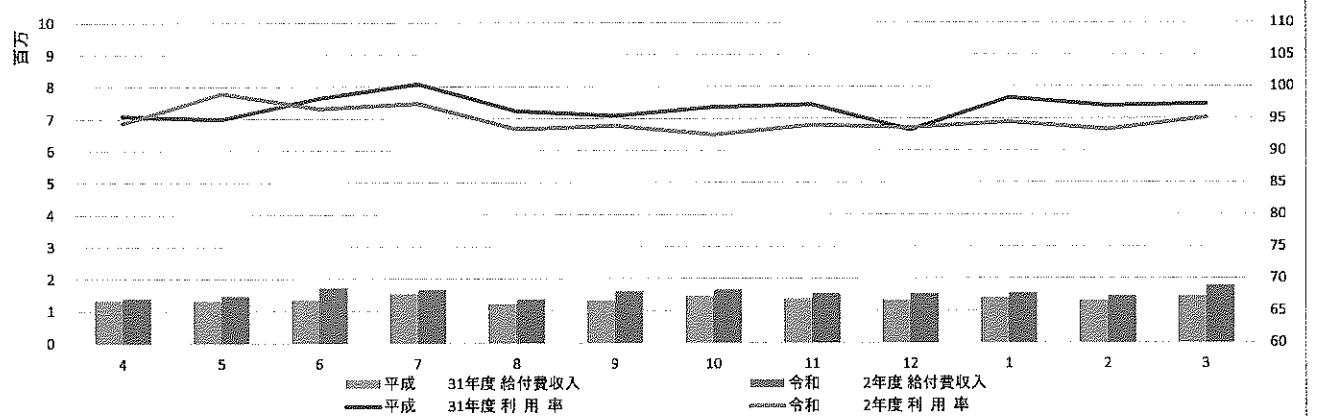
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	20	21	20	22	17	19	22	20	20	19	18	21	239
	利用率	94.7	94.9	94.1	93.9	95.6	95.3	94.8	96.1	95.1	93.5	94.9	93.8	94.7
	給付費収入	9,819,814	10,382,471	9,837,776	10,679,895	8,265,423	9,189,526	10,802,633	9,988,681	10,168,435	9,592,286	9,243,937	10,744,380	118,615,059
令和2年度	事業日数	20	18	22	21	17	20	22	19	20	19	18	23	239
	利用率	94.7	94.2	94.5	95.1	95.7	94.8	94.8	95.7	93.8	94.7	96.0	94.4	94.9
	給付費収入	11,100,629	9,742,143	12,880,110	11,245,532	8,901,280	11,836,177	12,900,223	10,636,690	10,879,638	10,425,371	10,000,578	12,702,721	134,323,290

ホープすずかけ(生活介護)



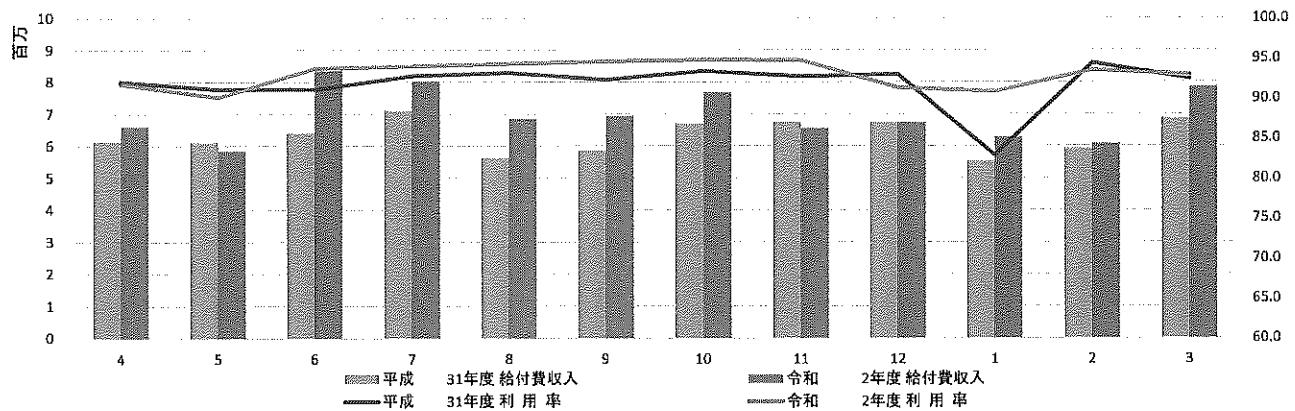
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	20	20	20	22	18	20	21	20	20	20	19	21	241
	利用率	95.6	94.5	95.9	95.9	93.0	92.5	93.1	93.6	78.5	94.0	95.0	92.3	92.8
	給付費収入	14,024,870	13,952,258	14,052,031	14,708,893	11,697,503	12,941,144	13,960,311	13,373,787	11,068,051	13,413,224	12,847,795	13,800,851	159,840,618
令和 2年度	事業日数	18	18	22	21	18	21	22	20	20	20	19	23	242
	利用率	85.7	96.8	97.5	95.8	95.4	93.9	94.8	96.4	95.9	90.4	93.9	95.3	94.3
	給付費収入	10,702,005	11,859,098	16,251,807	15,308,169	13,016,596	15,255,875	17,010,303	15,670,002	14,904,309	14,107,171	13,919,138	17,066,724	175,071,195

ホープすずかけ(就労継続B)

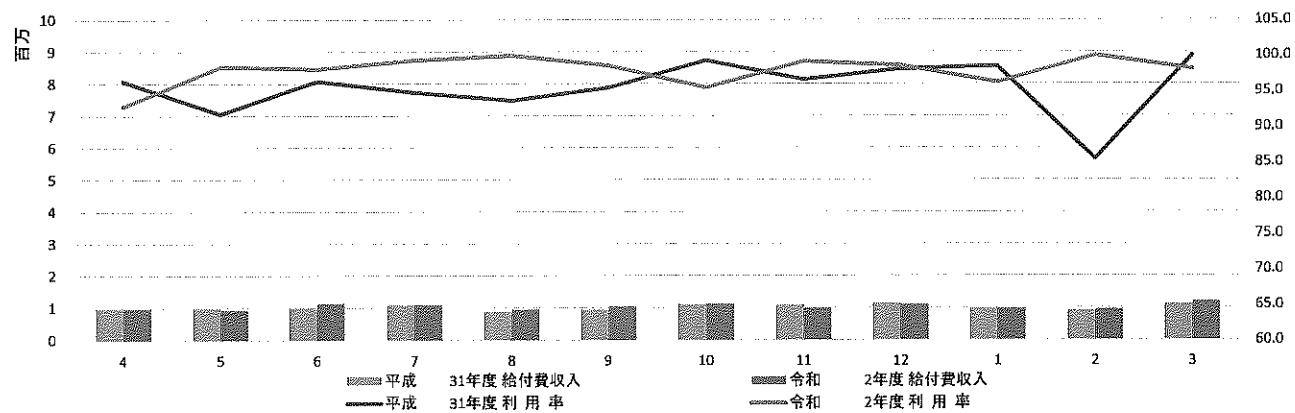


		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	20	20	20	22	18	20	21	20	20	20	19	21	241
	利用率	95.5	95.0	98.3	100.5	96.2	95.5	96.8	97.2	93.3	98.3	97.0	97.3	96.7
	給付費収入	1,338,281	1,330,113	1,366,033	1,541,834	1,213,051	1,328,789	1,452,362	1,388,409	1,332,501	1,406,784	1,316,773	1,458,980	16,473,880
令和 2年度	事業日数	18	18	22	21	18	21	22	20	20	20	19	23	242
	利用率	94.4	99.0	96.6	97.4	93.4	93.9	92.5	94.0	93.6	94.5	93.3	95.2	94.8
	給付費収入	1,405,481	1,474,386	1,739,474	1,675,021	1,374,759	1,616,033	1,688,552	1,547,437	1,539,961	1,654,748	1,458,619	1,799,299	18,853,771

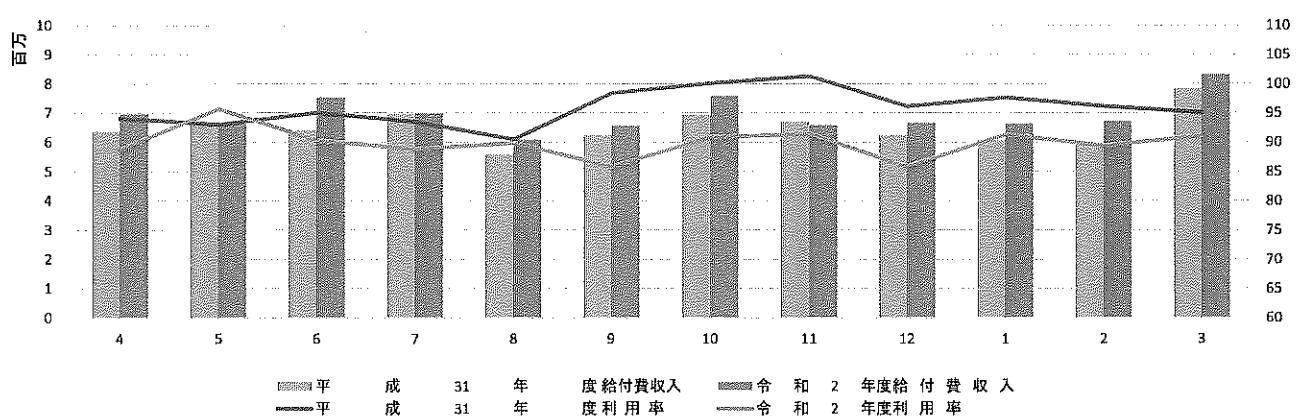
ワーキングギルド花梨(多機能／生活介護)



ワーキングギルド花梨(多機能／就労継続B)

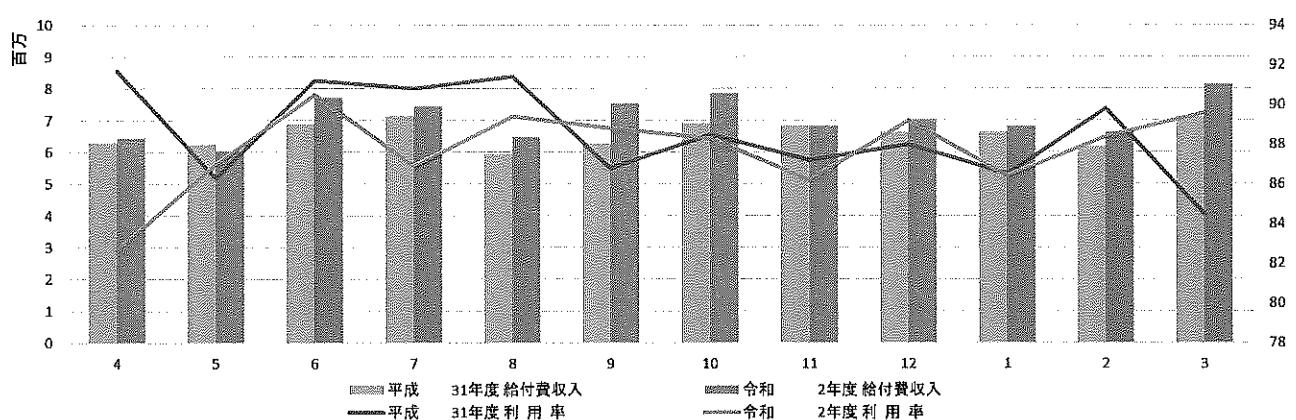


こぶし(生活介護)



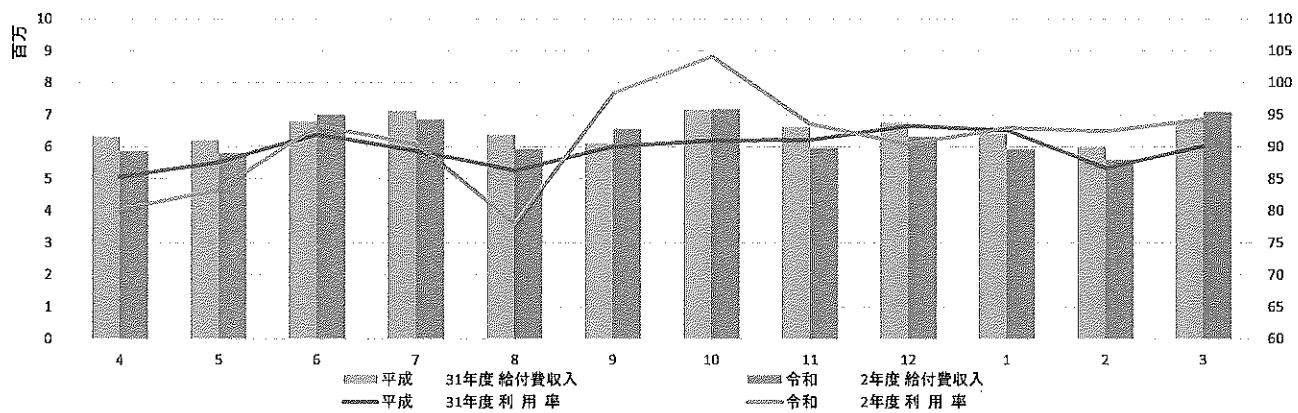
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	19	20	21	22	18	20	21	21	20	20	18	22	242
	利用率	94.1	93.0	95.0	93.5	90.5	98.4	100.1	101.3	96.1	97.6	96.1	95.1	95.9
	給付費収入	6,376,982	6,840,605	6,395,141	6,959,058	5,575,141	6,241,743	6,922,876	6,709,357	6,242,616	6,048,818	5,949,433	7,838,548	77,900,298
令和2年度	事業日数	20	18	22	21	18	20	22	19	20	19	19	23	241
	利用率	88.8	95.7	90.3	88.8	89.9	85.8	90.9	91.4	85.8	91.3	89.4	91.1	89.9
	給付費収入	6,882,458	6,816,941	7,535,870	6,974,022	6,090,650	6,563,268	7,573,679	6,682,110	6,685,846	6,631,218	6,711,835	8,311,495	83,219,392

工房けやき(生活介護)



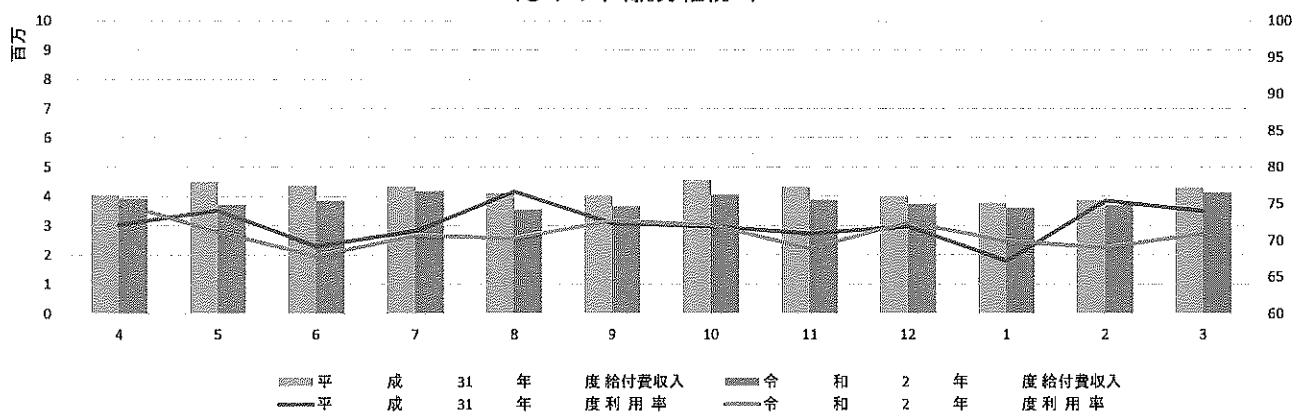
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	19	20	21	22	18	20	21	21	20	20	18	22	242
	利用率	91.7	86.3	91.2	90.8	91.4	86.8	88.5	87.2	88.0	86.5	89.8	84.5	88.6
	給付費収入	6,302,366	8,240,306	6,882,570	7,136,375	5,928,540	6,262,352	6,809,228	6,832,457	6,832,038	6,635,246	6,180,279	7,131,346	79,073,102
令和2年度	事業日数	20	18	22	22	18	21	22	20	20	20	19	23	245
	利用率	82.7	87.0	90.5	86.9	89.4	88.8	88.3	86.2	89.2	86.4	88.4	89.6	87.8
	給付費収入	6,453,706	6,039,704	7,712,087	7,445,476	6,480,804	7,545,878	7,851,420	6,821,511	7,024,324	6,817,843	6,834,537	6,134,149	84,961,339

工房かやの実(就労継続B)



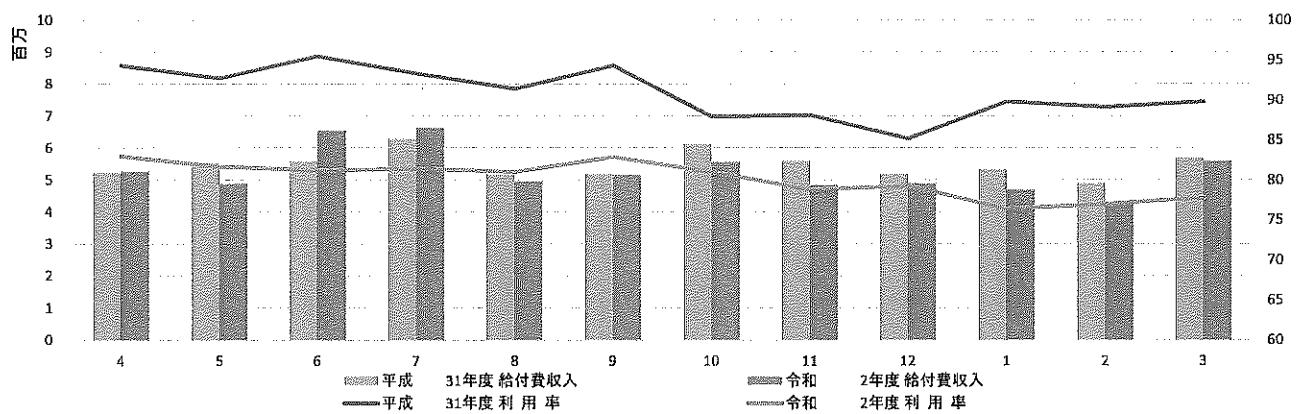
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	25	24	25	27	25	23	26	24	24	23	23	25	294
	利用率	85.3	87.6	91.9	89.3	86.3	90.0	91.0	91.1	93.3	92.5	86.7	90.1	89.6
	給付費収入	6,305,564	6,196,267	6,782,975	7,111,055	8,362,763	6,106,661	7,154,979	6,617,792	6,750,796	6,415,742	5,991,258	6,790,766	78,586,616
令和2年度	事業日数	24	23	25	25	25	22	23	21	23	21	20	25	277
	利用率	80.2	83.3	93.2	90.4	78.0	98.4	104.1	93.5	90.4	92.9	92.4	94.3	90.9
	給付費収入	5,857,882	5,801,844	6,988,345	6,833,999	5,912,880	6,554,525	7,170,863	5,953,470	6,301,929	5,916,379	5,590,821	7,081,271	75,970,008

くるみの木(就労継続B)



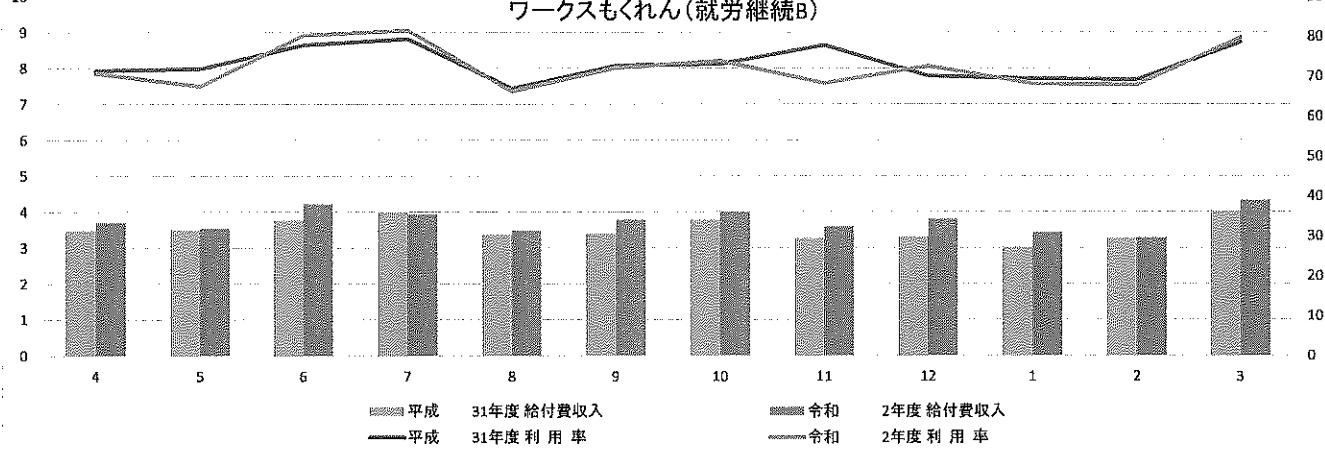
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	23	23	25	26	23	23	25	25	23	22	23	25	286
	利用率	75.1	71.2	67.9	70.7	70.3	72.7	72.1	68.9	72.5	69.9	69	71	70.9
	給付費収入	3,923,103	3,732,715	3,860,714	4,173,727	3,559,347	3,671,195	4,080,788	3,880,178	3,754,582	3,607,702	3,704,083	4,142,173	46,070,305
令和2年度	事業日数	24	18	26	25	20	24	27	23	24	17	22	27	277
	利用率	70.3	82.0	70.8	67.9	65.9	70.7	68.7	68.8	70.5	64.5	71.5	72.0	70.3
	給付費収入	4,205,978	3,682,140	4,607,997	4,245,300	3,293,853	4,237,772	4,646,235	3,967,499	4,233,326	2,738,744	3,904,524	4,674,541	48,437,909

とちのき(生活介護)



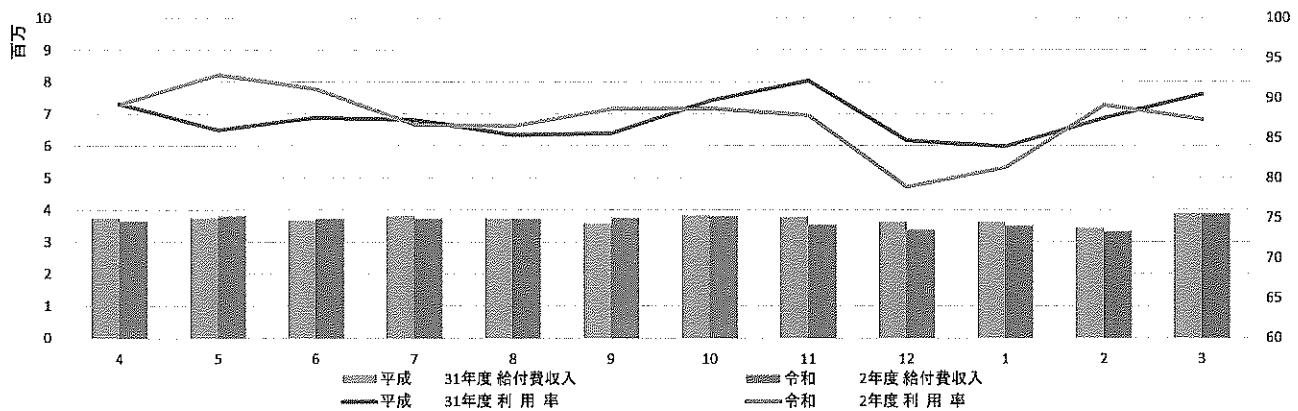
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	19	20	20	23	19	19	23	21	20	20	18	21
	利用率	94.3	92.7	95.5	93.3	91.4	94.3	87.9	88.1	85.2	89.8	89.1	89.8
	給付費収入	5,220,659	5,525,487	5,569,419	6,285,008	5,172,772	5,178,256	6,122,416	5,595,000	5,194,725	6,338,133	4,883,664	5,676,303
令和 2年度	事業日数	21	18	22	23	19	20	22	20	20	18	23	246
	利用率	83.0	81.7	81.2	81.4	81.0	82.9	81.0	78.8	79.3	76.4	77.0	77.8
	給付費収入	5,272,211	4,883,102	6,530,348	6,642,463	4,967,024	5,163,838	6,561,794	4,841,991	4,887,587	4,697,144	4,263,480	5,581,073

ワークスもくれん(就労継続B)



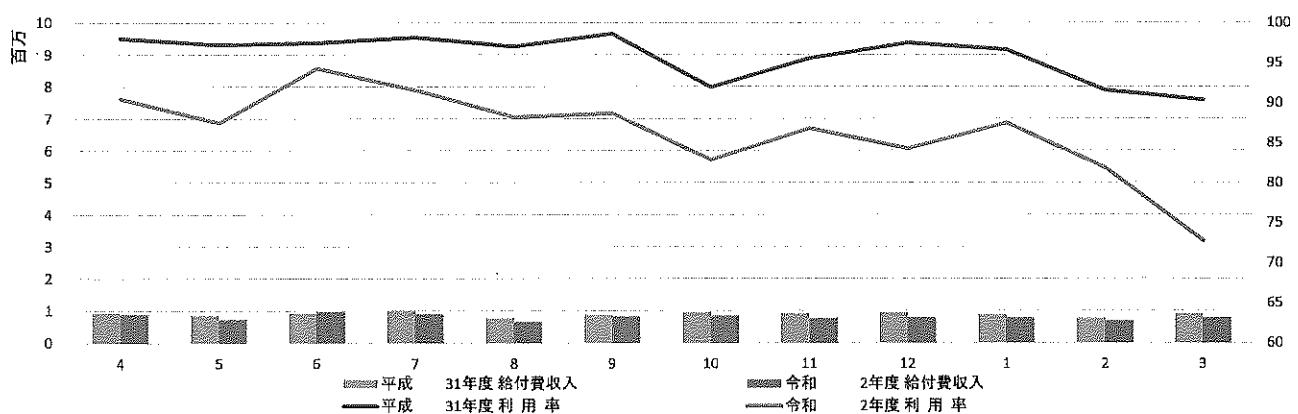
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	26	26	26	27	27	25	27	25	28	26	25	315
	利用率	71.4	71.9	77.9	79.4	67.0	72.7	73.1	77.9	70.2	69.4	69.2	73.2
	給付費収入	3,493,408	3,510,893	3,783,995	4,009,952	3,375,544	3,408,238	3,786,133	3,278,057	3,298,840	3,029,911	3,290,887	42,300,844
令和 2年度	事業日数	26	26	26	26	26	26	27	26	26	25	24	311
	利用率	70.8	67.6	80.4	81.6	66.3	72.1	73.9	68.4	72.6	68.2	67.9	72.5
	給付費収入	3,706,912	3,647,307	4,210,202	3,940,358	3,495,261	3,790,179	4,012,064	3,593,373	3,806,647	3,427,077	3,284,985	4,327,618

コキア(就労継続B)



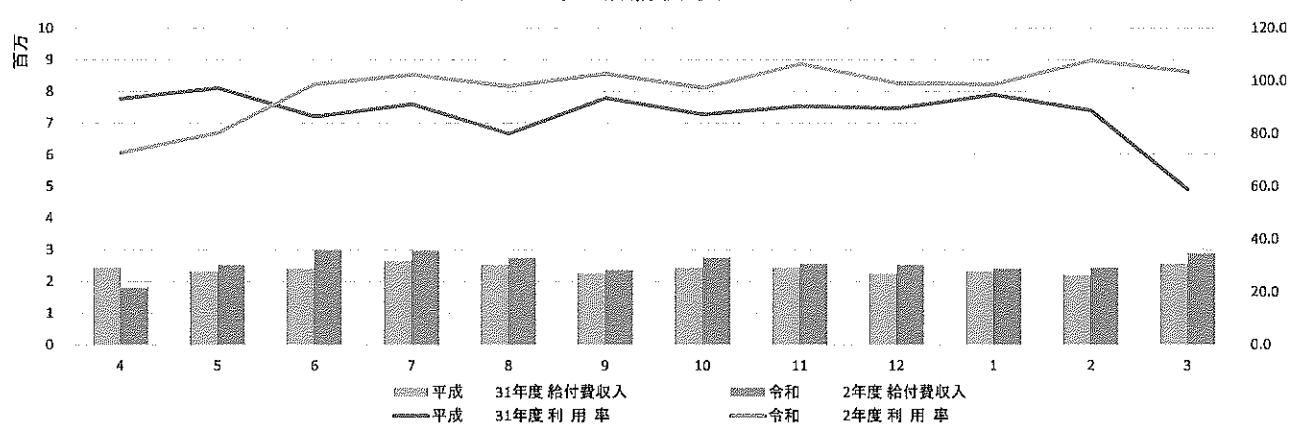
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21	23	270
	利用率	89.3	86.0	87.6	87.3	85.4	85.6	89.7	92.2	84.7	84.0	87.5	90.5	87.5
	給付費収入	3,737,995	3,768,725	3,669,668	3,815,783	3,736,205	3,575,944	3,842,406	3,791,458	3,636,378	3,615,315	3,436,309	3,889,132	44,515,318
令和2年度	事業日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
	利用率	89.2	92.9	91.1	86.7	86.5	88.6	88.7	87.8	78.9	81.3	89.1	87.3	87.3
	給付費収入	3,669,080	3,815,955	3,741,149	3,735,604	3,728,384	3,768,850	3,818,295	3,549,933	3,397,383	3,516,533	3,340,847	3,893,402	43,976,415

コキア(就労継続A)



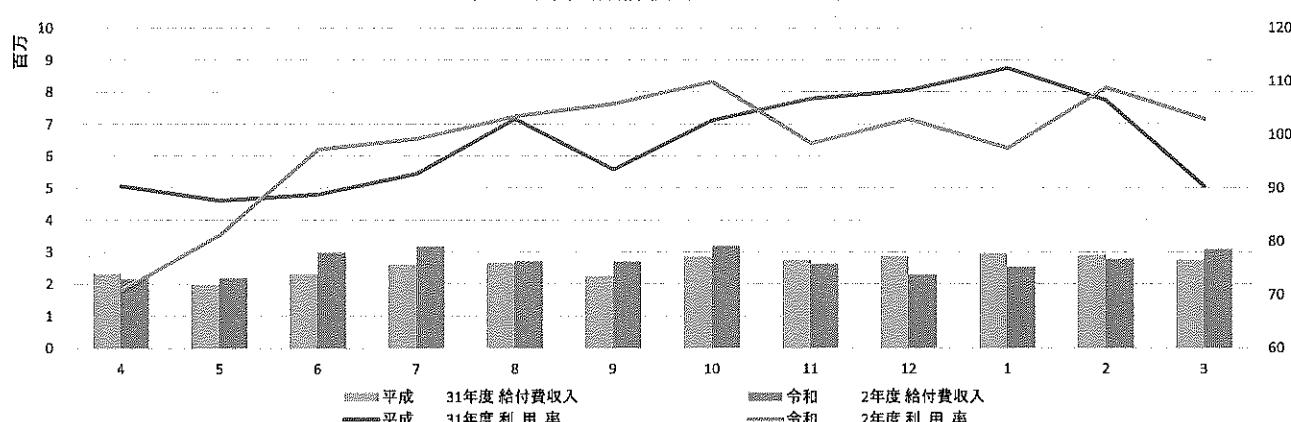
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	20	19	20	22	17	19	22	20	20	19	18	21	237
	利用率	98.1	97.3	97.5	98.2	97.1	98.7	92.0	95.6	97.5	96.7	91.6	90.4	95.9
	給付費収入	927,360	868,320	921,456	1,021,909	779,727	886,032	965,878	912,211	952,000	876,392	787,002	906,269	10,804,556
令和2年度	事業日数	21	18	22	21	16	20	22	19	20	19	18	23	239
	利用率	90.5	87.5	94.3	91.6	88.2	88.7	82.9	86.8	84.3	87.5	81.9	72.8	86.4
	給付費収入	906,269	751,226	989,687	918,190	673,728	846,646	870,447	786,962	804,914	792,917	703,517	798,907	9,843,410

おり～ぶ上野山(放課後等デイサービス)

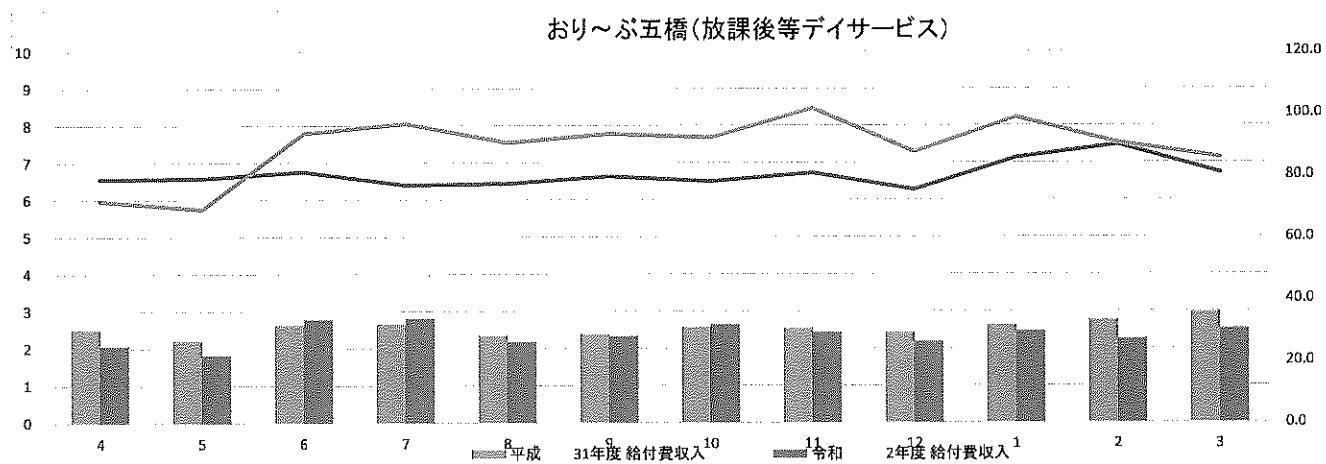


		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	24	22	25	26	26	23	26	24	24	23	23	25	291
	利用率	93.3	97.3	86.4	91.2	80.0	93.5	87.3	90.4	89.6	94.8	88.7	58.8	87.6
	給付費収入	2,439,524	2,307,564	2,409,006	2,658,884	2,518,543	2,248,802	2,438,114	2,441,284	2,236,946	2,307,743	2,193,234	2,540,598	28,740,242
令和 2年度	事業日数	25	23	26	25	25	22	27	23	24	23	22	26	291
	利用率	72.8	80.4	98.8	102.4	98.0	102.7	97.4	106.5	99.2	98.7	107.7	103.5	97.3
	給付費収入	1,804,171	2,513,407	2,887,887	2,970,941	2,747,526	2,358,208	2,748,501	2,556,068	2,618,110	2,408,880	2,448,523	2,885,054	30,946,056

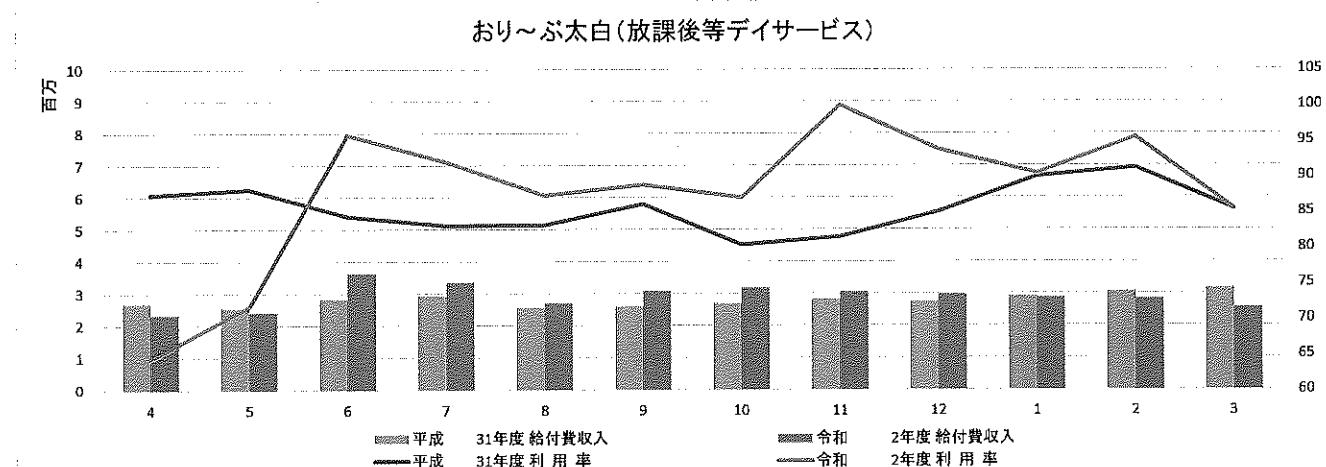
おり～ぶ鈎取(放課後等デイサービス)



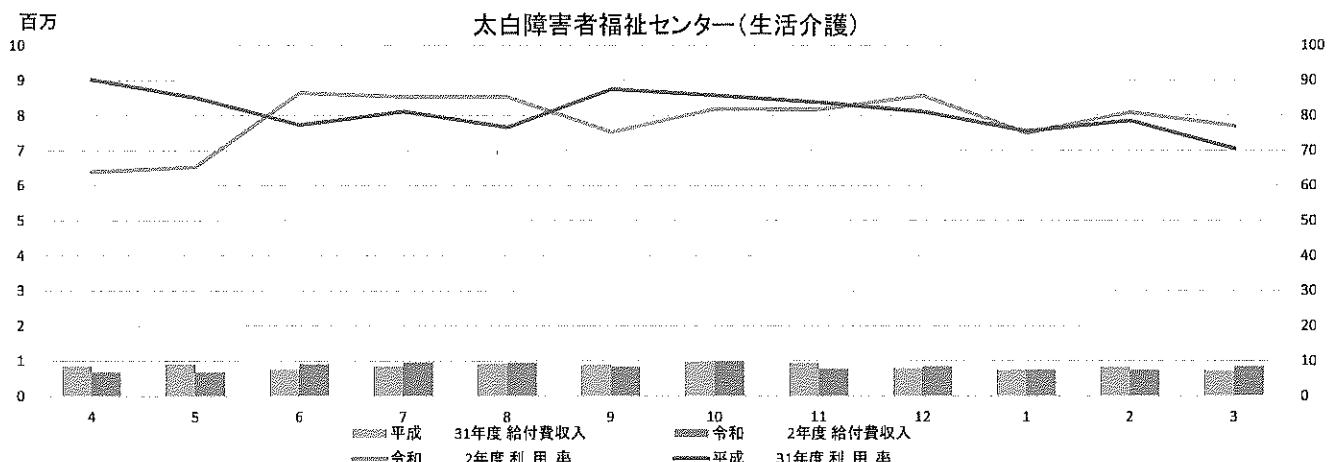
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	24	22	25	26	23	23	26	24	24	24	25	26	292
	利用率	90.4	87.7	88.8	92.7	103.0	93.5	102.7	106.7	108.3	112.5	106.4	90.4	98.6
	給付費収入	2,324,300	1,996,998	2,323,300	2,614,140	2,652,445	2,254,231	2,853,377	2,747,273	2,871,089	2,967,815	2,908,434	2,758,687	31,272,089
令和 2年度	事業日数	26	23	26	27	23	24	27	25	21	24	24	27	297
	利用率	70.8	81.3	97.3	99.3	103.5	105.8	110.0	98.4	102.9	97.5	108.8	103.0	98.2
	給付費収入	2,158,215	2,197,042	2,987,364	3,191,773	2,714,586	2,706,149	3,190,029	2,636,837	2,288,493	2,541,435	2,791,373	3,093,773	32,497,069



		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	24	22	25	26	22	23	25	24	24	23	23	25	286
	利用率	78.8	79.1	81.2	76.9	77.3	79.6	78.0	80.8	75.4	85.7	90.0	80.8	80.3
	給付費収入	2,618,656	2,221,492	2,645,551	2,649,300	2,344,840	2,387,130	2,582,980	2,552,349	2,432,912	2,616,875	2,754,365	2,977,727	30,684,197
令和 2年度	事業日数	25	23	26	25	22	24	27	23	24	23	22	26	290
	利用率	71.6	69.1	93.5	96.8	90.5	93.3	92.2	101.7	87.5	98.7	90.4	85.6	89.2
	給付費収入	2,078,308	1,033,825	2,766,515	2,822,714	2,104,050	2,341,539	2,653,401	2,446,618	2,198,583	2,476,432	2,259,780	2,541,730	28,625,495

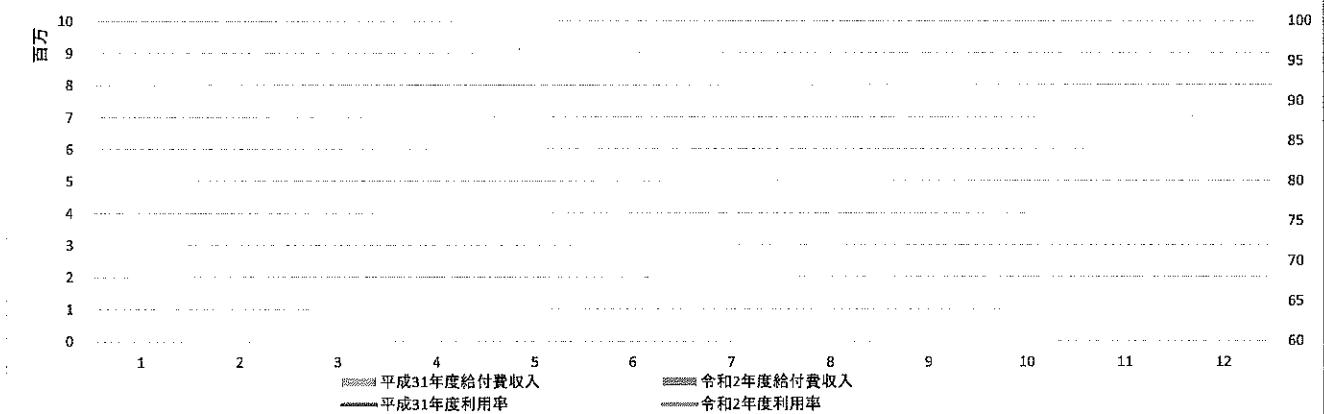


		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	23	22	25	26	22	23	25	26	24	24	25	26	291
	利用率	87.4	88.2	84.4	83.1	83.2	86.1	80.4	81.5	85.0	90.0	91.2	85.4	85.5
	給付費収入	2,703,097	2,548,251	2,843,939	2,939,414	2,671,418	2,601,237	2,698,958	2,817,467	2,759,374	2,917,482	3,073,180	3,173,336	33,647,113
令和 2年度	事業日数	25	23	26	25	22	26	27	23	24	23	22	26	292
	利用率	64.4	71.7	95.8	92.0	87.3	88.8	87.0	100.0	93.8	90.4	95.5	85.4	87.7
	給付費収入	2,353,169	2,425,964	3,652,927	3,374,098	2,717,591	3,088,386	3,182,885	3,069,914	2,981,111	2,875,763	2,838,374	2,579,082	35,139,264



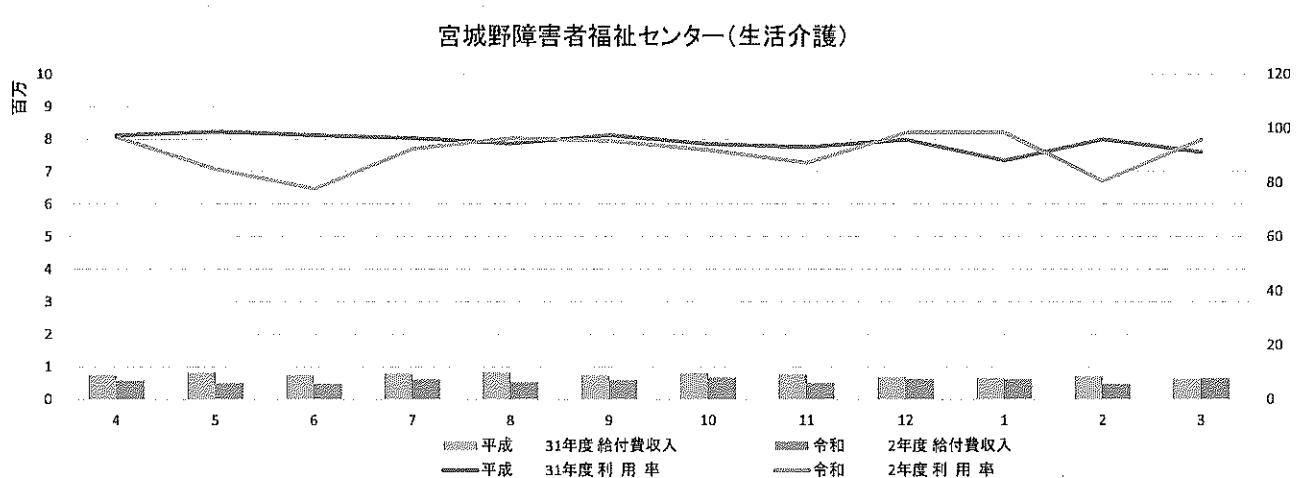
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	21	23	21	22	23	20	22	22	19	19	20	252
	利用率	90.3	85.1	77.2	81.2	76.6	87.5	85.8	83.8	81.1	75.6	78.6	81.1
	給付費収入	850,541	905,678	749,018	837,588	909,878	882,386	983,481	938,184	791,306	738,625	824,088	718,716
令和2年度	事業日数	21	21	21	22	21	21	23	19	20	20	18	22
	利用率	64.0	65.3	86.5	85.4	85.3	75.2	82.0	81.8	85.7	75.0	81.0	78.7
	給付費収入	688,000	896,422	911,069	970,280	946,181	838,404	997,721	775,308	845,695	748,633	741,802	839,713

太白障害者福祉センター(生活訓練)



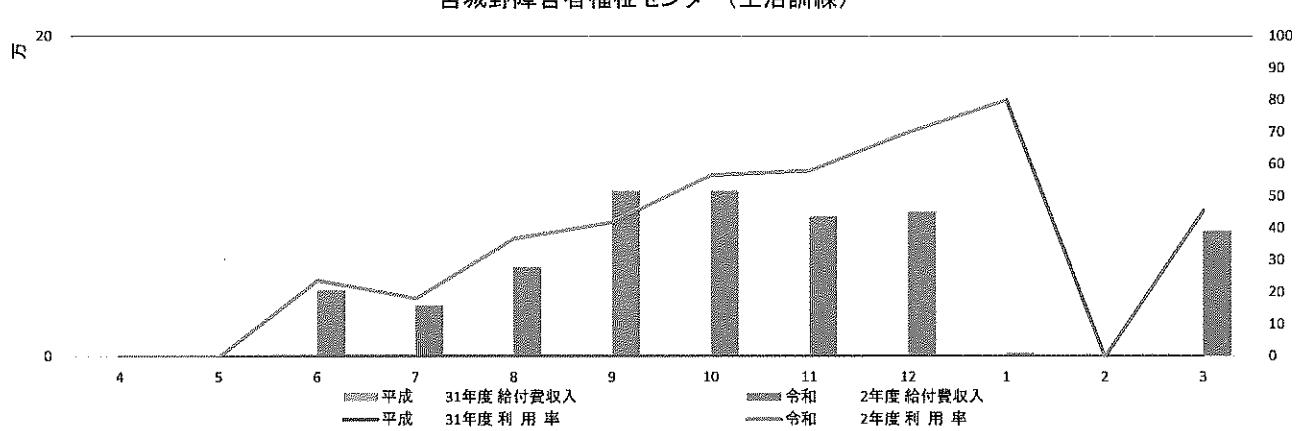
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	給付費収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	事業日数	21	21	21	22	21	21	23	19	20	20	18	22
	利用率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	給付費収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

宮城野障害者福祉センター(生活介護)



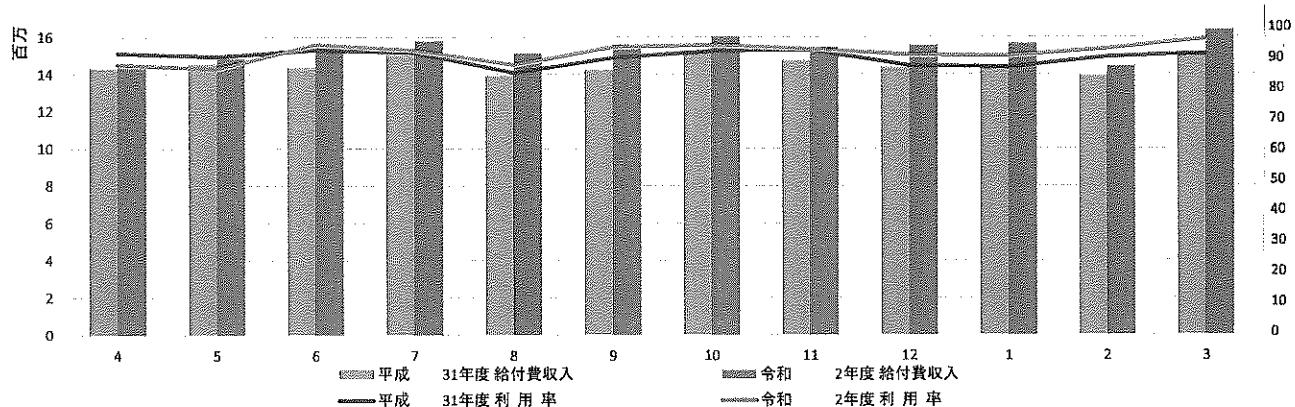
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	21	23	21	22	23	20	22	22	19	19	20	20	252
	利用率	97.5	98.8	97.5	96.5	94.5	97.5	94.3	83.1	95.9	88.2	96.0	91.2	95.1
	給付費収入	744,343	823,291	747,943	793,871	820,604	738,325	810,294	788,114	699,615	665,603	715,856	639,524	8,985,383
令和2年度	事業日数	21	21	21	22	19	21	23	19	20	20	18	22	247
	利用率	96.8	85.0	77.8	92.6	96.5	95.4	92.1	87.3	98.5	98.5	80.6	95.8	91.4
	給付費収入	680,317	496,015	479,079	815,652	531,220	594,725	674,368	520,403	624,682	621,252	486,580	653,668	6,884,939

宮城野障害者福祉センター(生活訓練)



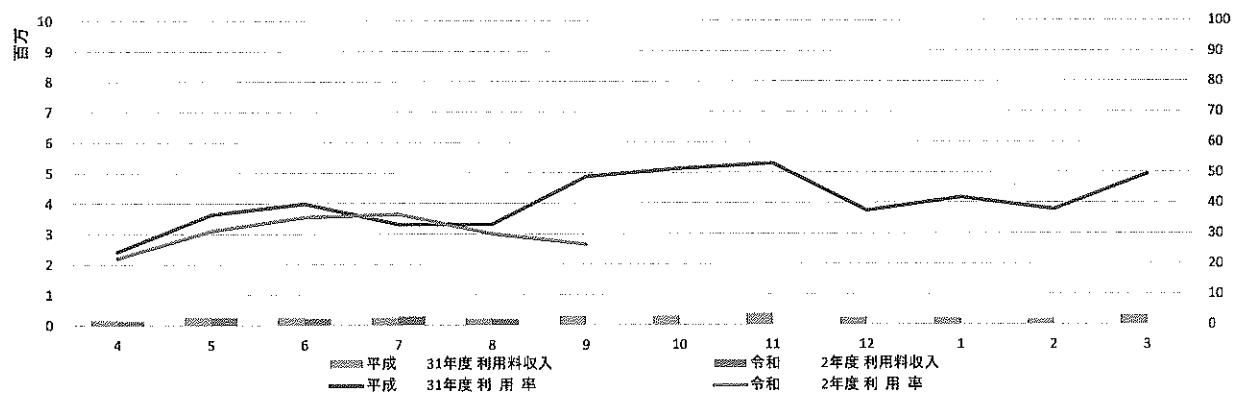
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	21	23	21	22	23	20	22	22	19	19	20	20	252
	利用率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	給付費収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	事業日数	21	21	21	22	19	21	23	19	20	20	18	22	247
	利用率	0.0	0.0	23.8	18.1	36.8	41.9	56.5	57.9	70.0	0.0	0.0	45.5	29.2
	給付費収入	0	0	41,400	31,764	55,579	103,230	103,230	87,343	90,098	2,132	0	78,039	592,813

ふきのとう(包括型共同生活援助)



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	29	31	366
	利用率	89%	88%	90%	89%	83%	88%	90%	90%	85%	85%	88%	88%
	給付費収入	14,327,759	14,589,432	14,356,547	15,050,613	13,934,953	14,227,150	15,258,584	14,750,905	14,389,297	14,409,768	13,929,435	15,083,058
令和2年度	事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	28	31	365
	利用率	86%	84%	92%	90%	85%	91%	92%	90%	89%	88%	91%	89%
	給付費収入	13,894,478	14,300,084	15,025,113	15,222,869	14,570,897	15,012,327	15,476,877	14,828,047	14,969,701	15,068,835	13,847,485	15,808,279

サポートはぎ(レスパイト)



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数(3床/日)	90	93	90	93	93	90	93	90	93	87	93	1,098
	利用率	24.4	36.6	40.0	33.3	33.3	48.9	51.6	53.3	37.6	41.9	37.9	40.7
	利用料収入	190,100	294,500	269,800	275,800	236,050	306,300	305,900	390,400	244,350	230,050	198,750	311,650
令和2年度	事業日数(3床/日)	90	93	90	93	93	90						549
	利用率	22.2	31.1	35.6	36.6	30.1	26.7						30.4
	利用料収入	163,902	271,880	239,908	304,108	213,418	245,000						1,438,216

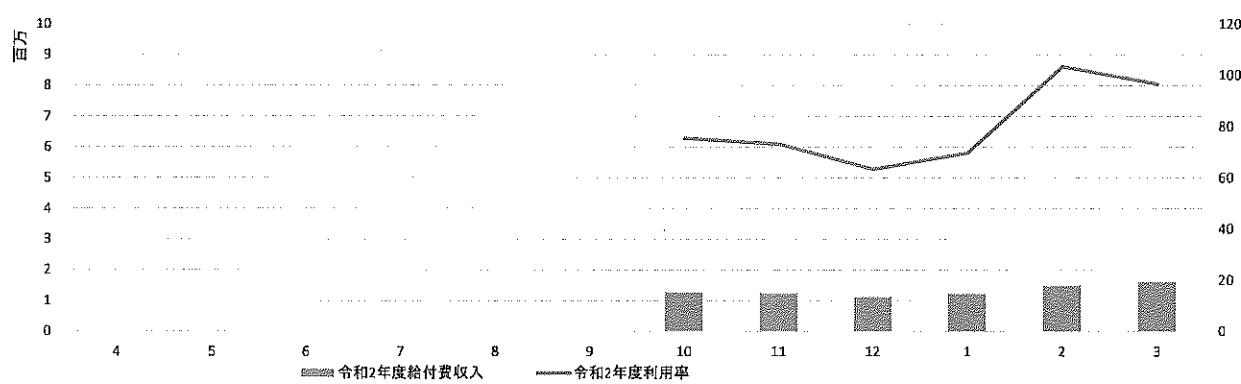
* 上記データについて、事業日数及び利用率は宿泊介護のみの実績となる。日中介護(送迎含む)分は除く。

* 事業日数:各月日数×3床(宿泊受入可能数)で算出

* 利用料については、宿泊介護、日中介護、送迎に伴う各利用者の自己負担金である。(市の事業補助金…H31:13,776,250円、R2:7,963,350)

※令和2年度分については、登録料も含む

サポートはぎ(日中一時支援)

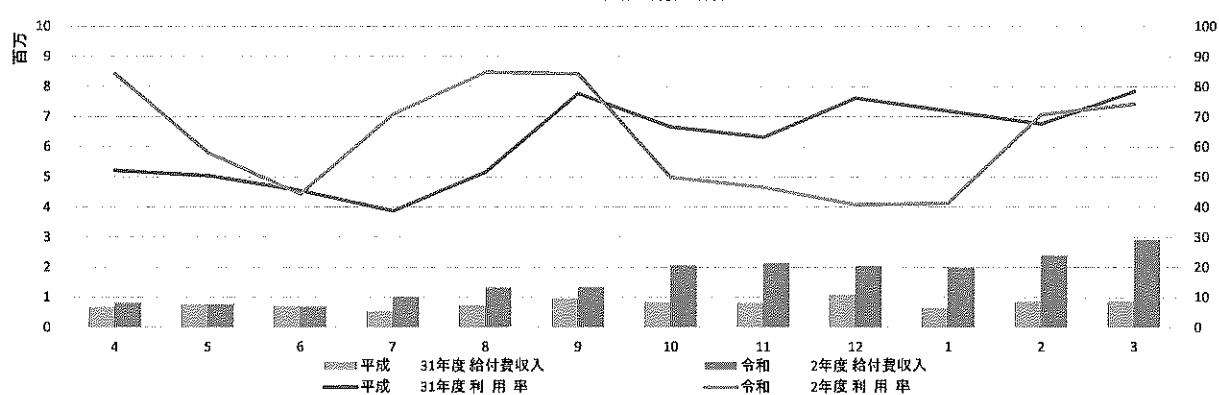


	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成31年度	事業日数 (6名/日)												0
	利 用 率												0.0
	給付費収入												0
令和2年度	事業日数 (6名/日)						186	180	186	186	188	186	1,092
	利 用 率						75.6	73.3	63.4	69.9	103.6	96.8	80.4
	給付費収入						1,283,473	1,265,401	1,141,952	1,248,173	1,507,499	1,630,676	8,067,074

*事業日数算出:各月日数×6名(利用定員数)=合計(全利用数) ※ただし、単独日中一時支援利用定員6と短期入所付随の日中一時支援利用定員6は別カウントです。

*利用率算出:各月利用実数を基に算出

サポートはぎ(短期入所)

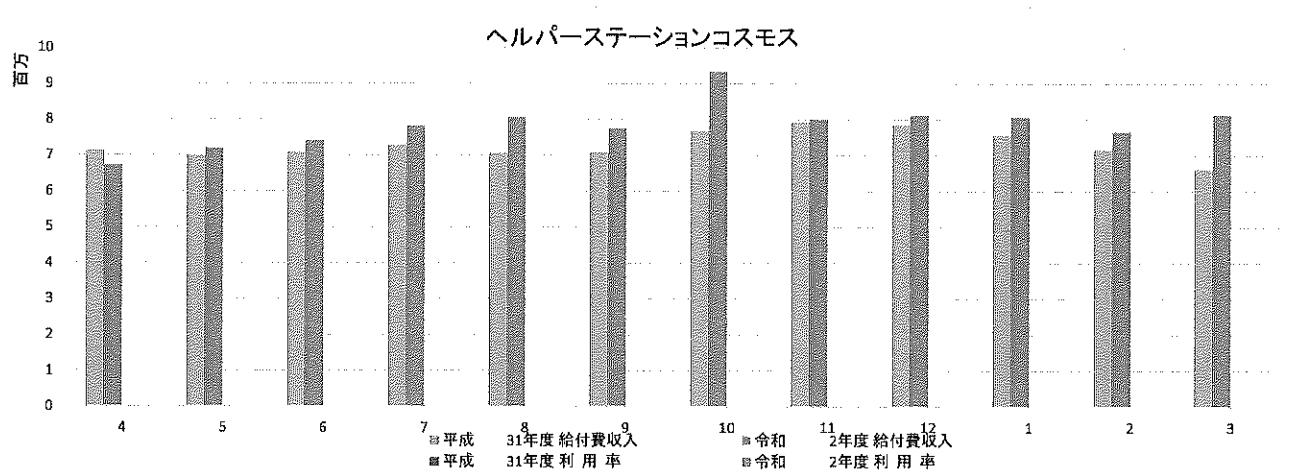


	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
平成31年度	事業日数 (3床/日)	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	87	93	1,098
	利 用 率	52.2	50.5	45.6	38.7	51.6	77.8	66.7	63.3	76.3	72.0	67.8	78.5	61.8
	給付費収入	687,113	778,832	730,563	559,468	747,107	974,928	853,234	835,448	1,106,290	797,281	747,354	817,776	9,635,394
令和2年度	事業日数	90	93	90	93	93	90	186	180	186	186	186	186	1,641
	利 用 率	84.4	58.1	44.4	71.0	84.9	84.4	50.0	46.7	40.9	41.4	70.8	74.3	62.6
	給付費収入	820,849	783,905	709,273	1,026,527	1,325,370	1,340,559	2,065,690	2,139,834	2,040,192	1,997,959	2,400,440	2,915,781	19,566,379

*事業日数算出:各月日数×3床(宿泊定員数)=合計(全床数) ※R2年10月以降は定員増(3⇒6)に変更

*利用率算出:各月宿泊実数を基に算出 ※R2年10月以降は定員増(3⇒6)にて算出

*給付費収入:R2年10月以降は1:1加算給付金も合算



		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 31年度	事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	29	31	365
	利用率													0.0
	給付費収入	7,115,409	6,989,753	7,081,846	7,268,724	7,061,606	7,069,942	7,677,132	7,933,539	7,839,142	7,561,088	7,147,822	6,616,916	87,352,919
令和 2年度	事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	利用率													0.0
	給付費収入	6,724,619	7,191,446	7,411,584	7,824,431	8,071,730	7,748,943	9,348,713	8,017,517	8,124,680	8,070,224	7,655,323	8,136,578	94,325,686

事業報告の附属明細書

令和2年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会
理事長 千葉 厚子

監査報告書

令和3年5月21日

社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会

理事長 千葉 厚子 殿

監事 熊谷道人

監事 左子 清典

私たち監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方針により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討しました。

2 監査の結果

（1）事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（2）計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上